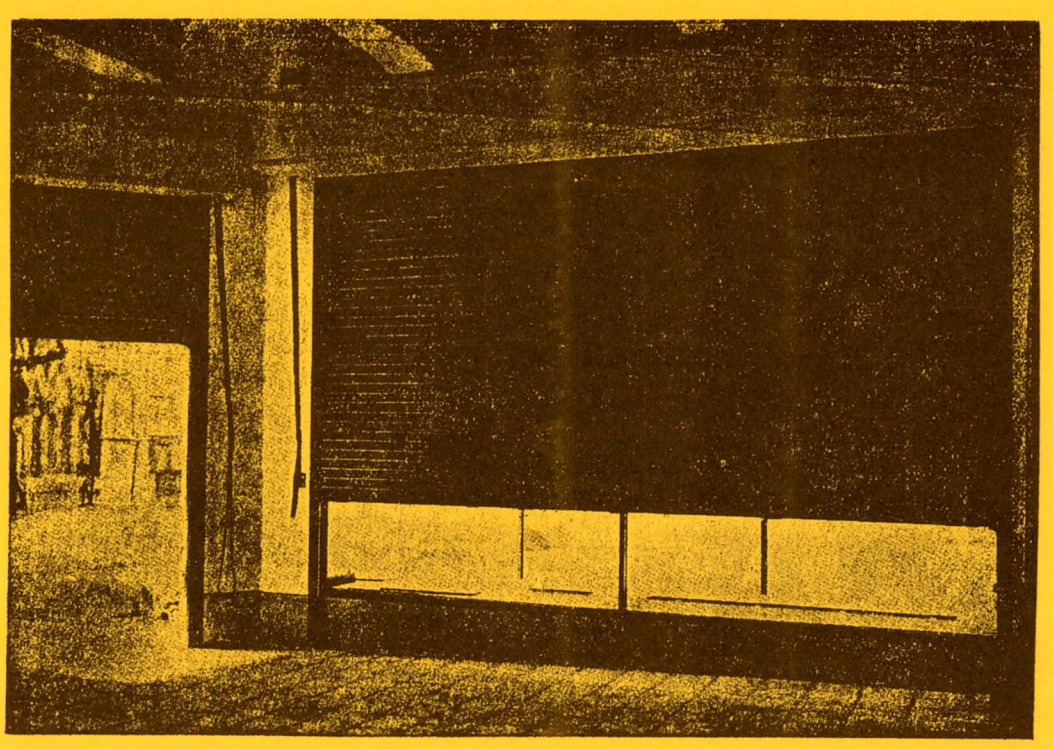
大正六年八月
昭和二年五月

# 建築と社會

第拾輯　第五號

日本建築協會

昭和二年五月一日



Oosaka Ebisubashi Maruman Building
Sekkei to Sekoo: Kimura Koomusyo
*Shutter:* Mado Irikuti Subete
N.K.B. Sotohimobiki.

Ookisa 4m × 5m Omosa 400 k.g. aru Tobira mo Himo wo 1 metre tagureba Tobira mo 1 metre surusuruto zoosanaku aketate dekimasu.

**Goomei Kwaisya Hanken Seisakusyo.**
Oosakasi Konohanaku Okizima Kitanotyoo 11.
DENWA: TOSABORI 4020.

**Dairiten** {**Mitui Bussan Kabusiki Kwaisya.**
**Sanki Koogyoo Kabusiki Kwaisya.**

# 懸賞論文募集

（一）課　題　**將來の日本の住居**

問題に就いての取材は自由にして、縦んば空想的事柄に關するも差支なし。但し日本の住居を中心とすることを要す。

（二）枚　數　原稿の枚數は筆者の自由なるも、約三十枚見當を可とす。但し一行二十七字にして、一枚十一行詰。

（三）締　切　昭和二年六月三十日限。但し期限後と雖、審査中は當日の郵便消印あるものに限り受附く。

（四）發　表　「建築と社會」第拾輯第九號にて發表（昭和二年九月）

（五）賞　金　壹等　一人　壹百圓　貳等　一人　五拾圓　參等　一人　參拾圓

（六）審査員　神戸高等工業學校教授東京美術學校教授工學士古宇田實氏。早稻田大學講師工學士安井武雄氏。京都高等工藝學校教授工學士本野精吾氏。

（七）其他の條件

（1）原稿には本名を記載せずして、適宜の符號を附し、別に半紙四ツ切へその符合と住所氏名を記載せるものを封書にて原稿と同送を要す。

（2）挿繪を用ゆること妨げなし。

（3）應募したる原稿は一切返却せず。その著作權は當協會の所有とす。

（4）原稿の字體は明瞭に記載を要す。

社團法人　**日本建築協會**

## 口繪

第一銀行大阪支店 (I) 建物外觀
(II) 營業室
(III) 各階平面圖

◇◇◇

× 「若し汝彼の紀念を求むるならば」……一
× 大大阪を一瞥して (下)……會員 松室重光…二
× 劇場火災に就いて……會員 菅野久一…二
× 育兒上より觀たる住宅……醫學士 大坪德一…三
× 滅び行く都市の樹木……會員 方米治郎…三六

× 混凝土施行法（下）……會員　下浦光衛…一六

× 建築の藝術……田中國益…四一

× 新居漫談……會員　津田鑿…四五

× 吾家を建てるには（四）……五五

建築材料

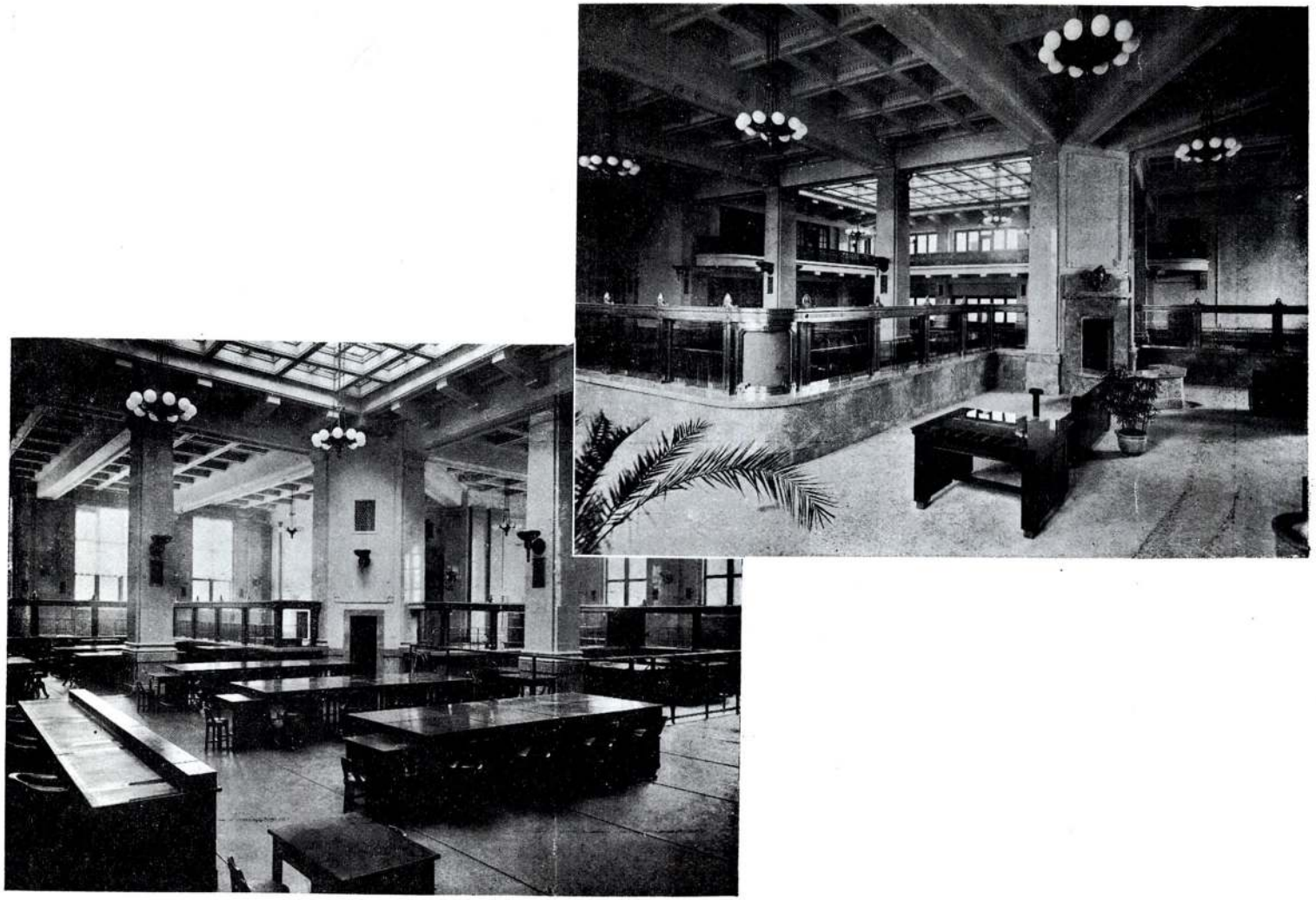
新塗料　バイロキシリンラッカー……工學士　大島重義…五〇

× 第一銀行大阪支店工事概要……六〇

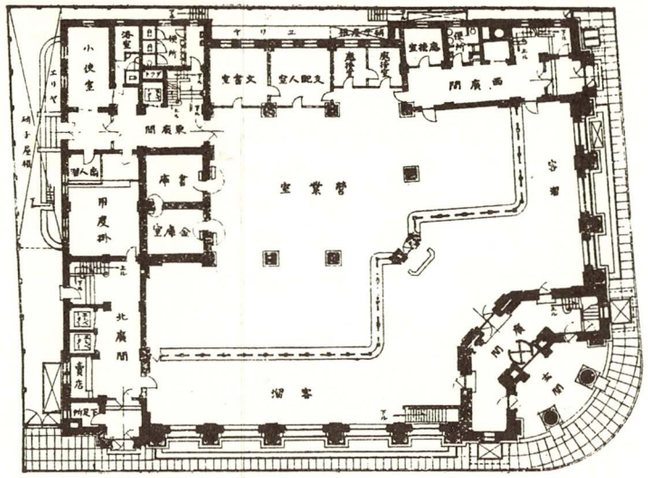
× 日本建築協會々報……



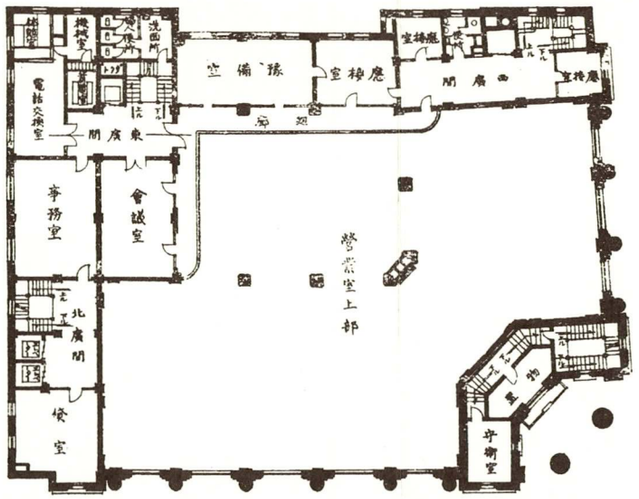
第一銀行大阪支店



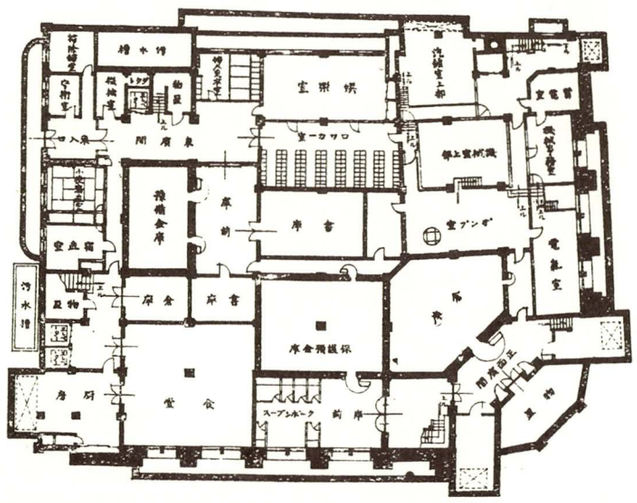
第一銀行大阪支店營業室



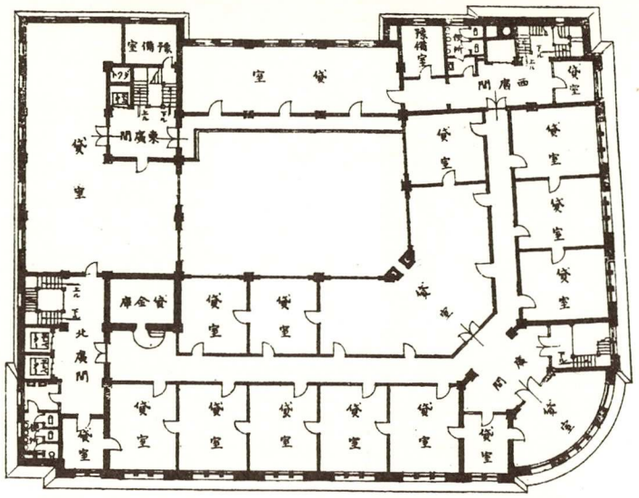
圖面平階壹



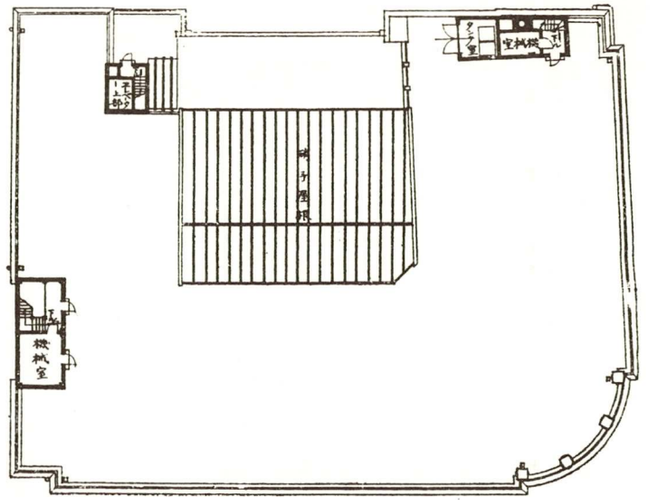
圖面平階貳



圖面平下地

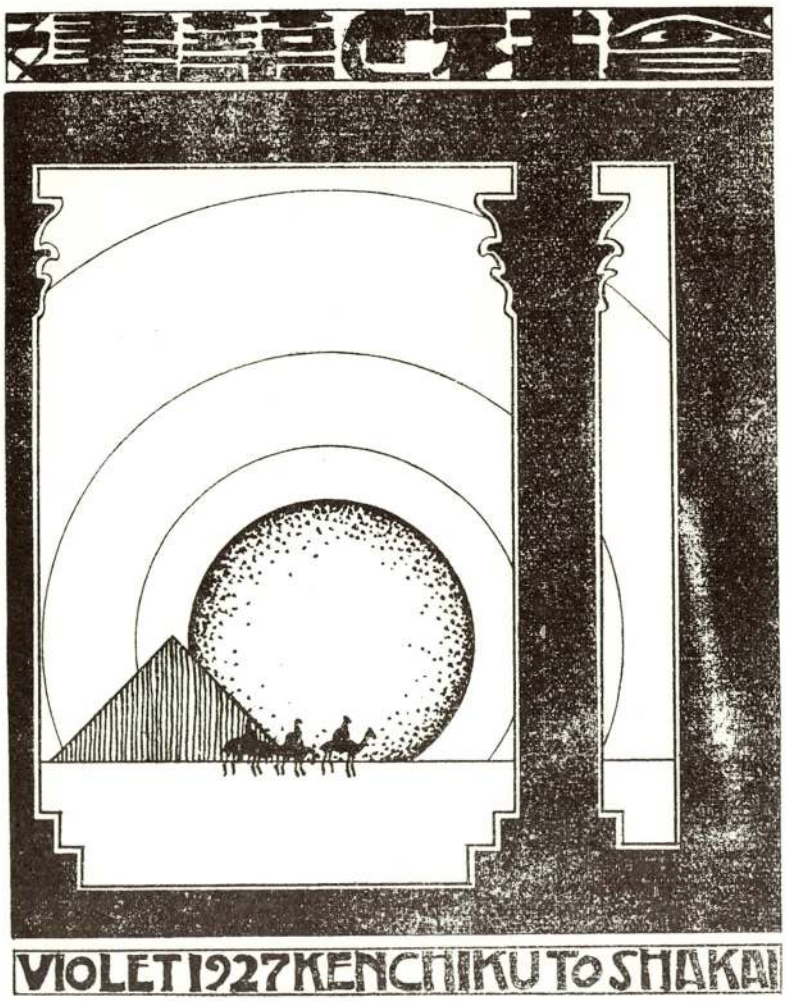


圖面平階四



圖面平上屋

（第一銀行大阪支店）




Si monumentum
reguiris, circumspis
（若し汝彼の紀念を求むるならば見まわせよ）

不世出の大建築家クリストファ・レエンの碑銘である。彼れは曾て佛蘭西の建築を視察し歸りて曰く「確に建築は永遠の屬性を有すべき筈のものである。故に、これは新奇なる風姿を造り出すを不可能とする唯一のものである」と。永遠のものを造り出す建築家は、自らを永遠へ造る者である。而して、人若しその存在を知らんとせば「見まわせよ」。……江村



# 大大阪を一瞥して（下）

本輯第四號より續く

會員　松室重光

## 大大阪は必要か

大阪市が其隣接せる町村を併合し、其人口と田畑とを加算して、其人口に於て一躍何十萬其面積に於て同じく何百萬坪を增加し、將來其田畑が悉く市街となり人を容れて東洋第一の大都會となると云ふことを誇るは獲らぬ狸の皮算用で、果して其將來に於て實現の確實性を持つているものであらうか

現在に於て其隣接町村を併す時は慥かにそれだけの人口を增加するが、其增加せられた民衆は直ちに商工業的な都市民となるのではなゐ。其或範圍のものは依然たる農民で農耕に從事して居る。勿論此農耕地は次第に縮少せられて街區となり家屋敷となつて、結局現住の農民は他に移轉するが然らざれば其職業を更へて止まることゝなるであらう。

故に或年限の後に於ては現在の人員增加率や家屋の建設數より打算推定して何年かの後には人口何百萬の大大阪となり世界で何番東洋第一となり得ると云ふのは極めて平凡なる眞理であり事實であり何の疑を容るゝ餘地のなゐことであらうたゞ此平凡なる眞理に疑ひを持つのは我輩である。都市に人間の流入するのは果して自然にして必至の勢なるか。或は又人爲的に宣傳の藥がきき過ぎた結果であつて一時的暫定的の現象ではないか。

村落より離れて都市に人の集中するのは村落民の無智より來るのが其一つである。即ち都市の表面的な享樂文化施設に極めて淡い憧憬を以て、何等深い考へなくして出て來るのがそれである。

村落と都市との間に於て其政治的施設萬般の公平を缺いていることが其二つである。現時政治的の大小の中心は必ず都會にある。郡役所の廢止によりて村落には警察署と郵便局以

外他の官衙を持たぬことゝなつた。從つて官公衙に用を帶びた者は必ず足を都會に運ばねばならぬ、それは洵に不便である。村落に於ても都會に在りても其民衆の政費負擔に大した差異懸隔のないのが其三である。

負擔に於て大差なく、しかも其文化的施設に關しては著しき距離がある。同じ程度の文化享受が出來ないで負擔のみが同じ樣な村落に何人か能く其不便を忍びて居住を我慢するであらうか。

都市に遷りて村落を棄つるは此等の事情よりすれば當然である。然り全く當然ではあるが決して自然ではない。

斯くて村落の疲弊は生じ、荒廢は起り、居住の不安となり鄉土の不健を致して國家衰頽の因となる。即ち農村改善の聲は起り、行政の整理更改は叫ばれ、都市と村落との文化差異を可成的少なくして而して人の歸農を奬めんとしてゐる。既に現在に於ても都市膨脹の半面に於て此現象より來る病症救治の爲に直接間接に發生因緣する政治的不公平矯正の運動が起つてゐる。

政治的不公平なるものゝうち、其最も惡しくして且つ弊害の多く、其禍根の深く樹えつけられた敎育の制度に於ても近來大分其改廢の呼聲が高い。

即ち何人をも悉く大學の卒業生となし學士となして都市の文化人たらしめんとする現時の劃一敎育は其打破改善によりて村落民が其眞の生活に覺醒し、都市よりも村落に於てのみ最も多く自治政治の利益を享け最も多く自然の恩惠に浴し最も少なき負擔の上に比較的多くの文化施設を享くることが出來ることを知る時期が來たら、多くの人々は寧ろ村落の方を愛好して之に移り住むであらう。

此事は決して夢ではない。空想でもない、期して得られることである。村落の文化的改善は都市のそれよりも遙かに簡單であるから一たび之に手が染められたならば其實現は甚だ容易であらう。爲政者學者經世家が一たび健康國家保持の見地より眼を村落の上に轉じたならば立國の基礎としての村落改善の事業は必ず研究せられて且つ直ちに實行せらるゝであらう。

國家生活の集團として都市と村落との關係が明確に認識せらるゝ時は恐らく大都市集中の愚策が覺られやう。現狀の如き都市偏倚の政治が國家を危ふくする事は具眼者ならずとも知り得らるゝことである。而して大都市としての町村併合耕地縮少の結果が甚だ好ましくない現象を呈するが知らるゝ時大都市の經營は其方向を轉換せねばならぬことゝなるのである。

之を外國の事例に徵するも世界の富强第一となれる米國に於ても紐育のみに其富と力とを集中してはゐない。英國に於ても倫敦のみが大都市ではない、獨乙に至つては伯林以外聯邦の中小都市が全國に廣く分布せられて其生產工業的にそれ〴〵其地方の資源を開發し國家の繁榮富强に寄與して居る。

佛蘭西のみは一寸其例外にある。此國には所謂十大都市はある。其一つである『ストラスブール』の市が普佛戰爭以來久しく獨乙に分割せられて『コンコルド』廣場の其象徵の女神の像が永く喪章を纏つてゐた其歷史上の大汚點を漸く今度の大戰で雪くことが出來た位に地方の大都市も其名と位置とは重しとせられたのであるが、此重大なる意義の存するにも係ら

ず佛蘭西は餘り多く巴里に其國家的の力を集中し過ぎた爲に巴里其物は世界物な大都市となつて世界の民族と文化の粹を集め眞に代表的世界第一都市の觀を呈してゐるが佛蘭西其物が巴里であるかの如き偏倚的發達の結果として、今度の戰爭に於ても巴里の運命其物が佛蘭西の興亡に關する樣な極めて危險な狀態にあつた。

此點より觀み る時は我日本に於て其資源を大阪にのみ集中する樣な都市政策を樹つることは大なる誤謬であつて甚だ危險でありと謂はねばならぬ。

左まれ大阪は猶々發展するであらふ、生駒山を後庭となし大阪灣より淡路島を前栽として此間に架橋せらるゝ樣な時代も來るであらう??

村落への歸住は我輩の最も強く勸奬する所であるが、たゞ村落がどれだけの人を容れ得て其滿足なる生活の根據地たり得るや否や大に考へねばならぬ點がある。

毎年七十萬以上も增殖する人口は村落の事情が今日の樣な狀態に置かるゝ限りは到底悉く之を抱擁することの出來ないのは明瞭である。

恐らく其山林も田畑もまだ〳〵其生產の資源としての力を增加してゆくであらう。併しながら適當なる經營によりて山林が其富に何億圓の歲入を加ふることがあつても、之が爲には餘り多くの人手を要しないであらう。又農村には其作物の改良によりて大に收獲生產の量を殖やし得るであらうが、第一に其地積に利用の限界があるから如何に開墾助成を試みても、又如何に集約的に之を利用しても、或は又如何に機械の力を借りて見るも其收獲を今日の二倍三倍たらしめ得られるとは思はれぬであらう。若し農村が其整理を完全にし、其水利と排水等の天惠災害に對して人力の限りの設備をなし而して最も多く機械の力を借りて人力を省くことを得るならば、恐らく農村には現在以上多くの人を要することはないであらう。

であるから農村に用のない人達が都市に流れ出ることは到底防止することが出來ぬと共に、農村に如何に歸住を奬勵して見るも其實効を期し難いであらう。

斯くて都市が其人口を增加しゆくは必然であらうが、都市と雖も無際限に人を抱擁し得られぬのは明白であるから結局其過剩の人口の捌け口を海外に求むるのが必然の數であり、殖民問題に關する根本政策を樹立するのが國家の最大急務となるのである。

都市の膨脹發展は或程度迄は國力的に行はるゝことであるが、大阪の如き大都市の膨脹は國外的に於て大なる關係因緣の存するものと見るべきであらう。

大阪が若し大に發展膨脹するとせば其原因は恐らく其對外商工業によることゝ思ふが其對外の通商貿易が猶無限に發達しゆくや否や、そこに我等は充分考慮を拂ふ必要がありと信ずる。

對外通商の大得意なる支那が何時迄今の樣な混亂と鬪爭とを續けてゆくであらうか。支那が眞に統一せられて其商工業に目覺め、自ら其生活と需給の道を講ずる時が來らぬであらうか。恐らく何人も之を證言はすまい。

若し何等かの機運熟して其國內的の紛爭が罷み其日支の經濟的關係が改善融化せらるゝ時ともあらば、支那に於ける紡

績紡織の業などは今日よりも多く且つ廣く我國の資本によりて起されるであらう。而して彼自身も又之を起すであらう。

支那が日本の此種類の會社の自國の領土内に存するものに對して『ストライキ』や『ボイコット』などでいぢめ拔いて、其何の實効も伴はぬ表面的なる排外氣分の極めて淡い滿足から反省せぬ間に於てこそ我國の或種の事業は其位置の安定を保ち得らるゝのであるが、若しも彼にして其安價なる勞働者と其勤勉と、其自給し得られて猶餘りある資源の開發とによりて種々なる生産工業の彼の領土内に發生勃興を見る時至らば我大阪は其打擊と影響とを蒙ることなくして過ぎゆけるであらうか。

曾て英國の工業は獨乙の爲に始んど正に壓倒せられんとした。それが世界戰の大原因の一となつたことから考へ、而して此大戰に勝つた英國の商工業が今日も猶敗殘の獨乙の爲に兎もすれば脅威されがちにある事などに想倒する時　日本と支那との此方面の關係はよく〳〵深く考慮して置くの要がある。

即ち大大阪の經營は獨り我國の國内的事情にのみよると云ひ得られぬ以上は、其膨脹發展が對外關係特に其對支關係によりて或程度迄動搖を見ないとは云はれぬであらう。即ち大大阪の經營には必ず限度がある。其限度を我輩は現今の規模よりは小なるものと想定するのである。大大阪の經營は結構の事であるが、出來ればそれがよい。しかし餘りに大きな夢を見ぬ方が一層賢明ではあるまいか。

さもあらばあれ、大阪人にも藝術觀賞の餘裕があつてほしい。而して金々と云ふ間に人間味も少々は味つて其哲學的宗教的立場をも考へて貰ひたい。『シャイロック』を以て表徴せしめねばならぬ様な狀態は平に御免を蒙りたい。

で速やかに博物館の一つ位は建築して貰ひたい。聞く所によると大阪の新府廳舍が出來た結果として其舊廳舍を博物館とすると云ふ説がある、至極結構なことである。可成左様してほしい。而して大阪の歷史表現の機關として精神的にも大阪の人心を指導教育して貰ひたいのである。

猶一つ大阪府の舊廳舍を其儘保存してほしい理由はそれが明治初期の西洋模寫建築としての代表的遺物としての面白味を有するからである、事實其建築の形貌は今日の進歩した西洋建築と左迄遜色がないのである。否今日所產の新建築よりも其眞面目なる努力の結晶としての價値は其表面的でなく其潜在的に大に價値があるからである。

## 有機生活體としての都市の發達

都市が其本來の面目顯揚の爲か、或は人間の遊戲的氣分の發露か、其發達が人間の手で種々なる點に於て玩ばれて居るのは甚だ妙である。人間の階級的意識や其事大根性迄も都市に附與してゆかんとするのは甚だ感心出來ぬ事である。

都制案の如きは我輩の見て其發露の一端となす所である。市制の完全滿足すら期待實現せしむることの容易でないのに更に其上に都制を布きて空中樓閣の一層を加へてゆかんとする理由を知るに苦しむ。思ふに市長の權限を擴張する、市の有機的活動を自由敏活にする、其起債の自由を得る、其官廳の監督權より離れて活躍の位置を得る等々の諸點が其目的であるらしい。而して都市の文化科學的建設を滿足せしめ様と

云ふにあるであらう。出來ればそれも又結構である。

たゞ其後の結果がどんなものであるか、何事でも制度にのみよるのではなく人間の左右する處であることを考へると、如何に立派な都制を布いても之を運用する理事者其人を得ねば何にもならぬ。都市は其人爲的な位階によりて價値づけられるものではない、陸軍大將より元帥が偉ひと考へた時代はとくの昔に過去つて仕舞つて、今は元帥の名すら記臆してゐない世の中である。

今日に於てすら所謂大都市は其自體の過大なるのを持餘して居る有樣である。而して其大身全體に智惠が廻り兼ねて困り抜いてゐる有樣である。此上其大さを增して何の効果があらうか。階級制度を喜ぶ日本人の性格の表現か、事大思想の發露か、兎に角大に心すべきことである。

誰人が云ひ出した事か我國に六大都市と云ふものがある。其六大代表都市の東京と大阪と京都だけを見ても其內容に於て果して健全なる大があるか否か甚だ疑はしいものがある。此等の都市は早く既に其家の生えぬきの主人公を失つて以來代々養子の家であつて、之を取卷く番頭手代の白鼠黑鼠の輩が跋扈跳梁を逞ふして居るのである。而して思ひきり借金をして其店を極度迄張り廣けて居るのであるから餘程都合好くゆかんと破產することゝなる。事實東京にしても、又大阪にしても、市債によりて事業を遂行して居る有樣であつて此途が杜絶する時は其運轉停止を見ねばならぬ狀態に立到るであらう。

都市經營者が其主腦よりして枝葉末葉に至る迄其家を思はぬこと如斯時は其結果や恐るべきである。日本の大小都市が其本來の主人と離れて養子の家となる時其傳統と家名とは尊重されぬ樣になる、即ち都市はそれ〴〵の其特色を失ひ其生命と意義から遠ざかつて平凡體となるのである。

我輩は各都市がそれ〴〵其傳統と特色とを維持して科學藝術的の完全なる發育を遂げんことを希望する。都市の經營者に向つて其史的考慮を望むのは此點である。

左りながら我國にも歷史を持たぬ都市がある。橫濱や神戶や門司や、北海道の諸都市の如きはそれである。此等の諸市は維新以來のものであつて米國の近代都市と殆んど其發生の時代に於て差異のない新らしいものである。古さも五六十年其新らしきものに至つては僅に三十年の歷史より持つてゐない。之を三百年來發達持續して來た諸市邑に比較すると殆んど史的の價値がないのである。從つて斯種の市邑に於ては其建築や道路や其他の施設が全然在來の日本式より離れて、新たなる歐米式のそれであつても少しも異とするに足らぬ又更に異樣にも見受られぬのである。

即ち東洋の史的日本の玄關としての藝術價値批判よりする時は其重みも意義もないが、新らしき世界的日本の玄關としては寧ろ他の都市より優つたものがある樣にも思はれぬでもない。

此等の市邑に於ては其西洋流の建築の方が其本體を形式するかの如くにも思はれる。茲處は全然現代的であつて宜しい市その物が玄關口として乘降場として又一種の乘物として便利で且つ實用的なることを主とする、それに史的や藝術的の表徵や意味を加へやうとするのが寧ろ無理であらう。

左れば此等の市邑の歐米式發達は恐らく非難の値がないで

あらう、たゞ注意すべき點はそれが日本の玄關でありと云ふことである。即ち日本の深みを窺ふ門戸としての一種の形式表現ありと云ふ事を忘れねば宜しい。

從つて此等の市に對しては自ら其經營の範となるものが他と異なることを知らねばならぬ。神戸や門司の如きは香港など其例となるであらふ。横濱は稍二者とは其趣を異にしてゐるがそれでも在來日本に執着する必要のない所である。北海道の諸市邑に至つては全然近代的のものであつて宜しい、又斯くあらん事を當然とする。國土としての古さは別として其開發の全然新らしき點から見ても、其都市經營が近代科學に立脚した合理的なものでなければならぬ。即ち其地理風土が本土のそれと大分懸隔がある點よりするも其建築は冬の寒さを凌ぐのを第一の目的とせねばならぬ。北地居住に慣れぬ邦人が其開發の初程として其立脚地が安全でない事は決して策の得たものでないからである。

然るに不幸にして北海道の開發には斯る根本的の考慮が從來拂はれてゐなかつた。從つて其先住開發者は可なりな犧牲を拂つてゐる。此點になると我建築の學者にも又責任がある樣に思はれる。即ち歐米中部の建築を主體としての建築教育が寒地建築のそれに觸れてゐなかつた事である。

北海道に關しては更に言ふべき事がある。都市の經營よりも其村落の建設の方が第一であつて且つ重大なる意義を有することである。我本土の村落市邑が實際の經驗を經て出來上り、其間特殊の科學的施設の加へられなかつた結果として今日其價値の半ばを減殺せられてゐるのに鑑み全然新たに開發せられてゆく土地の村落は、其創建の第一に於て科學的たらん事を必要とする。而して都市に比して其文化生活居住に甚だしき懸隔なき程度に健全なるものとせねばならぬ。出來れば北海道の都市村落は共に理想的のものたらしむべきである之は新たなる創建なるが故に其事は容易である。在來都市の改善や東京の復興の樣に其歷史や傳統や何や角の故障の爲に右に左に停頓して行詰る樣な事は決してないからである。

## 中都市の健全なる發達

我輩は其徒らに膨大にして何等徹底的な施設を有して居ない我所謂大都市の經營に浮身を窶すよりも、寧ろ中小市邑の改善擴張を最も眞面目に取扱つて其健康維持と活動の根本を奠めんことを希望する。

之を史的考察よりすれば我中小市邑は其德川幕府以來のものとしても兎に角三百年の歷史を持つて居る、而して其間の久しき泰平のお蔭として大小多少ともに產業的に開發生長して來て居る。其上に各藩治の分離獨立して居た結果として夫々其天利地宜によりて其產業が行はれて來たのである。勿論今日の樣な科學智識を基礎としたのではないが、何しろ三百年間を同じ調子で同じ目的で、徐々に且つ堅實に發達した結果はそれ〴〵其生存の意義價値に特殊な色調が附與せられて來たのであつた。然るに維新以來此特殊の色調を剝ぎ、其意義を沒却し、之を平凡共通の『レベル』迄引落したのは大間違ひであつた。無論共通的產業の奬勵の効果があがつて從來起らなんだ新工業の發生を見たのも幾つかあるが、それが爲に折角從來占めて來た特殊產業の衰微したり又失はれたものも尠なからずあつたのである。

而して中小都市が一樣に其堅實味を失つて平凡に墮した爲に地方の開發が遲延して國を擧げて中央都市建設につくした樣な形となつた。諸藩の大名を悉く東京に集めて東京の大をはしたのは國家として地方的な諸藩の根據と勢力を除き單一日本に歸せしめやうとした政策としては成功したものであつたが、市邑は之が爲に其中身重心を失つて一時的にも其發育を遲滯せしめたことは甚だ遺憾であつた。

今や政治事情も一變して地方分權などが大分政論家にも叫ばるゝ樣になつて來たが、其當否は別として國家組織の集團細胞體なる市邑村落は皆それ〴〵に其粒に其質に一樣なるものがなければならぬ。而して其質實堅密なるものとして滿足なる發育を遂げん爲には今少し中小都市の經營に努力すべきであらう。而してそれ等をして各々其特殊なる事情の下に充分生育せしむべきであらう。

大阪は大阪らしく、京都は京都らしくあれ。他の都市は同一事情の上に立たぬ以上決して之を眞似てはならぬ。福岡にしても鹿兒島にしても其市としての生命境遇自ら他と別ある事を考へて立たねばならぬ。別府が日本一の温泉街として保養市たる以上の事を望むのは間違つてゐる、飽く迄其天惠を善用して保健都として大成せしめねばならぬ。大阪と神戸は共に我國の門戸ではあるが其性質の異なつた點があらう、同じ樣な施設を同じ時に兩所で試むるのは愚かなる競爭である彼は狹き土地と海面に國家の力を盡くして無理なる經營をなし、此は廣き場所に一市の全力を擧げて又山を張る樣な遣方な共に決して策の得たるものではない。

元來如斯無意義の競爭が僅かに二三十分の交通距離の近き同じ地帶で行はれるのが甚だ怪がしき次第であるが、それは小縣治分立てふ制度の弊より來るものである。若し大阪と神戸と同じ縣治の下にあらしめたならば斯樣な無意義の競爭は起らなんだであらう。

門司と下の關とは僅か一葦帶水の處で縣治を別にしてゐる結果其共通利害迄も一致を見る事を得ずして其力を分けてゐるのも又妙である。此種の例は他にも甚だ多い。此等は都市の理由なき競爭より來るものである、都市の自然的關係の然らしむるものでなくして人間が制度に左右せられ、制度を以て自ら拘束する結果である。

中小都市の健全なる發達を望むは其事の所謂大都市に比して最も多く理想的科學的に行はれ易きことであつて、其等の都市が猶舊來の主人の家を爲し其傳統や家名が立派に繫がれ其特殊の地位が判然して居るからである。無暗に膨大なる架空的計畫を立てゝ其虛名に滿足せんとする樣な野心家の居ない爲である。史的地理的產業的位置の明確であつて都市計畫の基礎が間違ないと思ふ點である。而して此等の市邑の健全なる發達によりて地方人心の安定を得て理由なく中央にのみ浮れ出づることを阻止し得るためである。

## 都市經營と建築諸法規

この關係が此事業遂行に重大なる因緣ある點から、一寸此方面を覗いて見やうと思ふ。

現在に於て土地と家屋との法規で拘束を受けて居るものゝ中には、其根本に民法あり借地法あり建築規則など種々あるが此等の法規は善良なる民衆に其權利擁護の楯ともなり、其

安全保障の辨ともなつて居ることは勿論であるが、此中で建築に關するもの以外が事實に於て良民の權利保護をなすよりも寧ろ不良民の害用を保障してゐるの觀あるは甚だ遺憾とする所である。

借地、借家、所有權、占有權、地上權などゝ云ふ規定は比較的其詳密正確を缺くが爲か惡地主や惡家主の制裁には適當なる効力があるであらうが、それと共に善良なる地主家主は所謂『モグリ』や『ブローカー』や不良なる借地借家者の爲に惡用せられて苦しめ扱かれてゐるのである。

彼等は法規の裏を潜つて、それに規定なき範圍に於て惡事の限りをなし盡くしていて、如何なる制裁も彼等に懲惡の判決を下し得ない樣に徹底的に害用せられてゐる。

折角善良なる民衆の爲に制定せられた法律が此通りであるから善良なる人々は其禍害を蒙りて土地家屋の完全なる利用に障害を受け、從つて土地家屋に關する起業に對しては其事の是非善惡を問はず先づ之を忌避するのである。

我輩は都市計畫の事業が此種の原因によりて其進捗を阻害せられて居ることが尠なくないと思ふ。

法規が正確詳細を缺く爲に民衆が充分に之を理解してゐないこと、之を理解するの面倒なること、之が實際施行上の手續を累はしと見ること等によりて、土地家屋に對して其法律の正當なる代辨業者以外に所謂『モグリ』『ブローカー』が其中間に介在して官公衙と私人との間に立ちて種々なる惡計姦策を施して正當なる權利者を喰物とし迫害してゐるのである。

民衆が其當然承知して居るべき筈の法規に關して無識なることは勿論自ら其責に任ずべき點であるが、民衆をして依らしむべく知らしむべからず底の法律の規定も又責があると思はれる。それに理事者の法規に對する杓子定規的解釋なども其弊を助長せしむる一因であると思ふのである。

斯くして民衆をして土地家屋の所有者若くは善良なる借用者として其恒産乃至は恒心の所有者たらしむる前に其資産と心裡に不安を抱かしめ、世道人心を弛廢敗頽せしめてゐるのは實に法の弊の一端である。

そこで土地家屋は現在に於ては、其法規に正確なる智識と之れを擁護するだけの充分なる資力ある者にのみ安全に所有維持せられるのであるから、無智の農民や小地主は次第に其土地から離れて大地主や富豪の兼併する所となり茲に富の懸隔の度を一層大ならしめ、階級鬪爭の端を繁くするものとなる此事は急激に膨脹する都市に接する外廓近郊に於て最も甚だしいのである。

建築に關する諸法規の如きも比較的平明に叙述せられてある樣にも思はれるが、矢張り他の法規同樣に其記載が寧ろ簡略に過ぎて民衆的でない憾みがある。

一體日本の法規は國民の悉くをして周知せしむる爲には其叙述が餘りに簡略にして其解釋に種々の疑團が生ずる場合が多く爲めに法律專門家の手でなければ其滿足なる運用が出來ぬ樣になつてゐるのは甚だ怪しからぬことで、其非現代的非民衆的であることに於て全く時代に適合して居ない。

所謂法律を法律專門家の手で運用施行しつゝある國家の現狀は法律萬能の餘り法律の中毒、法律の弊害甚大にして爲に國運の進歩を大に阻害してゐるのである。

法律は民衆の何人にも平明滿足に了解せらるべきである。

即ち斯様に記述せらるゝのが其本旨でなければならぬ。建築に關する諸種の法規は其制定が比較的新らしいのと、其適用せらるゝ範圍の明確に局限せられて居る結果、他の法規の運用程繁雜なる手段を要しないが、それでも猶民衆の手自ら之を取扱はれ得ないのである。

斯くして簡單なる家屋の建築に關する出願についても、其書類の製作に之に關する智識の所有者を必要とし、茲に工務所などゝ稱する一種の建築代辨業者が簇生して來た。

工務所の悉くは勿論單なる建築認可の書類製作のみを業とする代辨業者に限られてゐない。立派に建築主の依囑により家屋の設計から其施工監督等技術的一切の計畫をなし建築主の意を體して其希望する建築の滿足なる完成に從事してゐるのもある。

たゞ此兩者の間に何等の表面的な區別が設けられて居ない爲單に書類の形式のみを整へて依頼主にも官廳にも滿足を與へない者が出來たり、工務所の看板を以て前記の『モグリ』『代辨』類似の行爲をなすものが生じて、善良なる技術者の立場を苦しめてゐるのは苦々しき次第である。

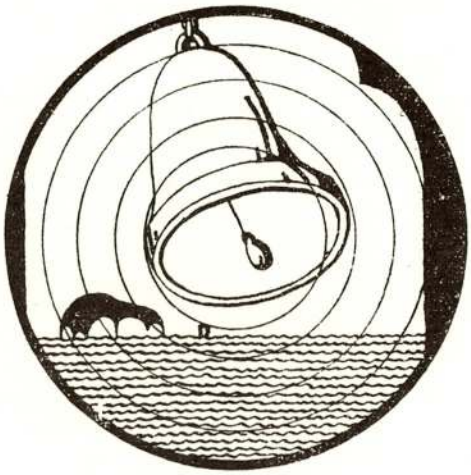
それで建築技術者に於ても自營上其表面的に法律の保護を受けて、其職務執行の安全を期せんが爲に建築士法案の制定を問題とする樣な事情に立到らしめて居る。

然るに此建築士法案に關しては建築の設計と其施工の監督等の技術を局限した範圍に取扱ふとする人達と建築の設計施工請負と併て一つの業務として居る請負者とありて其間に複雜なる關係を生じて未だ解決を見ないのが今日の狀態である

思ふに建築士法案は必ず近き將來に於て其制定を見るであらう。斯くすることが純然たる建築の設計者にも又請負業にも共に便利であるのみならず、無名の工務所の建築界を汚濟する者を避ける點に於ても又利益である、たゞ可成其時期の到來を早めて建築界の害毒を一掃すべきである。而して都市の經營を各方面よりして促進完成せしむべきである。

之を要するに都市の經營は其學問としては全く近代の所生であつて、實際的に其歷史に古きものがあるにもせよ、史的藝術的、科學的、經濟的に實踐經驗より歸納演繹せられて大成すべきことから考察して學問としてはまだ成熟の域に達して居ないのである。從つて其理論に於ても幾多の補足をなし修正をなすべき點もあらう。即ち其實際に關しては更に多く種々なる關係方面の研究調査をなした上に於て、最も周密堅實に徐々に進行せしむべきものであらう。都市生活體は其發育に於て健全ならんことを期せねばならぬ。急ぐべくして急がぬ、これが本事業遂行上の指針であらねばならぬ。功を急ぐのは決して都市の滿足なる生長を期する所以ではない。特に大大都市などゝ云ふ空想を描いて其實現を期する樣な不心得は愼しまねばならぬ。

（理論と實際をもつと具體的に說く考へが總括的な序論となつたことをお斷りする　都市社會政策住宅市の建設などをも論ずる考へであつたが、それも先づ中止する）（大正十五、十一、十三）



# 劇場火災に就いて

## 加奈陀ローリエル、パレス座の慘事

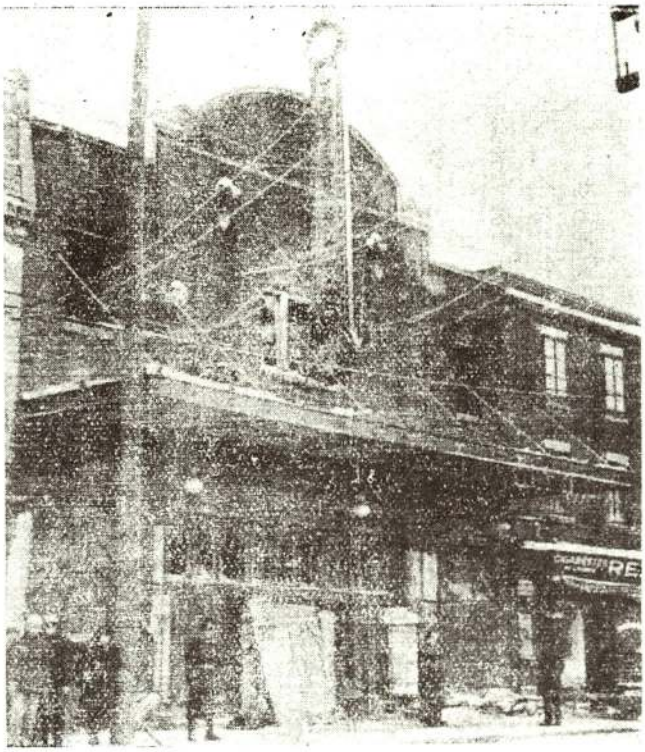
菅野久一

劇場、活動寫眞館、寄席其の他觀物場などの所謂娯樂用建築物の火災は、其の規模結構が比較的廣大であるのと其の位置が多くの場合繁華な所にあるのを常態として居る關係上、其の混亂雜踏は非常なものであつて、損害の之に伴ふこと亦決して尠小でない、特に興行中に出火した場合には觀衆が周章狼狽して避難の途中刼火、墜落、壓倒などの爲に或は傷つき或は命を失ふ者も出來て、今の今まで歡樂愉悦の限りを盡くした巷も瞬く間に阿鼻叫喚の修羅場と一變するのであつて其の事例に往々見受けるところである、今試みに最近六ケ月間の火災記錄によつて見ても、昨年十一月二十九日には大阪市民が古典藝術の殿堂として大に誇つて居た文樂座の燒失があり、同十二月五日には相生市の相生キネマ館から出火して全燒、十數名の負傷を出し、超えて本年一月十七日高知縣高岡町の芝座が燒失し、二月十六日には札幌市の松竹座が試寫中のフイルム引火の爲に全燒、續いて三月三日には福山市の大黒座が燒失して俳優二名燒死の慘事があつたのである。

又、外國の例を見るに、古いところでは一八三六年の露國ペテログラード市レーマン座の火災（死者約八百名）、新しいところでは一九〇三年の米國シカゴ市イロクイス座の火災（死者約五百八十名）などがあるが、之に次ぐ慘事として傳へられる加奈陀モントリアル市ローリエル、パンス座の火災に關する米國々民防火協會の報文の概要を紹介すると次のやうである。

本年一月九日（土曜日）の午後、モントリアル市のローリエル座で「若からしめよ」と題する活動寫眞を上映中、突然火災を起して非常な混亂に陷り、觀衆は先を爭つて避難したが其の建物がよくないのと、且其の出口が不適當であつた爲に遂に死者七十八名、負傷者三十名を出し、主として十六歲以

下の子供がこの災厄を蒙つたのであつて、其の死因は醫學上の說明によれば煙中毒が五十二名、壓死が二十五名、燒死一名といふことである、又十六歲以下の子供に死傷者の多かつた有力な理由はこの劇場ではかゝる子供でも其の兩親又は保

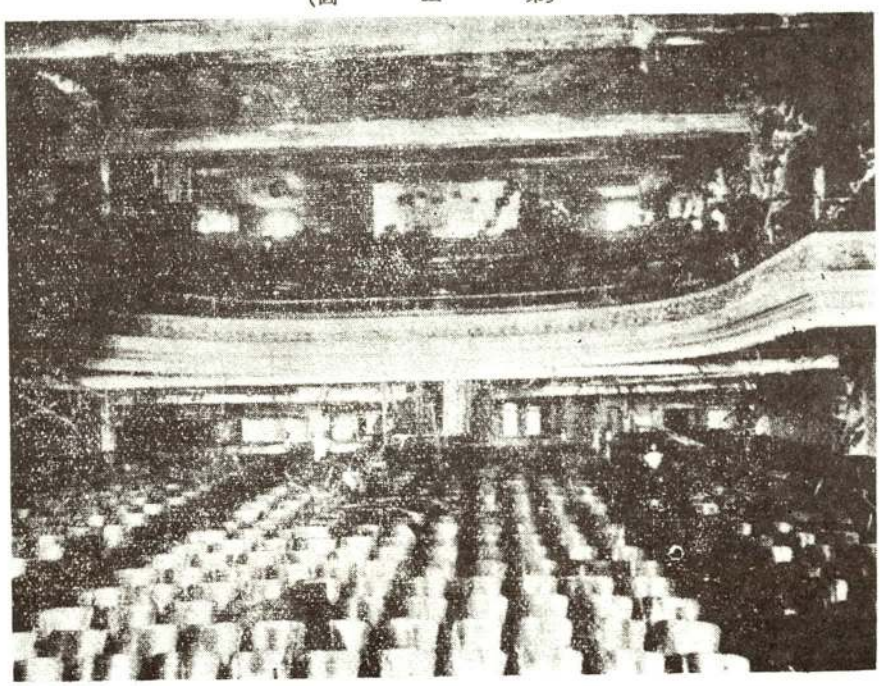


（第一圖）

護者の同伴がなくして入場を許して居たからである。

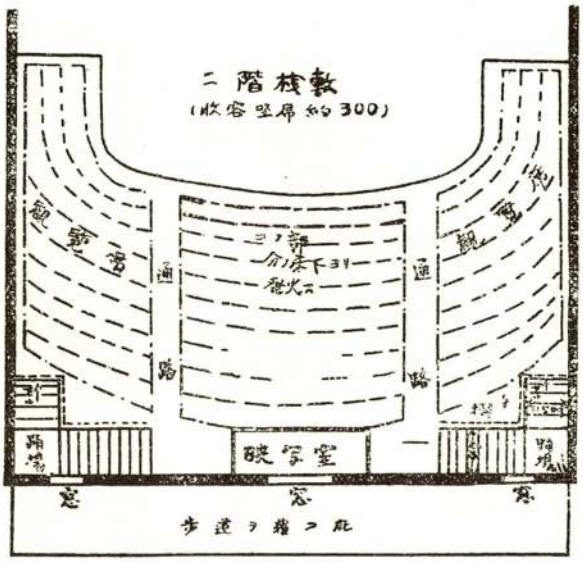
出火原因については最初電線の故障であると傳へられたが發火部の周圍十乃至十五呎の部分には電線がなかつたことが判明したから、多分觀衆の誰かゞ喫煙の爲の燐寸を點火したまゝ捨てたか、或は煙草の吸殼を遺棄したのに因るのではなからうかといふことで、この推定は平素この劇場の使用人達が場內、時には二階棧敷で喫煙することさへあつて、場內の喫煙禁止が嚴重でなかつた點から考へてあながち強ち强附會の說でないやうである、又映寫室に於けるフイルムや映寫機に

（第二圖）

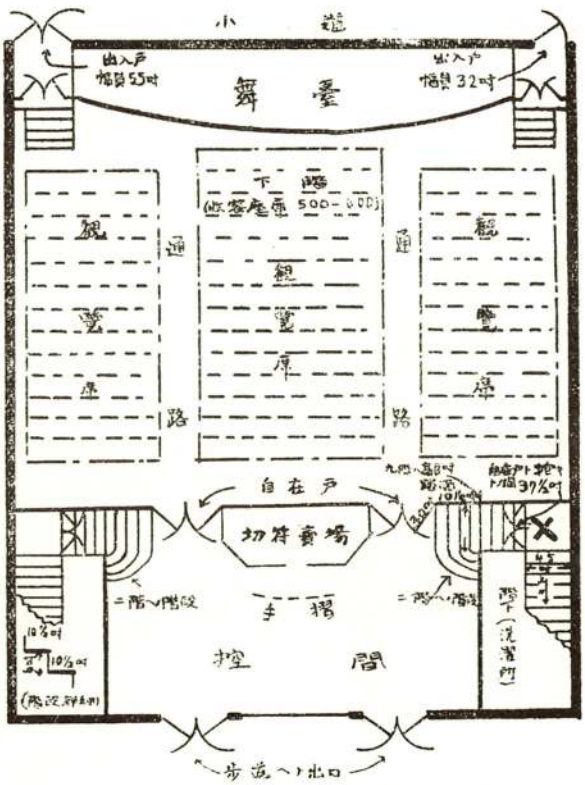


は何の異狀もなかつたから、この點は一般の活動寫眞館の火災と趣を異にしてフイルムの引火に因るといふことも出來ないのである。

次にこの劇場の構造や內部設備であるが、外壁は第一圖の示すやうに煉瓦造であるが、其の他の構造部に不燃材料を用ひた部分が少く、二階棧敷は木枠で支へられ、內部は木製野地と木摺との上をバスター仕上とし、太井と二階棧敷の床との間には隱蔽部があつて、其の高さ前方で十八吋、後方で數吋といふ差があつたが、この部分には輕い木製の間柱と支柱とが立挾つて居たから火焰が非常に迅速な勢で燃えひろがつたのである。

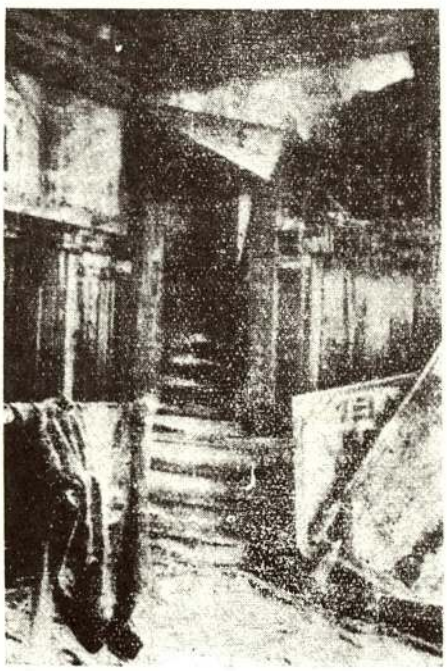



(第三圖)

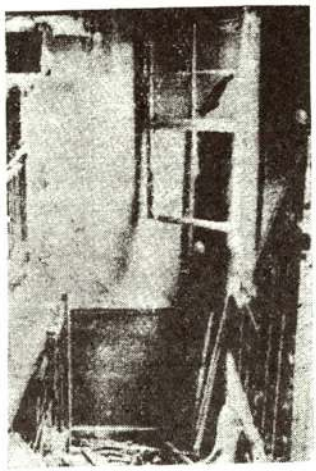



(第四圖)

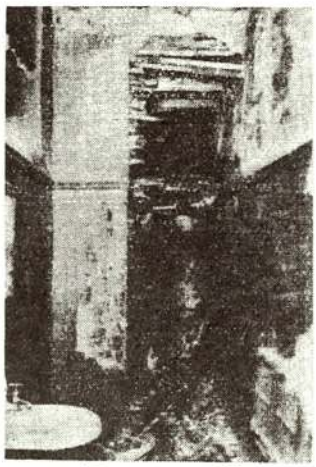
(第五圖)



この劇場の收容座席は第一階五百乃至六百、第二階約三百であつたが階段は勾配が急であつて手摺がなく降り口の所で壁體との幅が四十七吋第一踊場の所で四十五吋となり、第二踊場の所で直角に曲つて更に狹くなり、自在戸と抱との間が三十七吋二分の一に減少し第一階から控間へ行く自在戸は其の基部が階段の幅の半分以上も閉塞されて居たのである。（第三、四、五、六、七圖參照）



（第六圖）



（第七圖）

かやうな狀態であつたから、罹災前にこの劇場の座主は度々モントリアル市消防部の豫防課に召喚されて、各出口に支障のないやうにすることや、之に關連せる事項であつて市の火災條例の各章の遵守を怠つて居る點に付いて注意を受けたのみでなく、其の使用許可が災害前八ケ月關停止されて居たのに拘らず官憲を無視して興行した爲に遂に大慘事を惹起するに至つたのであつて、多數の子供が一時に階段に押寄せて來て揉合つたので前方の者が突出されて墜落し、其の上に後方の者が積重さなつて即死したのであるが、消防手は之を救助するのに色々の手段を講じ、救助網を結付けて十二人の力で引いたが少しも動かず、最後には階段の下の方へ一人だけ通れる孔を穿つて辛うじて漸次に引出したが、其の時には既に落命してしまつて居たといふことである。

今、參考の爲にこの劇場の缺陷と其の安全策を對照して見ると次のやうである。

| 缺陷 | 安全策 |
| --- | --- |
| (一)內部構造が木造で、木摺にプラスター仕上といふ非耐火的であつたこと。 | (一)劇場建築物は全部耐火構造とすべきであるが、現存の木造建築物であれば、メタルラスを用ひてセメント又はギプサムプラスター仕上とし、奈落、舞臺、衣裳部屋其の他の隱蔽部にスプリンクラーを設備すれば比較的安全である。 |
| (二)二階棧敷から控間への出口か僅か一ケ所であつて、直接戸外への出口のなかつたこと。 | (二)內部階段に非常口を設けて建物外、若くは安全に野外に出ることの出來る耐火通路に連絡せしむべきである。 |
| (三)階段が急勾配で狹く、蹴上八吋、踏面（鼻共）十吋二分の一、其の幅が、降り口の所で四十七吋、第一踊場 | (三)階段は緩勾配とし、蹴上七吋、踏面（鼻を含まず）十吋以下、階段の全長に亘つて支障なき幅が少くとも四 |

の所で四十五吋、第二踊場の戸口で三十七吋二分の一といふやうに下方程減少し且手摺の設備がなかつたこと。

(四)階段の踊場に於ける直角の曲り角は混亂を惹起するに都合のよい内懐を作つて居たこと。

(五)下方の踊場の所にこの階段に接する自在戸のある戸口が設けられてあつたこと

(六)第一階の觀覽席からの戸が階段の基部を横切つて直接開放し得るやうになつて居たこと（實濟は閉鎖されて居たらしい）。

(七)この劇場には非常用の照明裝置もなければ、普通用のものも必要の時に充分の効用をなさなかつたこと。

十四吋、且歩行口までその幅の減少しないやうにし、手摺も亦階段の全長に亘つて其の兩側に設備すべきである。

(四)階段の方向が踊場で變る場合には混亂の起るのを防ぐ爲に其の外角を圓くするか或は對角線に沿つて何か適當の塡充材を入れるべきである。

(五)戸は階段の段階に直接付けるべきでない、戸の廣さと同樣の踊場を戸口と第一段階との間に設くべきである。

(六)戸が開放した爲に階段を塞ぐことはよくないから、他の出口からの群集が階段の基部で混亂を來さないやうに階段を設くべきである

(七)何れの劇場でも非常用の照明裝置を設備して、普通の照明裝置　故障の出來た時には何時でも確實有効に用を爲せるやうにすべきである。

(八)この劇場では喫煙禁止に付いて有効な方法を執つて居なかつたこと。

(九)通路で立見することを許して居たこと。

(八)喫煙は何れの劇場でも觀覽席では絶對に禁止すべきである。

(九)通路は常に障碍物のないやうにして置かなければならない、若しどうしても立見を許さなければならない場合には指定場所で張られた員數に止むべきである。

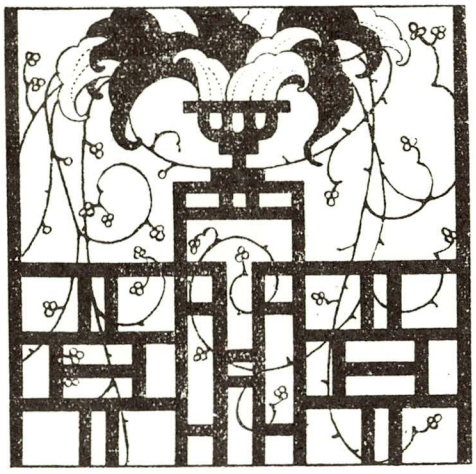
(十)少年少女が親達や保護者の同伴なくして單獨入場を許されて居たこと。

(十一)非常時に善處すべき案内人もなく、又雇人の内誰一人この魔の階段へ救助に行く者がなかつたこと。

(十)主として十六歳以下の子供に劇場又は其の他の集會所へ保護者の同伴なくして決して入場せしめてはならない。

(十一)非常時に當つて勇敢に働き得る者を多數雇入れて其の義務を重んぜしむるやう平素から訓練し置くべきである。

（丁）



# 混凝土施工法（下）

本輯第四號より續く

會員　下浦光衛

## 6　鐵筋の種類

普通鐵筋と云へば丸鐵を意味するのでありますが設計に依つては角棒リップ、カーンバー等を使用し床にもフロアータイルを使用する事があります何れもコンクリートの廻り具合がよくない様であります、斯様な設計は特に注意を要する事であります。鐵筋の強さは左表の通り

| | |
|---|---|
| 極強度 | 60,000—75,000 |
| 安全 | 16,000 |
| 抗壓 | 16,000 |
| 剪斷 | 13,000 |

## 7　堰板の檢査及掃除法

鐵筋の配列を始める前に堰板が正確に且つ何れの點も丈夫に出來て居るかと云ふ事を注意せねばならぬ、之は單に構造上の問題のみならず、堰板の歪及バレル事に依つて生ずる損害が又僅少でないからであります締付け及束等注意を要します。愈々堰板がよいと云ふ事になれば、次に大切な事は掃除であります、諸君もよく御承知の通り柱の中壁の中など一面に鋸屑、鉋屑板切山二寸の切れ端等が可成澤山に落ち込むのであります、之は大工の注意如何で少なくする事は出來ます殊に板のハツリ屑鉋屑は取除けるに困りますから入れない様にせねばならぬ、私共は堰板を外したコンクリートの中に木片があり柱根に鋸屑の澤山あるのをよく見受けるのであります、之は注意がたりないのと、道具がないために出來るのだと斷定いたします、大きな木片は見本の如き道具で暗い所は照明を用ひて完完全に除かねばならぬ、鋸屑は又柱の繼手を弱める大原因でありますから、柱の形及大さに依り二ヶ所乃

至五ケ所の掃除口を光線の明るい方及水の流れ易い方に設ける必要があります、床上ばで繼手となる柱及壁梁等は床コンクリート打ちの節に一吋か一吋半高く打ち雨水洗水の溜らぬ様に心得ねばならぬ、此鋸屑塵等を除去するには此ホースにノズルを附けて漸次掃除口に押し出すべきである、普通市の水道は四十封度の水壓がありますが五十尺以上の建物には掃除の爲めに高壓のタービンポンプ位い設備する必要があります　一口に掃除と云ひますが施工上見逃し難い重要な仕事であります、梁巾が一分廣いとか狹いとか板がすいたすかないと云ふ事よりも更に大切な事であります。

鋸屑が柱の下部或は壁梁の中央にあると云ふ事は丁度搗き立ての餅と餅の間に餅取粉を敷いた様なものであります、元來セメントは搗き立ての餅の様に喰つ着く性質を有して居る夫れを鋸屑で切り離す事はあまりに不注意ではあるまいか、此心してコンクリート接合の働きを邪魔せぬ様にして貰い度いのであります。

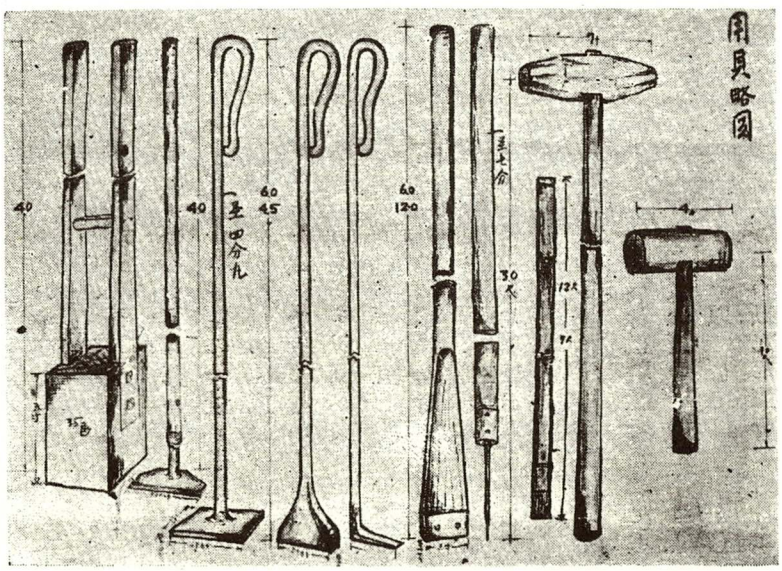
## 8　コンクリート打用具

如何なる名將と云へども勇悍なる兵と武器がなければ戰ふ事が出來ぬと同じ樣に、コンクリート施工にも夫れ相當の用具を準備する事が必要であります、大工の道具箱を見て其人の頭の緻密さを知り學生のゲートルの付け方で其學校の風儀が知られる如く、用具に對する用意の如何に依つて大體結果を豫想する事が出來るのであります。

然らば如何なる道具が必要かと云ひますと頗る簡單なものでありますが、然し此簡單な道具すら備わつて居るのは誠に少ない現狀であります、必要なと思ふものは。一、柱用、二壁地用、三、梁、床用、四、堰板外部用、五、雜用具であります。

一、柱用には青竹徑一寸以内の眞直なものを長さ床高さより三、四尺長く切り末より二分之壹位いまで節クリ握りよくし先に五厘厚位いのバイプ長一吋半位いを打ち込み中に木を塡充し竹の割れを防ぐ樣するのであります、又長さは前記の約二分之壹位いのものと二種用意すべきである

二　壁地用には欅樞地又は檜等にて巾約二吋厚さ七分長さ青竹同段にして圖面の如く先端に五厘厚鐵板を付け磨滅を防ぎ、一端は握りよく丸く仕上げるものとす。



三、梁床及柱壁の上部搗用には圖面の如く凡そ四種に、なるだけ輕く然も搗く能率の多い者を拵へねばならぬ、長さは何れも六尺四尺の二種にして淺い所は短かい用具を使用して動作を敏活にせねばならぬ。

四、堰外側用としては圖面の如く樫にて柄長三尺及び五寸の二種を各二三個宛用意し、高き處は長柄を低き所は短柄を使用するのであります。

五、雜用具としては漆喰籌、杓、鍬、（金篦徑一吋長三尺位い）雨合羽、バケット、竹箒、塵取等はなくてはならぬ道具であります。スコップ及ロ等は云ふまでもない事であります。

以上申上げた用具は普通の構造の場合を意味するのであります特に大きな梁とかには更に工夫を要するのであります。

## 9 コンクリート練方

強度　許用　640 lbs.□″
〃　最大　2.500″
〃　抗張　200″
〃　附着　200″
〃　剪斷　80″
｝コンクリートの強度は上表の通り御承知を願ひたい

練り方はコンクリート施工上打ち込み方と丁度車の兩輪の樣なもので、搗方が如何に注意周到にやつても練方が一定のかたさを保たなければ好い結果は得られないのであります、指示されたかたさを保つのには、砂利・砂の濕り程度・小雨の時等いつも考へねばならぬ、盛夏の候は幾分水量を增さねばならず又打ち込む場所に依り多少の加減を要するものであつて決して數字的に一定し難いものであります、ですから大建築にあつては兩者の連絡を圓滑ならしむる信號設備が必要であります。

次に橋又は特殊の設備のない場場の砂利砂を運搬する場合は道路又は敷地面の土氣を混入せぬ樣常に下部を一寸通り殘さねばならぬ、ごをかすると入れよいから下の方を混入して居るのを屢々見受けます勿論無意識でやる事ではあるが注意を要する事であります。

又材料の配合であります、第一セメントはコンクリートの全生命でありますから規定の分量を正確に入れねばならぬ、然るに故意か知らずか或は多く或は少なく時には桝の內部に二三分もセメントが濕氣で喰つ着いて居るのを使用して居るのを見受ける事があります、例へ夫れが支給品であるからと云つて定量以上に入れる事も宜しくない事であります、さり乍ら特にせまい搗方の困難な場所は砂利の量を半減するか或はセメント量を增加するの必要もあるのであります。少ないと云ふよりも多いに越した事はありませんが、多くて困ると云ふ樣な事は少ない樣であります、一、二、四、調合のコンクリートが九樽や十樽で出來る事は正直な所正直だとは云へないのであります、例へ身は職工であつても調合がよいか否や位いは心得てやつて貰い度いものであります、惡い材料に少ない分量のセメントを以てしては勞多くして巧がないのは當然の事であります寧ろ斯んな場合には仕事を辭退すべではあるまいか。切に練方の注意を望むのであります。

## 10 水面下に於ける基礎コンクリート打ち

基礎が浮地形式の場合は排水工事も完全に行はれ易いのですが、周圍布掘壺掘の時即ち內防水の時に湧水量に依つて之が完全な排水が頗る面倒なため五寸乃至一尺位いは水中に打ち込む樣になり安いのでありますが絕對に水中は打たない樣にせねばなりません、從來水中工事をした土木などの仕事を取毀つて居るのを見て驚く外ないのであります、夫れも深い所なら兎も角水面から尺、二尺、位いの所ですら實にひどい有樣である、建築では幾分入念の程度も深いであろうが要するに水中は施工すべきものでないと思ひます。是非を今事新らしく申すまでの事ではないが、基礎の排水は特に完全にして且つ水中にあるコンクリートの部分は防水劑を混入して鐵筋の腐蝕を防ぐ必要があると思ふ之も費用の問題でありますから特に設計家諸氏の考慮を切望するのであります。

今一つ諸君に願ひ度き事は、どうも土中に埋まるからと云ふ樣な輕卒な考へがあるためか、いつも粗末になり易い樣に思はれます。見えなくなつても丈夫相でも全荷重を支へる土臺でありますから上部よりも更に注意をせられ度いのであります。

## 11 二回打ちと一回打ち仕上げに就て

コンクリート施工に當つて柱壁を梁下ばまで打ち込み、其上梁、床、の配筋をしてコンクリート打ち上げをするものと床梁共一式配筋をして一度に打ち上げるものと二樣あります普通は工費の關係か後者を採用して居る樣であります、前者は時日も幾分多くかゝり從つて費用も多く要しますが、私は前者を採用する事をすゝめ度いのであります、勿論床が非常に低いとか倉庫の如きスラッブ式で梁などがない場合は別問題であります、後者の特長は壁梁や床梁等の入り組んだ鐵筋のない中に心ゆくばかり柱と壁の施工が出來床配筋も正確に保たれ、梁の內部等も掃除が心持ちよく出來、床コンクリート打ちに當つて梁に全力をそゝぎ得るから出來ばへも善い譯であります、殊に密集せる柱頭の梁鐵筋の下端のセットから來る間隙がなくなるのであります、強いて缺點を云へば柱頭に接手が多くなる事せあろう、之はホキリング式にはいさゝか面倒であろうと思ふ、之も監督者の考への如何に依る事で諸君等は如何ともする事が出來ないが、是非諸君にも此所まで考へられて兩者の長短を常に研究せられん事を希望いたします。

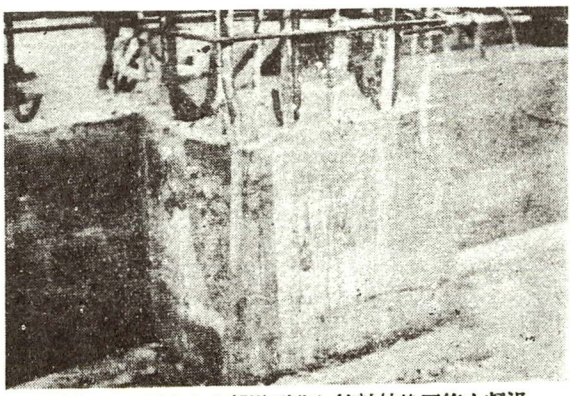
## 12 柱コンクリート打ちに就て

柱は全構造の中でも最も大切なものであります事は申すまでもない事であります、夫れで柱の施工は一段の注意を要するのであります、柱には短柱と長柱があります、又鐵筋にもシングルとダブル、フープ式と然らざるものとあります、何れの場合も柱脚に柱の大さに依り二個乃至五六個の掃除口を設け、光線の充分ならざる處は電燈にて照し水洗を充分にし木片鉋屑鋸屑の絕對なき樣掃除をせねばならぬ、愈々掃除口の蓋が出來たらコンクリート投入前にモルタルを二三寸厚に

入れコンクリートは八九寸位いづゝ投入し前記の竹にて充分搗き固めつゝ外部よりは木槌にて打ち内外二面から定着するのであります、最初は長い竹を使用するのでありますが、柱の中はダイヤゴナルフープ締付ボールトワイヤー、壁地筋等で無數に區畫されて居ますから一本や二本の竹であると一々抜き替へなければ思ふ所が搗けないから、最初に必要な所へ五六本も入れて置いて交々搗くべきである、然しいくら竹を入れても搗かねば何もならぬ入れた竹が七八尺も埋つてからえらい事をやつたなぞは平に御面を蒙り度い、投入も一方からだけでなく内部の狀況を見て場所を替へて投入せねばならぬ、又『凸』『凹』形等夫々狀況に依り工夫を要するのである、柱二分の一位いに達すれば短かい竹と取り替作業を敏活にし投入も尺乃至尺五寸の厚さにしてもよいと思ひます。

筋がダブルの時は調合堅さ砂利等に就いても考慮し搗方にも更に一段の注意をせなければ大失敗を招く事があります、又フープスバイラル等のピッチが三吋内外のものは鐵筋の外側にコンクリートが廻り悪いから堅筋本位の柱よりはより以上の注意が入るので有ます。二十尺以上もある長柱になると搗棒を使用する事が出來ないから六尺位いに四方に穴を明けて點檢穴とするか又此穴から漸次コンクリートを投入するかして木槌で打つより方法はないのであります、後で遣り直しなどする事を考へて最初に二倍の努方で完成する事が大切であります。

柱打ちにはよく上部になると水分が多くなりますが若し梁下で止める時には杓で汲み取つて捨てる事が肝要であります此水分の所には土氣塵等の不純物即ちレータンスが浮び上つて居るのであります汲み取つた後に少々堅いコンクリートにて粗面に仕上げ掃除口の方に向つて幾分勾配を付ける様仕上げる事である、床仕上げの際も柱中壁梁の所は堅いコンクリートを以て粗面に床より一寸位い高く寝板洗ひの時水流れのよい様接手の完全なる様心掛けねばなりません。尙充分の事を申しますと柱、梁、の接手などには二尺内外の鐵筋の切れを補強用として差し込み置くべきだと思ふ



例—壊破を土凝混げ曲を筋軸柱後施工土凝混

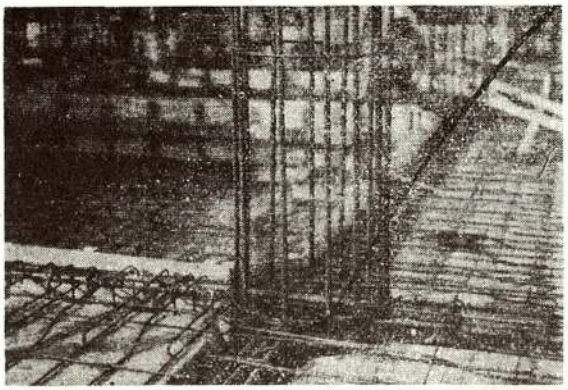
尙又柱打ちの際には鐵筋の位を置正確に置く事が大切であります若し少しでも片寄つて居ると次に地墾を打つた時に寫眞に示す様に曲げねばならぬ、之は構造上誠に危險な事であります、鐵筋組立ての時垂直を見てするとワイヤーで固定しなくとも中心に居る事になります、一つの不注意は次から次へと迷惑になるのであります。

## 13 壁地

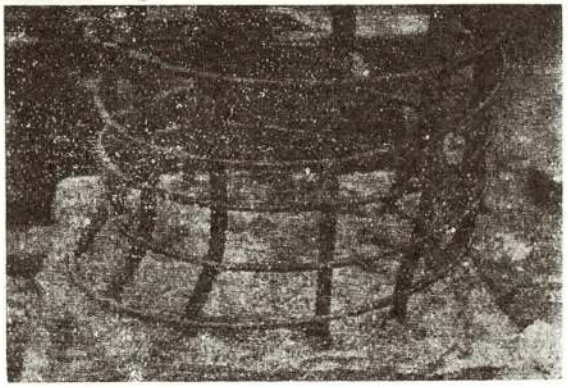
關東の大震災以來と云ふものは壁が構造上大變重要視せられる様になりました、其結果として縦横の筋の外に多くの筋違を入れる様子になつたのでコンクリート打ち込みが一層困

難であります、壁地で注意せねばならぬ事は、常に水平を保ちつゝやる事であります、水平施工は梁も基礎も必要條件であるが壁は成が高い所に苦勞があるのである、投入も所を交互に變更して斜面打ちにならぬ樣にせないと、コンクリートが不等質になり斜面の打ち方は既に破壞の狀態を意味して居る、事實强度を減殺するものである、盛土とは違ふのであるから、是非此流打ちは根絶したいものである、投入途中一休みした場合はコンクリートの打ち接ぎの所をよく搗かないときつと寫眞に示す樣な所が出來るのであります、用具は前に御話した板、竹、及外部より木槌を以て內外から充分打ち固めねばならぬ、此木槌は使用が上達すると豆板の有無を知る事が出來ます誠に重寶なのは此木槌であります（窓に當たる所の壁堰板は必ずあけて搗き易き樣すべきである窓の兩面を塞いで居るのはよくない）

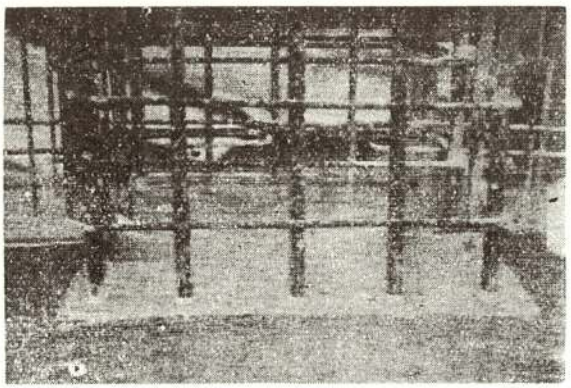
次に大建築になりますと（倉庫の如き）何所か壁地に接手をせなければならぬ、此場合完全に仕切る事がむつかしいのであります、普通は板切れを無造作に差し込んで漸やく仕切るのですが、私は圖面の樣にしなければならぬと思ひます、十五六尺も高さがあると完全に仕切れないのみならず流れたコンクリートも出せないし時々板が折れ込む事があります、殊に壁地接手に補助筋を差し込むのには好都合であります、壁が梁下等にある時は上部から搗く事は出來ませんから、砂利を替へセメント量を增加する等臨機の所置が必要であります。



混凝土施工前に柱軸筋を正面の位置に定めたる一例



柱軸筋を凝混土施工後に直したる惡例を示す

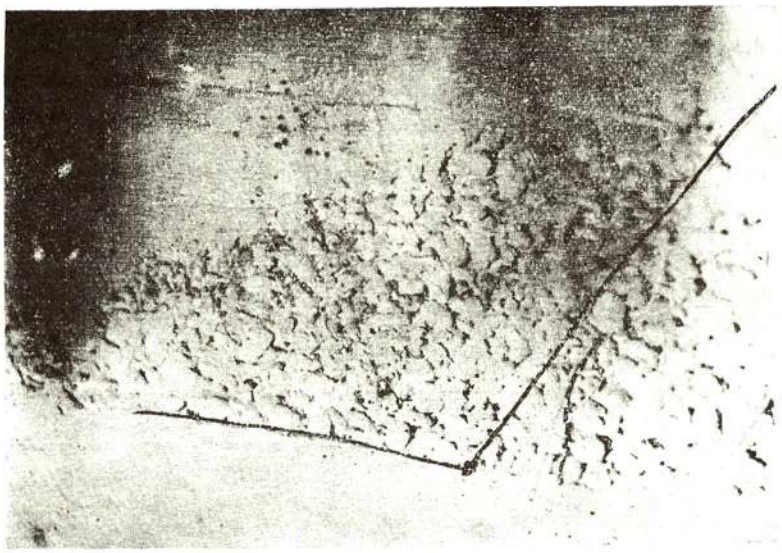


柱接手に於て混凝土を盛り上げたる惡例を示す

## 14 壁梁窓臺打方

壁梁が窓臺まで上つて居る時は梁のコンクリートは床面で二分せられますから、床面仕上げの時に一吋位い床より高く

然も膠着し易き様粗面に仕上げ且つ水洗ひに便なる様勾配を附けて置く事を忘れてはならぬ、又コンクリートの固まらない内にスターラップ等を注意して正しく置かぬと後日コンクリート打ちの時スターラップが露出して寫眞の様な結果になります（壁地寫眞參照）

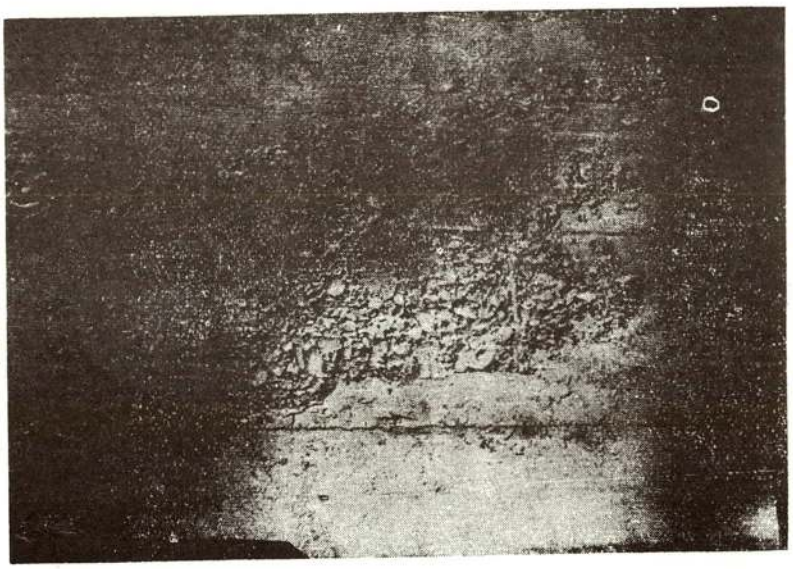


壁地及柱等に於て休憩後又は流し打ちの接手に於ける蜂房の一例を示す

次に窓臺を打つ時には圖面Bの如くコンクリートを打ち殘さぬ様束柱根本はポケットの出來ない様に下に廻つて入念に均さねば堰板を入れ打ちたさねばならぬ只に費用が入るだけでなく構造上にもよくないから頭からぬれても辛抱して完成する事である誠につまらぬ事の様であるが相當な大建築でもつてやつて居るのを見受けるのであります。

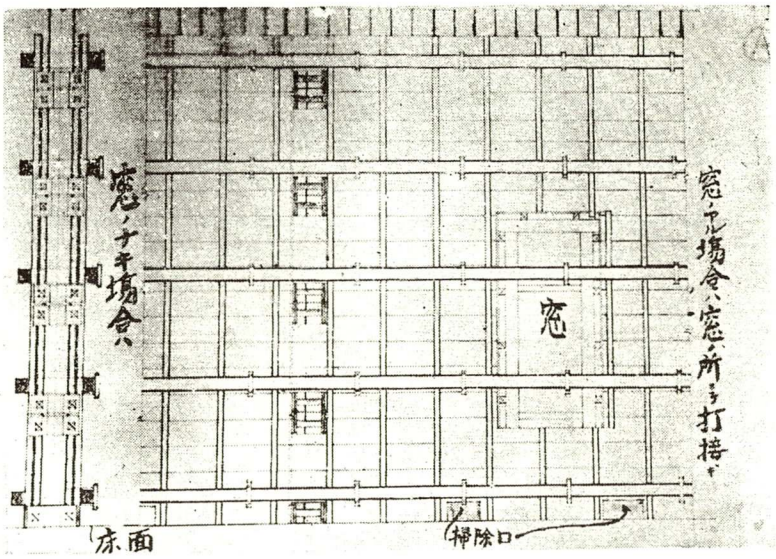
## 15 柱と梁大梁と小梁

柱と梁の取付き又は大梁と梁の交叉した所は頂筋が可成澤山並列せられます極端なのになると二分のすきもなく打ち込む位いにして漸やく粗立てる程でありますが然も二段列べにしてであります寫眞は餘程樂な一例であつて尚且つ之でありまして頂筋と底筋との間の所はコンクリートもよくはいりますが底筋なり頂筋の近くになると入れる事が出來ないのであります。由五分や吋位い間があつても容易に



柱打接ぎの上端に不純物の定着せる一例

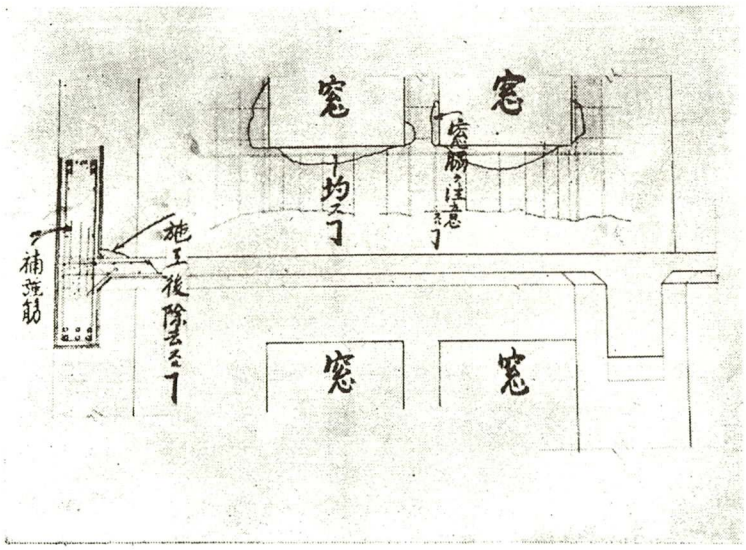
表面の白點は木片及コークスの附着せるもの



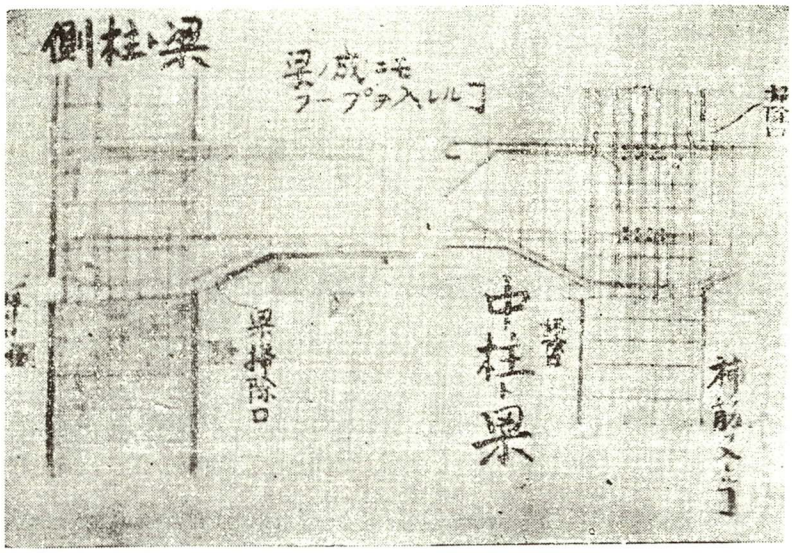

は入らないものですが大抵はよい加減にコンクリートを打ちかぶせて仕舞ふのですが此所が一番大切な所なのであります此筋の所は上部からコンクリートを入れずにモルタルを流し込み充分セットした頃を見計らつて上へコンクリートをやらねば、必ず此鐵筋の下に相當廣い面積のウッロが出來るのであります、此ウッロがあれば鐵筋を受ける力はなくなるのであります。之は外部からは絶對に見ないが外部に見える豆板よりもより以上に恐れなければならぬ事であります、此邊の事を承知して居ても出來易いのですから若し考へなしにやつたとしたならば恐ろしい結果になります、之は相當經驗のある監督者自身が見逃し易い事であります、一回打仕上けで小々急ざ打ち流せと云ふ遣方の仕事などは更にセットも一層ひどく起る事でありますから注意を望む次第であります。

## 16 梁、床、打ち

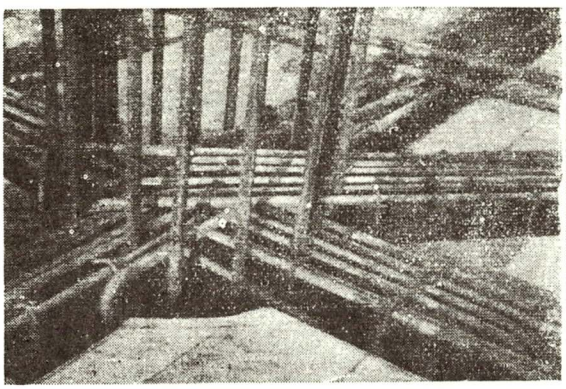
壁梁床梁共鐵筋の位置がよいと云ふ事になれば最初スコップにて厚二寸位い平均に入れバチ、カギ等の用具を以て入念に搗固め底筋が充分包まれた頃に五寸厚位いに敷き均し角棒バチにて搗き固め漸次仕上げるべきである、一度にあまり多く入れる爲め搗く事も忘れる1搗いても道具が底部まで達せないから豆が出來るのであります、梁にも流し打ちをする事はよろしくありません下端が充分に打ち込めて居ない時は鐵筋腐蝕する火災の時に損害を受け強度の上にも少なから



ぬ影況を及ぼすのであります。又休憩時の打接ぎの所は先のコンクリートの中に掲矢が突入する位いに搗かぬと見苦しい接手か出來ま




す、誠に僅かの注意でよい結果を得られるのでありますから如何に手間が切り詰められたにしろ一般の狀況はあまりに苦々しい狀態にある事を悲しみます。

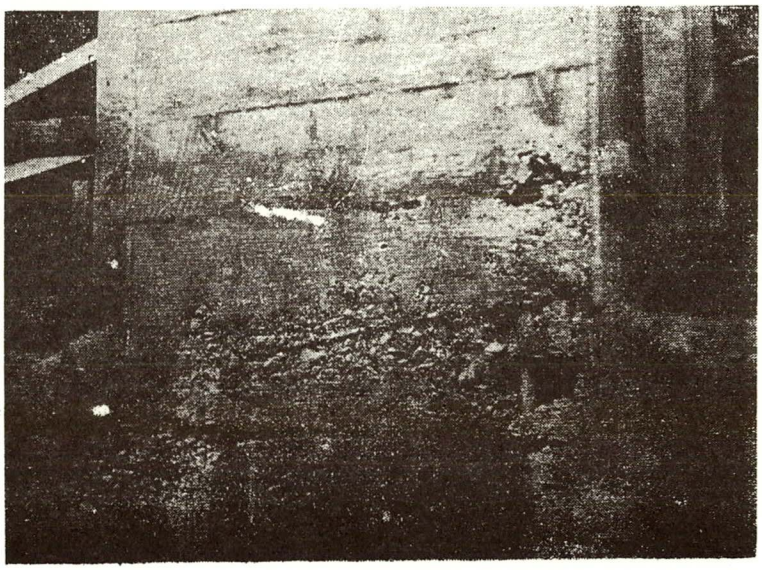


柱及梁壁筋交叉狀態の一例を示す(底頂筋共同樣)



壁梁の床面打ち接ぎ點に於ける補筋を挿入せる一例

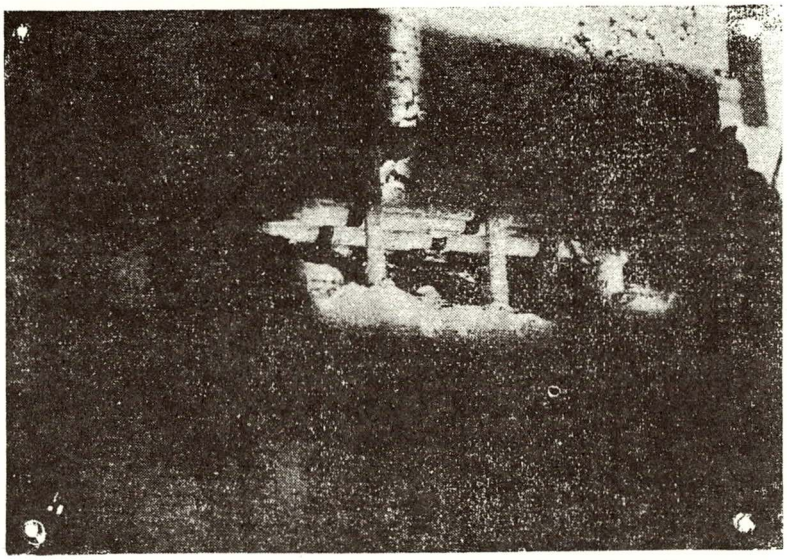
次に梁の打ち繼ぎでありますが大抵は中央又は四分ノ一の所で直角に堰板を取外し易く取り付け然も繼手の所には補助筋を差込む位



側柱と壁梁頂筋の交叉點に於ける蜂房の外部に著われたるもの(1)

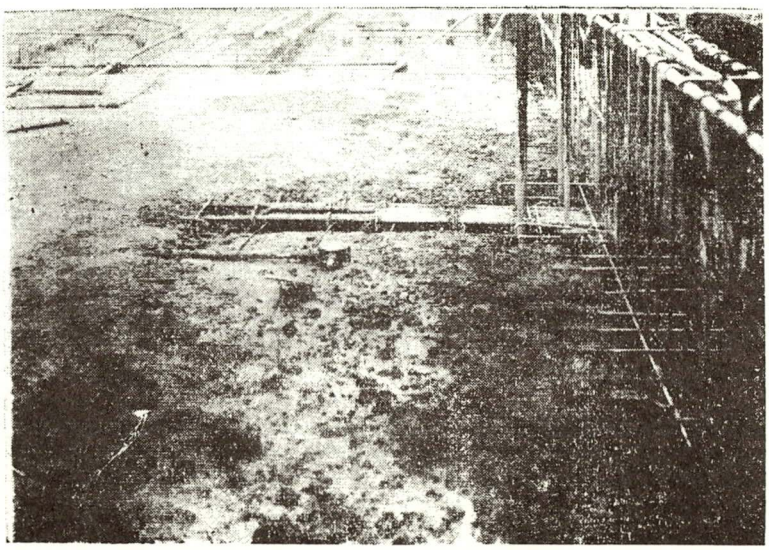
いに仕度いものであります、仕切つた時はコンクリート汁が流れない樣に仕切の所からスコップで入れる樣にせねばならぬ、若し圖面

に示せる如く流れた場合は全部除去せねばならぬ、然らざれば寫眞の如き繼手になりますから心掛けねばならぬ事であります。



（1）の外部蜂房を切り取り内部頂筋下に三ヶ所のポケットのあるを示す
（長さ二呎）

床コンクリートは構造中一番易い所であるからともすると柱の所も梁の上も同じ様にカキ均すだけで片付けて仕舞ふから困る、梁は勿論床の所でもあまり柔かいのを流すだけではよくないのであります、矢張一通りは小蛸にて搗き固め度いものです。床の接手の個所も堰板を切りかぎして直角に打ちつぐ様にすべきである接手も注意して施工すれば決して心配する程の事はないのであります接手を懼れて幾十坪のコンクリートを晝夜連續でやると云ふ様な事は愚も甚だしい事である、梁、床等の打接ぎに注意する事は前日のコンクリートの個所の鐵筋を振動させない様にする事である、夫れで床などは一間手前からコンクリートを打つて打ちつぎの所の鐵筋及床を動かぬ事が大切であります、然らざれば漸やくかたまりかけた鐵とコンクリートが離れるからであります。



床混凝土打止めの悪い一例

## 17 階段打及漏出せるコンクリートの所分

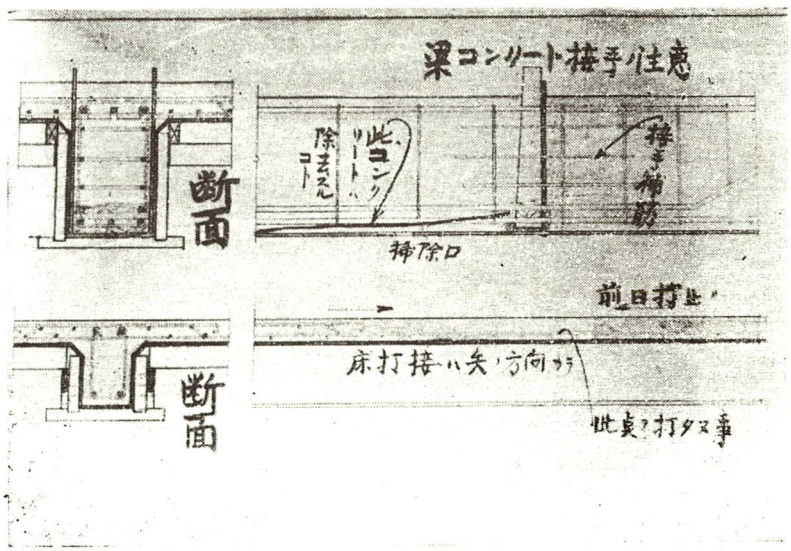
階段は勾配になつて居る關係上亂雜になり易いのであります

す、杜梁よりも寧ろ面倒い位いですから床取り合せの所はモルタルを入念に敷き均し除々に踊場から流し込み幾分固いのを入念に搗かぬと段々に流れ出して仕末に困る若し流れ出たら幾分水の乾くのを待つて鏝にて天端を均し堰板取しを容易にし後日斫り取らねばならぬと云ふ事のない様にせなければならぬ、實際何所へ行つて見てもデコボコだらけに遣りつ放して居る現場のものも不注意だが關係者が此位いの親切がなくてはなりません



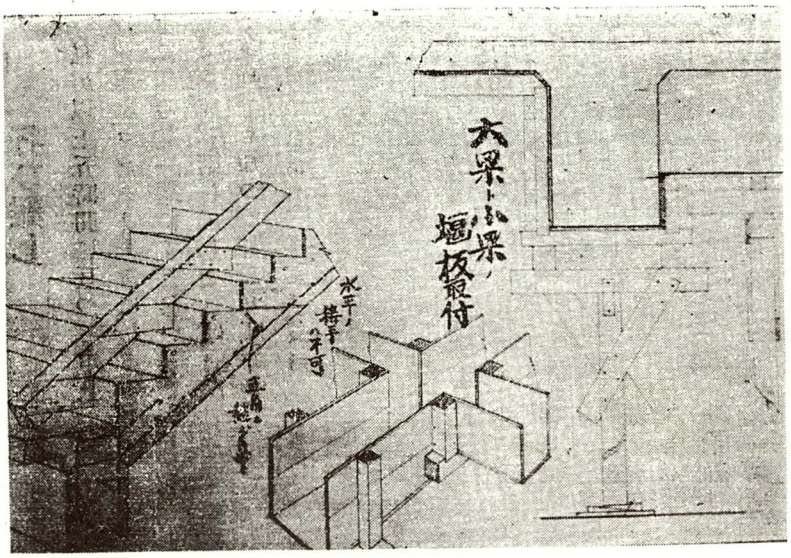
床混凝土打直後の養生の不注意の結果を表す

次に壁地堰板とか柱とか其他床とか何所からとなくコンクリートが漏出する事は始んど全部と云つても間違ない位いであります、特に床が破れたとか堰板がバレた場合はコンクリートを掃除しますが、普通は打ち捨てゝあります、之は他日取らねばならぬのでありますから、硬くなつて斫るよりも水が幾分去つた頃に掃除をして更に混ぜ合して使用する事は經濟上重大な問題であります、斫る捨てる何と云ふ無自覺な事であらう、勿論施工前堰板の下は掃除をして置かねばならぬ。




又施工後二三十分にしてホースで堰板の外面を洗ふ事が必要であります、之は堰板を美しくすると同時に堰板内部の膨脹を平均せしめる事になります。コンクリート良不良は堰板

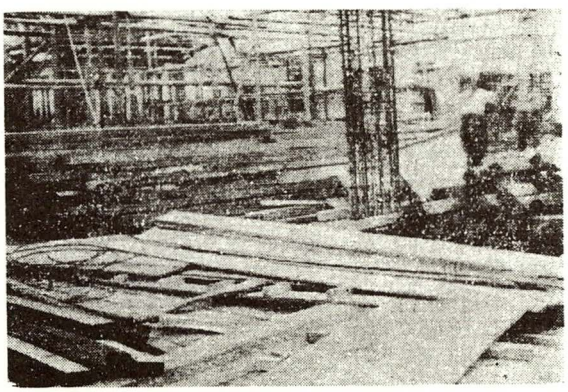
を取外さなくとも大體は後仕末の仕方で豫想する事が出來るのであります、右之如き事柄はつまらぬ樣ではありますが經濟上には重大な影況を及ぼすものであります。




總てのコンクリート打ちを通じて必要な事は手を休めずに萬遍なく搗く事である、コンクリートが來たからつて一度に投入して少し搗いて手を休めるのが一番惡い事であります。

## 18 豆板の意義と處理法

誰れが最初に豆板と云ふ事を云ひ出したのか知らぬが適當な名稱ではないと思ふ、元來西洋では Comb 即ち蜂房（ハチノス）と云ふて居るのであります、今諸君に御目に掛けました豆板の菓子は成る程ザラ〳〵しては居るが之位い地か密であれば何も豆板は心配するに當るまい、寧ろ左



混凝土施立直後(二三日 材料を斯く積み重れ易し

官の爲めには豆板の方がよいのであります、夫れで私は改めて蜂巢塗りと申し度いと思ひます。

右に申上げた樣にコンクリートの施工は頗る困難なものであつて如何に注意をして居ても意外な所に意外に多く蜂の巢が出來る事があります然し今迄御話申した樣に最善の方法を講じてやつたら別にやましい譯のものでない。然るにあまり蜂巢をやかましく云ふため、どんな蜂巢でも一樣に塗つて仕舞ふ習慣になつて居る樣です、餘りやかましく云ふ監督者も心掛けがよくないのである打ち込む時に充分の注意を以て相共に努力するのが責任であらう即ち堰板を取つた結果は監督者の責任であるのに世の多くの監督の中には蜂の巢を見てから文句を並べる此種の人はあはれと云ふべきであります。

蜂巢があるからつてモルタルを以て塗りかくす必要は更にない塗る必要のない豆板まで塗つて見掛けを更に惡くする、故に堰板取外し後若し蜂巢があつた場合は監督者或は計算者に相談の上適當の方法を講ずべきであります、單に見掛りを塗つたからつて內部の弱點を如何にするや、御互が腹臟なき協議と協力を以て事に當たり若し過ちあれば御互の責任で

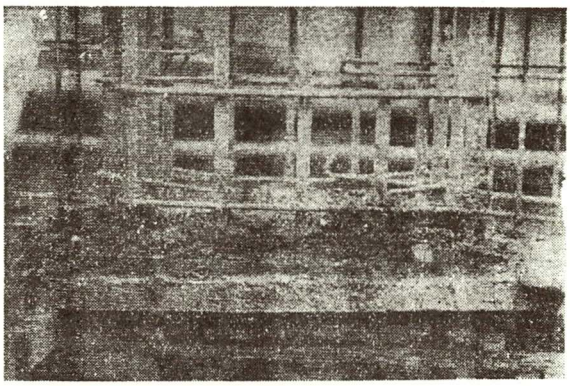
ある以上こそ〳〵卑屈な行爲をせぬ樣に正々堂々とやるべきである。

## 19 云ひ易く行ひ難し

私が以上五時間に亘つて申上げた事はコンクリートにしろ防水にしろ其一端にすぎないのであります、話してしまへば何んだ誰れでも知つて居る事ばかりだと云ひ度くなるのですが如何にせん實際にやらないから困る、前にも申上げた樣に競走の結果下請業者及一般關係者も困難な立場にある事も充分承知はいたして居りますが又一面斯かる重要な仕事にたづさわる御互の研究努力の足りない事を遺憾に思ふのである。實際工事の狀況を見るに



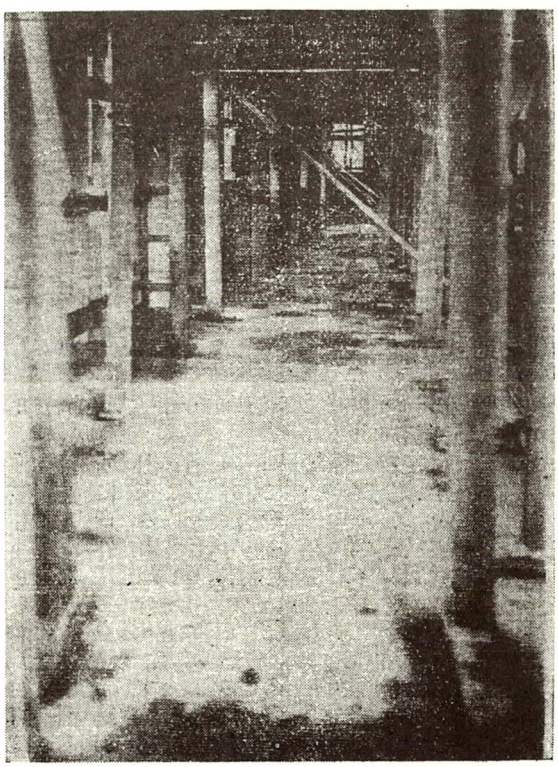
堰板架設後床の掃除を放任せる普通の一例を示す



柱接手に於て混凝土を盛り上げたる惡例を示す

世話役とか其他一二の者を除くと大部分は無自覺な本能生活者の低級な人夫である、斯かる人達を如何にやかましく言つても言葉の續いて居る間だけである、入智慧をしても受け入れるだけの能力のない者は結局だめであります。

入智慧と云ふ事で面白い話があります。或る山寺の和尚さんが大變豆腐がすきで毎日〳〵小僧に町へ買ひやつて居りました、所が途中の駄菓子屋の老人がたいくつなもんだから毎日の樣に小僧に何所へ行くんだと尋ねる豆腐買ひに又豆腐かと、あまり毎日云はれるので何とかよい方法をと和尚に相談しましたらよし〳〵教へて遣る、今日若し何所へと尋ねたら身體は町へ心は他へと云へ、他とは何所だと聞くに違ひない



混凝土施行前に清掃せられたる堰板下の光景

から其時は西方へ、西方とは何所だと言へば極樂だと答へて此所まで教へられて、小僧今日は老人を一本まいらしてやらうと思つてやつて來ると案の如く今日は何所へ行くんだと尋ねられたから教へられた通りに答へますと老人すかさず間ひつめて遂に小僧が極樂へと最後の所を云つてしまつた、老人は重ねて極樂へ何の用に行くのだと尋ねられて小僧愈々返答に困つて矢張り豆腐買ひに行くと云つたと云ふ事であります誠につまらぬ話ではあるが自己の職業的信念のない人間は此小僧と撰ぶ所はないのである。

事實搗棒に支へられて漸やく動いて居ると云ふ低級な人夫を使用せなければならぬ現狀を心から悲しむ者である。尤も無自覺なのは人夫ばかりでない相當教養のある智識階級ですらあるのであります、電車の中汽車の中の僅かの出來事を見ても夫れは容易に證據立てられる程でありますですから人夫などに不足も云へないのであります、御互殊に土工は大いに向上進歩して少なくとも大工同等の價値を認められるまでの實力の養成が大切であります、此大切な仕事に從事する者が二圓や二圓五十錢の手間を支拂れて居る現狀では心許ない次第であります、土掘とコンクーリト作業は同じ節合のものではない是非之は專門的にならねばならぬものと確信いたします。

## 20 自己の職業的信念に生きよ

我々共は職人風情で頭の上りつこなしだから其樣に責任責任と云つたつて仕樣があるかつてな事を屢々耳にする、之がそも〳〵間違つた考へ方なのである。斯くして自らを餘りに安賣する者ではなからうか、吾人は今少し自己の職業に對して堅い信念がなくてはならぬ、丁度時計の表面には二本の針しか見えぬが其内部には大小幾百もの細密な器械がある、若し其内の捻が僅かの不注意から拔け落ちたら立所に止まつて用をなさなくなるが建築も此時計と同じである。人間社會も廣いだけで同じ組織でありますから、一人道を行はねばそれだけ社會は缺損するのである。

フランクリンは座せる伸士よりも立てる農夫が尊としと云つたと云ふが日本でも昔から貧者の一燈長者の萬燈に優ると云ふ諺もある通り如何に弱い者でも小さい者でも卑下する必要は更にない、暑い最中に輕井澤あたりに汗知らずに避暑をして居るブルジョアよりも炎天下に汗を流して働いて居る人夫がどんなに尊いか論ずるまでもない我等は日に燒けた背中から御光がさして居る事を想像して何たる尊い事ぞと涙するのである。

勞働者自身が此尊い信念に生きる事を切に望む次第である後藤子の云はれる人倫化は政治だけではない建築にも必要な事であります、吾人は眞に小さい者であるが限りなき我慾を捨てゝ道の爲めに進まねばならぬ。

世の中は一つ叶へば又二つ
三つ四つ五つ六つかしの世ぢや

でありますから上を見ても下を見ても限りなしでありますから

世を渡る道はと問はゞ兎に角に
慾の淺瀨をゆけと答へん

が最も賢明でなからうか、御互は人間の道を知るにあつて施

工法などは末尾の問題であります。

次に一言し度い事は人格と云ふ事であります御互は人格者と云ふのは學問があり社會の要職にある人の如くに考へ居る樣ですが、人格は學問でなければ又地位でもなく又上品な言葉使ひや服裝に依つてあるものではない眞に各自の職務に忠實に共存共營の常道を實行することである、私は大江橋や渡邊橋の橋詰めで肩曳の車が困つて居るのを立派な紳士が知らぬ顏で行きすぎるのに身裝のきたない職人が助けて居るのを見て之が神に通ずる眞の人格である事を特に諸君に悟つて貰はねばならぬと思ふのである。

## 21 近代的西洋カブレを止めよ

近來各勞働階級を通じて組合を作り團體の力に依つて常に爭議を事として居る折柄にも係らず我建築勞働者等は健全なる意志を以て爭議病の中間入りをせずに頗る眞面目に業界の爲めに努力して居られる事は吾人の最も意を强くする所であります。然し斯樣に申上げたからと云つて私は必ずしも團體とか組合を排斥するものでありません間違つた組合の精神がいやなのであります。

今日流行して居る組合の多數は、西洋の資本主義に對抗する爲めの組合を其まゝ仕入れた我利々々の物質本位て資本家と爭鬪をする事を目的とする、三百代言式の人物が自己のためにやつて居る、實際勞働者は何も知らずに小數の人間の犧牲に成つて居る有樣である。元來勞働組長などは人格者で眞に其仕事に苦勞をした腕達でなければならぬ、然るに大抵の組長は全々異つた方面の口ばかり達者な人間か、さなくば左傾主義の色彩を帶びた奴かであるから組合員の敎化及人格の向上及眞に正當なる利益の保證など望み得ないのである。

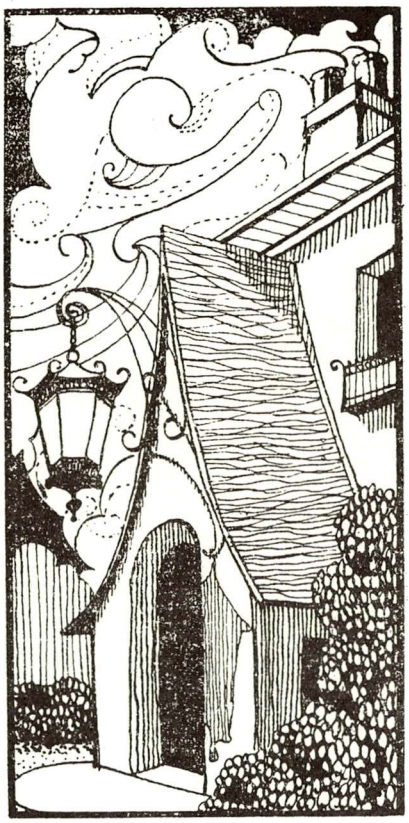
之皆西洋カブレの賜ものと云はねばならぬ、尤も之は勞働運動屋のみでない資本家も學者も皆此傾向であります、あのボーイスカウトの如きも英艦櫻島砲擊で薩摩の靑年團になやまされ實に之は容易ならぬ事であるとして日本の靑年を見て英國で拵へたものを、日本に逆輸入して變なスタイルをして山に登つて遊ぶもの樣に考へ違へをして居る。其他デモクラシイにしても軍備縮少にしろ學生の軍事敎練、扨ては女の足から、男子のズボンに至るまでが總てカブレ屋のみである

吾人はどれ合び夫婦の樣に喧嘩しつゝ同棲するなどを止めて別れる方が男らしい、資本家と永い間正義々々と云つて睨みあつて僅かに二三錢値上げで又其所に働かして貰ふなど恥辱でなくてなんであらう!!! 昔から奉公人の續く家に貧乏なしどうか御互は情に生きたいものである。

幸ひなるかな諸君は他の勞働者の如き間違つた組合を作らなくとも諸君等の幸福は自然に開かれて行く事を私は信ずるのである。開くが如くんば既に兩三年前或識者が職工の保險問題及優良職工共通雇庸に依つて優待する事を提唱せられしと云ふ、時期尙早との事で不幸成立を見なかつたと云ふが既に此點に着意せられた以上遠からず實現を見る事を私は確信するのであります。

諸君に於かれても此意味に於て關係職工等が共同一致社會の模範的實を揚げられん事を切に望む。

永い間諸君がよく御靜聽下さつた事を感謝いたします。終りに臨んで諸君が技術上にも思想上にも職工の指導よろしきを得て斯道の眞の發展に御力添へあらん事を切に御願ひいたして此講演を終る事にいたします。



# 育兒より觀たる住宅

醫學士 大坪德一

育兒と一口に申ますと事は簡單の樣であるがなか〳〵容易ならぬ骨の折れる仕事である。皆樣が家を建築なさると同樣先づ地質から調べて地質によつて基礎工事を異にせらるゝと同じくそれからそれへと建て上げるのには其土地の氣候風土迄も計算に入れられる如く人體も其面の異なる如く各々體質を異にし個性を異にするものでありますから其榮養敎養共にそれ〳〵人によりて多少異なる處がなくてはなりません。然らば子供を強く賢く育て上げるにはどうすればよいかと云ふに申す迄もなく衣　食、住の三要素の調和的力に俟たねばなりませぬ。之は人類の發達史に逆りて考へるが一番早道である。世界開けて何十萬年人類が生れ出てから今日迄誰れ敎ゆるとなく又敎はるともなく子供は自然に育て上げられて今や世界二十億と云ふ人間が繁殖したのは之れ自然の力であります。而して東西各々異なりたる風俗習慣に發達を來たしたのは全く氣候風土の異なる爲めである。雪多き南國に草葺きの家が貴ばれ雪深き北國に煉瓦造が發達したのも其氣候に順應して人間の本性を遂げるために必要にして缺く可らざる條件を滿足する爲めに外ならないのであります。十數年來我日本にも文化住宅なるものが流行し出して『バンガロー』風だの『スペイン』式だの色々と珍妙な建築も見受けられますが、之が雨多き我が日本の氣候風土に適するか否かは實際生活の上より自から定まるものと信じます。私は建築其物は全く門外漢で建築術の歷史をだに知りません。それで建築法は皆樣方の意義ある御研究に委せる事にして扨て日本人は雨多き此濕度の高い島國の氣候風土にさからつて生活を安全ならしむる爲めに住宅として何を要求して居るか殊に子供は其本性を遂げるに如何なる條件を希望するか少しく述べる事に致します

扨て子供を頑丈に而も賢く育て上げるには何と言つても榮養が第一である。此榮養も今日の榮養學の敎ゆる處では其國の氣候風土によりてそれ〳〵異なりたる榮養素を要求するの

である。例へば歐洲大陸の如きは蛋白脂肪を大量に要求し無機鹽類『ヴキタミン』は少量にして足るが我が日本では蛋白と無機鹽類及び『ヴキタミン』を大量に要求する樣なものである即ち大陸生活が自然肉食に傾き島嶼生活が菜食を重んずるのは之がためである。此榮養の問題は一席や二席で說き盡さるゝものではないから後日に讓る事として然らば衣服はどうであるかと云ふと、之も氣候風土に順應する條件を滿足するものでなくてはならない。即ち歐米大陸人が毛のものを纏ふのは大陸の氣壓は常に高く濕度は低く空氣が常に乾燥致しますから隨つて皮膚新陳代謝が旺盛で胃腸の消化も樂である。皮膚から斷へず身體の水分が發散する此皮膚よりの水分發散を防ぐには毛のシャツが一番よい。毛のものは一度濕つたらなか〳〵乾かない。そして體溫を保つには都合がよいのであります。即ち寒さと空氣の乾燥より免がるゝ爲め毛織物を着用する樣になつたのは自然の勢ひである。之に反して實際日本人の生活を一番脅威するものは此の空氣の濕度の高いと云ふ事である。梅雨頃から夏にかけてのあの蒸し熱さはお互經驗する通りである。此の濕度の高いと云ふ事が皮膚新陳代謝を極度迄妨げ胃腸の消化力は減退し腸内の醱酵盛んで色々の毒物を主じ之が腸粘膜より吸收されて血液を汚染するのであります。而して體内の老廢物は常に血中に蓄積して頭痛、倦怠のみならず腦の働きをさへにぶらし人間の能率を低めるのであります。歐洲人が頭がよいと云ふのも身體の新陳代謝が旺盛であるからである。日本人でも獨逸に居ると非常に頭がよくなる理である。之は凡ての洋行者の實驗する通りである。日本が傳染病國であり、結核病國であるのも氣候風土の化育する處であり日本人が胃病患者であるのも之が爲めである。それで日本人の常食が菜食に傾いたのも衣服として綿布麻布を纏ふのも皆此の濕度の高い氣候風土に順應して安樂な生活を送らんがためである住宅の建築も此の雨多き日本の氣候風土に適應して人間生活を助長すると云ふ根本精神を沒却したならば如何に善美を盡し設備を完全にしても住宅としての價値は零である。折角善美を盡した赤坂離宮が永年御使用にならなかつたのも此の根本精神を沒却されて居た爲めである。それでたとひ西洋舘を住宅として建てるにも太陽の光線と空氣の濕度との關係を甘く調和して頂きたいものであります。お互の如く成人した身體は一日一二時間の日光浴をすれば健康上さしたる差し支えはないが此に注意して頂きたいのは乳兒幼兒の如く凡て發育期にある子供には光線の非常に大切なる一事であります。植物に光線の必要なるは昔から知られた事で植物の同化作用は全く紫外線の作用で行はれる事は誰一人疑ふ人もありませんが子供の發育に此の紫外線の働きが植物以上に大切である事が昨今八ケ間敷言はれて參りました、それは光線學の發達したお蔭で歐米では既に殺人光線なども發見せられた如く紫外線の研究が甚だ盛んであります。此方面は皆樣方が私以上に御承知の事と思ひます。つい昨年末米國ロックフエラー研究所より出た雜誌にお互の榮養素中甚だ大切なる『ヴキタミン』が一度其作用を失つたものに紫外線を作用すると再び復活して榮養價を現はすと云ふ樣な事が報告されて居ります。それで日光浴すると云ふ事はお互の體内及び體外を消毒して病毒菌を殺すと云ふ在來の考へばかりでなく體内に生じたる老廢物即ち毒物が無機鹽類と結び付て酸化

され或は還元されて無毒の形となり體外に排出さるゝ其作用を助くる事も知られ更らに又體内に吸收されたる滋養物が既に榮養表としての力が消失したものを紫外線の作用で再び復活して榮養力を發現すると云ふ様な偉大なる力ある事を御承知になつたならば子供は日曝にする方がよいと云ふ事をきちんと頭に持つて頂ける事と信じます。夏の海水浴が健康を助けると云ふ事も鹽水に濕して皮膚に刺戟を與へると云ふ様な事は海水に濕さんよりは少しくましであると云ふ位に止まつて其實は紫外線の力を十二分に身體に作用さするとゝ云ふ事が偉大なる力を持つて居るのであります。序に『皮膚を強くすると身體が丈夫になる』と云ふ事を昔から申しますが之は動かぬ理屈のある事で今日免疫學の發達が之を教へて呉れるのであります。即ちお互が一度病氣になると其病氣に對して免疫體となると云ふ事は皆樣御承知の事であります。例へば種痘法の如きそれである。處が此免疫力は身體の何處の部分で出來上るかと云ふと佛國のベシユレドカ氏の局所免疫説では皮膚及び粘膜の網狀内皮細胞層であるゝ云ふ事である。即ち上皮と眞皮との間の處である。又腸などの粘膜も其上皮層のすぐ次の處にある内皮細胞層である。夫で冷水摩擦や海水浴で皮膚を刺戟すると其内皮細胞層の發達を促し其處に力を入れると云ふ事が身體の抵抗力を強くすると云ふ事になります其皮膚の力は光線の力によりて更に完全なる發達を遂ぐるものであります。之れで發育期にある乳兒幼兒に光線の大切なる事は御了解出來た事と思ひます。

さて日本の住宅を平たく觀察すると吾人の日常生活と間取の配置とが如何にも調和を缺いて居る樣に思はれます。第一が臺所の設備である。在來のものは皆土間となつて平面的に場廣くて不經濟極まるに驚かされます。炊事をするに一々下駄を履くと云ふ事既に愚の骨頂である。臺所に上下する其勞力と云ふものは非常なもので單に時間の空費のみならず身體的に無益な『エネルギー』の消失である。それで土間とせず炊事場も板間として之を立體的に設備すると現在の五分の一位で充分であると信じます。而して其の五分の四を子供室に割り當てたいのであります。

第二、座敷と仙裁の放大にして無用なる事である。而して庭園は多くは家に北面して設けられ折角の仙裁も植木の正面は眺めずして常に裏ばかり眺める事になる。而して嶙々たる岩をこゞみ上げて子供入るべからず近づく可からずである。家の主人は月に一度か二度或は年に二三回の客室に大きな座敷を占領して子供は一歩も踏み込む事を許されない。もし誤つて床の間にでも入らふものならそれこそ大變丸で犬波ひで擲ぐられずんば幸ひ大目玉である。之に反して子供の室としてはたか〳〵四疊半それも母親と同居。それ針立　簞笥、火鉢と云ふものに占領されて子供自身の獨占する場所とてはたゞの一疊か二疊位である。夫だから子供は臺所に吶喊するそれかんてきで火傷すると云ふ有樣である。私は十數年間開業醫として働いて居りますが幼兒の怪我と云ふものは大低住宅そのものゝ罪であります。大にしては帝國の後繼者小にしては一家の相續人たるべき子供が何故に斯くも家庭で虐待を受けねばならぬか之は封建時代の遺習である日本の家族制度なるものが子供は親の附屬物として取扱はれて來た陋習の致す處であると信じます。社會改良は先づ家庭より家庭の改造は

先づ住宅の改良より始めて頂きたい。私の育兒法より申しますと子供は一家の王であり又女王である。一家の方針も一家の經濟も子供を中心として立てらるべきものである。それで私の希望としては育兒の精神を徹底せしむる爲め南面した處に子供室を作りそれは東西南の三面を外面に露出する事とし少くとも八疊以上で板張『リノリウム』敷として其左右竪として大人の室を取る事に致したい。子供の室には手輕な洗面所を一隅に設けて子供自身身體を清潔にする習慣を養いたい。而して仙栽を設ける餘地があれば南側は悉く芝生として西塀に松竹南に櫻東に梅と云ふ風に植込の調和をつけて子供の自由跳躍の運動場に開放して頂きたい。そして在來の仙栽は北側に設けて座敷に南面して造るべきものである。さすれば眞に正面より庭を眺める事となり大人の室は光線の少ない方が氣を養ふに好都合である。昔から茶室など窓を小さくして薄暗く設備されたのも眞に精神を養ふ助けとなす爲めであると思はれます。

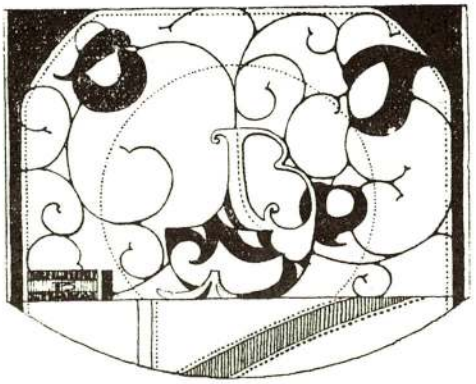
子供が光線を喜ぶのは生れながらにして供はれる本能であります。試みに一ケ月位の乳兒を室外に一度つれ出して暫らく遊び再び室に歸つて御覽なさい。必ず泣き出して外出を訴へるのであります。それで子供室は十二分に光線の透明する樣に設備が願ひたい。在來のクラウン硝子は紫外線を遮へぎるから獨逸では既に紫外線通過の硝子さへ製造されたと聞いて居ります。凡て室の乾燥と光線の透明と云ふ事に意を用ゐて材料を撰んで貰いたい。

住宅地として土地の撰擇には八ケ間敷い理論のある處で一概に決する事は出來ません。土地は高燥を貴び濕地を排するのは古今東西歸を一にする處である。又山地か海濱かと云ふ問題は山河の大勢を基礎として論ずべきであるが山地よりも濱地を喜ぶのは子供の通有性である。恐らく山谷の狹まつた景色は陰氣で子供には一種の淋びしさを感ずるもの、如く長時間の山遊びはとても好くせない。之に反して濱の浪打ぎはなど我を忘れて一日遊び足らぬ有樣であるのは天空快濶洋々として遮るなき海濱は如何にも陽氣で子供の天性を滿足させる爲めであると思はれます。それで理想としては北に山を負ひ海に面する土地が最高であると思ひます。

市街が住宅として不健康地であると云ふ事は第一空氣が惡いとか物騷がしいと云ふ事よりも光線の力が弱いと云ふ事が主なる原因である。彼の人間生活に必要なる紫外線は水分と塵垢煤煙等に吸收されるものであるから等しく日光浴をやつても市街の光線は力が弱いのであります。猶それよりも健康に至大なる關係を有するのは其土地の『エマナチオン』の力である。例を示して申しますと彼の紀南の地に湯崎と云ふ溫泉場があります。彼の土地に子供を遊ばせると急に新陳代謝が旺盛になると見へて非常に食慾が亢進するのである。今此子供を僅々一呷を隔てた田邊の濱に移しますとさんと食慾が減退するのであります。之を單に潮風に吹かれる爲めであると云ふ丈で說明することは出來ません。なぜなれば湯崎を吹く風は一分間をたがへず田邊を吹くからであります。想ふに湯崎灣は元來噴火口であつたものらしい。湯崎の溫泉は其の壁の一部より湧き出すものである。すべて溫泉場は地球の地熱に最も接近した場所である。故に地熱より出す『エマナチオン』が最も盛んな土地である。昔から溫泉に入湯すると健康

を恢復する事は皆人の信ずる處であります。それは温泉に浴すると云ふ事そのものよりも其土地の『エマナチオン』のお蔭で身體の新陳代謝が旺盛になると云ふ事が温泉場の効ある所以だと私は信ずるのであります。湯崎と田邊と僅かに直徑一哩位隔てゝ彼の如く差のあるのはやはり土地そのものゝ『エマナチオン』の力であります。都會地と郊外との健康上の差も此土地の『エマナチオン』を度外視する事は出來ません。

以上申述べた事で育兒上より要求する住宅としての條件は大略悉された事と思ひます。私は現代日本の育兒法に滿足出來ない一人であります就中家庭に於ける兒童の敎養に飽き足らぬ者であります御互か今少しく眞に子供の天性を理解して其人格を認めてやり單に精神的に解放してやるばかりでなく物質的にも滿足なる自由を與へてやつたならば眞に敎養の實が揚る事を信じます之を助長するには住宅其物の力に待つ處大なりと信じます日本建築界の權威ある皆樣方の力によりて住宅か今少しく合理的に改良せられたならば邦家の繁榮上祝すべき事であります。



# 滅び行く都市の樹木

## 大阪では如何な樹が育ち易いか

會員　方米治郎

## 一

張り詰めた薄氷が解けて若草が萠え出すと枯木のやうな柳も永い冬の眠りから醒めて、絮のやうな綠の細い新芽を春風に靡かせ、そして萬物凡てが甦生の思で陽春の麗かな光に惠まれて行くのである。然し都市の樹木の中には再びこの春を待たずしてそのまゝ永劫に枯れ果てゝ行く樹木が年々少くない。嘗ては浪花名所に數へられた樋ノ口堤の櫻も木津川尻の千本松も大阪城内の袈裟掛の松も夙くに枯れ失せて了つて、今や大阪唯一の誇りである大手前の松並木も氣息奄々として僅かに殘骸を保つに過ぎない現狀である。斯くして市内の名木、古木は年一年に姿を消して行くのは洵に千金に代へ難い惜しいことである。大阪では官幣大社生國魂神社を始め市内にある十有餘の府社、鄕社に就てみても、その境内には二三の楠樹の他は殆ど木らしい木は何一つない。誰かゞ大阪の街は滿目蒼の海だと評したのも全く適評であると云はねばならない。

然しながら古い樹が逐年枯れて行くのは止むを得ない當然なことで、自分は徒らに老樹名木の跡を絶つのを嘆くのではないが、大阪市内では新たに植えられた街路並木や公園の樹木でさへも、哀やその成長を阻止され甚だしきは數年を出でぬ内に枯死するものが數え切れぬ程あるから慨嘆せざるを得ない次第である。煙の都で知られた大阪市は乳兒死亡率の多いことでも本邦で高位を占めてゐるが樹木の枯損率の多い點からも又恐らく六大都市中の筆頭であらう。東海道線で大阪を横切る旅客の誰しもがあの林立した煙突から吐き出す眞黒な煤煙圏内に入ると思はず驚異の眼を以て煙の大阪と云ふ認識を強められるであらう。眞實大阪市民は一面その商工業隆

昌のシンボルとして煙の都を誇つて東洋のマンチエスターを以て自任してゐるが、他面には常に煤煙問題の爲に一方ならぬ生活上の一大脅威を受けつゝあるのである。大阪市内でも新たに編入された西淀川區大野町の如きは最近同町所在の某工場と町の人達との間に惡瓦斯の放出が如何に附近居住人の健康を脅かしつゝあるかに就て、その實例を提げて報償問題の爭ひを起したと云ふことを傳聞したが、あの附近は阪神電車で通過しても一種の異臭を感ずるのは事實である。筆者は昨年實地踏査に赴いたが一歩あの町に入つた時樹木と云ふ樹木の乏しい中に、小さい社頭にある二三の丈夫な楠の樹さへ枯れてゐたのには今更のやうに驚かされたのであつた。近時降煤除去裝置の研究に努力さるゝ發明界の方々が二三この種の新裝置を工夫案出された話を聽いたが、吾々植物を特に愛べき立場に居る者にとつては一つの福音で窃かにその完成の護す日を期待してゐるのである。

兎に角も煤煙が人類生活に有害なると同樣、植物體にとつてもその成育伸長を阻害さるゝことは當然である。元來石炭の燃燒が完全であれば煙突から吐き出される煙は當然無色のもので、その有毒成分の含有量も比較的少いのであらうが、今日各所の工場から吐き出すものは多くは不良炭の不完全燃燒によるもので、その內容成分は炭素を主とした煤と未燃燒の炭水化物(タール分、灰分、亞硫酸、安母尼亞等々)である之等煤煙中に包含された亞硫酸其他の有害な成分が或は直接葉面を侵し或は間接に水分に溶けて根部を襲ふが如く植物體に與へる害は甚大であつて、然もそれが四六時中間斷なくやつて來るのであるから都市の樹木にとつては實に致命的の大脅威で、大阪の樹木の枯損の多いことが何よりも明白に之を證明してゐる。

## 二

凡そ都市の樹木が枯損する原因を一般的に探究してみれば左の各項に基くやうである。

一、大氣が不純で惡瓦斯を含み概して乾燥に過ぐること。

二、土壤が瓦礫を混じ肥料分に乏しく物理的にも化學的にも有害であること。

三、地中に於ける慣用瓦斯漏洩及有害成分を含有せる汚水の侵害。

四、路面鋪裝による土中水分の不足に因する旱害。

五、植物を侵す各種の病菌及害蟲の被害。

六、車馬の衝突並に人爲的による各種の被害。

右は主として街路樹枯損の各原因を列擧してみたのであるが、都市の樹木は殆ど同樣の原因から枯損するものが多く、殊に過半は大氣の不純に影響されて樹勢を弱められ、それが爲に或は病蟲の侵害に對する抵抗力を失ひ、或は些細な障害にも生活力を殺がるゝが如き結果に立到るのである。本邦でも外國でも鑛山附近の林地や田畑がその精錬所から排出する鑛煙や鑛毒含有の灌漑水の爲に多大の被害ある事實は從來も屢々報告されたが、今や急激な都市工業の發展に伴つてこの慘害が都市の樹木にまで波及して來たのである。

嘗て英國マンチエスター市や米國ペンシルヴアニヤ州の或る地方では一木一草も姿を消した程煙害の悲慘な實狀が各處で實見されたと云ふことを讀んだが、吾が大阪市でも恐らく

近い將來にはこうした事實が見られるかも計られない。斯く都市の樹木が年々に滅び行くことは單に都市の風致を損するのみではなく、間接には吾人の生活上に大切な植物の空氣淨化作用を阻止する次第であつて、砂塵の防止、反射熱の調和大氣の乾濕調節等一見微細に考へらるゝもその實偉大な効果を齎らす諸作用が凡て出來ないことになるのである。獨逸の學者ウイーレル氏及ヤンゾン氏の研究報告に基いて京大の關口農學士が嘗て發表された記述によれば、都市の樹木の枯損する主要なる原因は次の三項に分たれてゐる。

一、石炭の燃燒による酸性有毒瓦斯（特に亞硫酸瓦斯）が樹木の葉に有害作用を與へること（それが爲に四季葉を存する常綠樹は冬季間葉を存せざる落葉樹よりも被害が一層多いのは當然である）

二、煤煙や灰塵は又陽光を遮蔽して植物の炭素同化作用を阻げ植物の榮養を害ふが爲その伸長成育を阻害すること

三、都市の土壤は概して空氣中より絶えず降下する酸の化合によつて不溶解な硫酸石灰を生し、爲に植物榮養素の一つとして大切なる石灰分の不足すること。

尙ヤンゾン氏は煙害の及ぶ範圍は煙突の高さの三十倍の距離を半徑とした區域内に及ぶことを定義してゐるから、假に煙突の高さが六十尺あるとすれば之を中心に三百間即ち五町の半徑の圈内が被害區域となるのである。實際は風向の如何によつて近くに煙突があつても更に降煤を見ぬこともあるが計算上の被害區域は斯樣になつてゐる。

飜つて實例を大阪市に求めてみると誰しも容易にこの事實が成程と肯定出來るのである。先づ大阪市内の主なる十箇所に就いてその降煤量を調べてみやう（左表は曩に大阪市立衛生試驗所に於て調査發表されたものゝ抄錄である）

大阪市の空氣清淨比較（一立方米突中の浮遊煤煙量を瓦數にて示す）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 九條 | 一・五四 | 中之島 | 一・四三 |
| 天六 | 一・二三 | 西野田 | 一・〇〇 |
| 船場 | 〇・八三 | 今宮 | 一・三九 |
| 阿波座 | 〇・六八 | 千日前 | 一・〇〇 |
| | | 桃谷 | 〇・七一 |
| | | 築港 | 〇・七一 |

（此中で中之島の多いのは淀川筋を上下する小蒸氣の多い爲であらう、又工場の多い九條、今宮、天六方面が多いのも當然である）

更にこの報告に附記された同所長藤原博士の說明によれば大阪市の空中浮遊煤煙量はハンブルク市やベルリン市よりも多量であるさうである。

尙大正十四年度の統計を見るに大阪市内で百人以上三百人以下の職工を使役せる工場は總數一九九で、三百人以上の工場は六三となつてゐる。煤煙問題を云々するにはその源泉たる工場分布や空中の煤煙浮遊量を基調としてから說いてかゝらねばならないが、之等のことは夫々專門識者が屢々研究もされ報告もされてゐることであるから、門外漢の自分はこの位に止めて樹木枯損の實際的調査に筆を進めることゝしよう

## 三

大阪市（主として舊市域内を指す）の街路並木は大正十五年には四月の現在數が一一、三二六本であつたのが、同年十二月の調査ではこの中で八九〇本が枯損して僅々八ケ月間に約八パーセントを失つてゐるさうである。即ち之を樹種の内譯別に表記してみれば

| 樹木種別 | 大正十五年四月現在數 | 爾後枯損セル員數 | 枯損百分率 |
|---|---|---|---|
| プラタナス | 六、五五九本 | 五六一本 | 八・五% |

| | | | |
|---|---|---|---|
| ニセアカシヤ | 一、八九一 | 一一二 | 五・九 |
| イテフ | 一、一八六 | 一三一 | 一・一〇 |
| ポプラ | 六一二 | ―― | ―― |
| アオギリ | 五〇八 | 八四 | 一・六六 |
| シダレヤナギ | 四一五 | 二 | 〇・四 |
| サンカクカヘデ | 一五五 | ―― | ―― |

街路樹の種類としては獨り大阪に限らず東京でも、神戸でもプラタナスが主位を占めてゐるが、之はこの樹が必ずしも理想の市街並木と云ふのではなくして、大阪の如く植物生育上不良條件の揃つた土地即ち換言すれば樹木の育ち難い都市ではプラタナス丈が比較的良く育つて呉れるから止むを得ずこの樹が最多數を占めることになるのである。實際に就てみるにこのプラタナス（鈴かけのき或は篠懸樹と書く）は一番強壯で成育も迅速なればよく繁茂して日蔭量も豊富で、土地の瘠惡にも又土中の水分の不足にも堪えて生育して呉れるのである。然るにこうした強い性質を有つた樹でさへ大阪では東京よりも多く枯損するやうで、東京市の並木の平均枯損率は百分の五位であるが大阪では百分の七若くは八に達してゐる近來は交通事故による並木の折損が激増したから百分の十位にも上りさうであるからこの際御互市民は一層注意して並木愛護の實を擧げ、滅び行く都市の樹木を一本でも保護することに努めたいものである。

## 四

方面を換えて市内の公園や私有の庭園に就て見るに之も又同樣の傾向が認められる。即ち煙害に弱いマツ、スギ、ヒノキ、モミ等の針葉樹は殆ど今日は市内では認められない位少いやうである。尤も針葉樹の中でもイテフ、カヤ、カイヅカイブキ、ヒマラヤシーダー等は耐煙性もあれば樹性も強いので乾燥にも抵抗して比較的よく育つやうである。扇町公園は西九條公園と共に大阪の市内公園中で最も空氣の不純な區域にあるが（前出の降煤表參照）この天六、九條附近に集團した煙突からの惡瓦斯と煤とで樹木と云ふ樹木は何れも薄黒い被膜樣のものに被はれ丈夫なニセアカシヤの新芽でさへ時には發芽を阻まれた位である。左に扇町公園に於ける最近三ケ年間内の樹木枯損の調査表を掲げ、如何な樹が比較的丈夫でこうした惡い環境の内でも育つかを判別する資料に供することゝしよう。尚附記して置くが同公園は大正十二年の新設で爾來滿三ケ年を經過してゐるから之等の枯損樹木の中には新たに植えられたものが充分に活着せずして枯れたものもあれば又定植後一度は旺盛になつてゐたのが枯れて來たものもあるその枯損の原因も同所が砂地である爲に過度の乾燥から害を被つたものも多少はあらうが、然し何と云つても煙害による被害が過半以上であるやうに認められるのである。

| 樹木種別 | 枯損率 | 樹木種別 | 枯損率 |
|---|---|---|---|
| ハナアカシヤ | 七五％ | サンゴジュ | 三・三％ |
| カヘデ | 四二 | ヒマラヤシーダー | 二・七 |
| マツ | 三三・三 | クス | 二・五 |
| ケヤキ | 二八・六 | イテフ | 一・五 |
| ヨシノザクラ | 二一・三 | ヤツデ | 一・一 |
| ニセアカシヤ | 一七・八 | ネヅミモチ | 一・〇 |
| カイヅカ | 六・七 | モチ | 〇 |
| キヨウチクトウ | 五・四 | モツコク | 〇 |
| ヒラドツヽヂ | 五・〇 | ウバメ | 〇 |
| プラタナス | 五・〇 | マサキ | 〇 |

尙市内の各方面に散在してゐる大阪での古くからあつた名園（例へば津守新田の白山別邸、春日出の八洲園、生玉の吉田邸、天王寺椎寺町の舊逸見邸等）に就て見ても調査の結果は殆ど同樣である。之等樹木枯損の狀況を綜合して考察するに比較的樹性の强健にして煙害に抵抗する素質を有つものは殘在してゐるが、然らざるものは殆ど滅び去つてその種類を殘してゐない。大阪の公私の庭園を通じて一貫したこの傾向がよく煙害に滅び行く都市の樹木の悲哀を瀝然と事實に物語つてゐて呉れるやうである。

## 五

之を要するに都市殊に大阪のやうな工業都市の霧圍氣の不純な市街地では、今後新たに補植する樹木の種類は充分に吟味撰擇した强健な種類の優良なものを以てせねばならない。然らば如何な樹木が大阪のやうな土地にでもよく育つて行くかと云ふに、現在大阪の各公園にある樹木の多くは、自然淘汰の生存競爭に優勝したもので、之等の種類が先づ大阪でもその他煙害の憂のある地方でも恐らく比較的丈夫に育つものであらう、即ち次に列記してみよう。

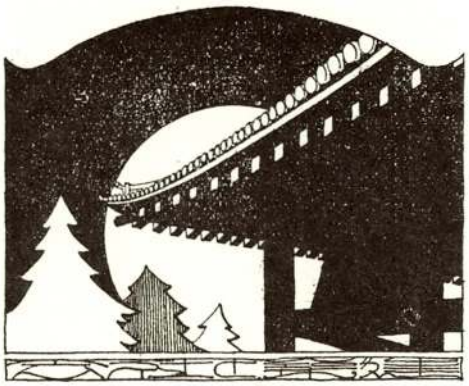
◇常綠樹に屬するもの

クス、モチ、ネヅミモチ、シヒ、モツコク、ツバキ、シャリンバイ、トベラ、ヒサカキ、タイサンボク、ヒマラヤシーダー、カイヅカ、カヤ、タラエフノキ、サンゴジユ、ユツカ、マサキ、ヤツデ、ウバメガシ、カシ、キヨウチクトウ、アオキ、ヒラドツヽヂ、サツキ、オガタマノキ、サンシヨウ、等々

◇落葉樹に屬するもの

エノキ、ムク、イテフ、プラタナス、サンカクカヘデ、アオギリ、ニセアカシヤ、フジ、ヤナギ、ポプラー、ニレ、ヨシノザクラ、センダン、等々

勿論之等の樹木は性質が强い方ではあるが適當な季節に移植し、植込後は相當肥料分を補給して適度の水分を與へ又病蟲害の手當等周到な注意の下に、管理を怠らぬやうにせなければ數年ならずして枯死して了ふかも計られない。樹木も生物である以上常に愛護の念を以て手入してやらなければ決して充分な成育は望まれるものではないのである。過日大阪在營の步兵聯隊では樹木愛護デーとか云ふ名目のもとの全隊の兵隊さんが營庭の樹木手入に一日の休日を費したとか云ふことが新聞に傳へられてゐたが、洵に欣ばしい意義のある催であると思ふ。吾々の祖先が綠に圍まれた自然境に住居を有つた昔を偲べば、何人も樹木愛護の念を想起することであらう。先覺者は『都市は田園に歸れ』と叫び、『都市は綠化すべし』と論ぜらるゝ今日、自分は所感の一端を綴つて滅び行く都市の樹木の爲めに諸彦の御淸讀を煩はした次第であるが餘り長くなるので樹木保護の實際的方法其他に涉つては他日稿を改めることにして茲でこの筆を擱くことにする。（二、二、一五）



# 建築の藝術

田中國益

本誌第九輯第九號に物されたる松浦助君の建築藝術に關する懷疑に對して。

建築が藝術であるか否かに就いて今更述べる迄の事もありませんが、松浦君の抱かれる懷疑に對して未だ何人よりも、回答を與へられた人がありませんので、少しでも先輩として社會の構成の一員を占むる我々が、同君の論文に對して余りに冷淡である樣に思はれるので、菲才淺學の私が私の建築觀の一端を披瀝して、同君の參考の一部に資したいと思ひますが、幸にして目的の一部たりとも達し得るならば幸甚の至りであります。

建築の定義に就いては多くの先輩諸賢が述べた樣に

"Architecture is decovated Construction."

"Architecture is suitble arragement to meet certion mants."

でありますが此處に建築の發生論から考察を進めて行く事もあながち不要な事でないと思ひます。

人類の發生は五十萬年前であると人類學者は論じておりますが、人類が發生してから而かもそれが現在私共が人として見る樣な大體の型體を具備した時には直ちに審美觀念を有してゐたか否かと云ふ事は甚だ疑問に屬するものにして今假令その時審美觀念を有してゐたにせよ、それを何等かの方法手段に依つても表現し得なかつたかと云ふ事も考へ得る事であります。若しその時審美觀念を有してゐなかつたとすれば何時頃より此審美觀念を有する樣になつたかと云ふ事が疑問として生ずるのであります。

私の此淺學の知識に於ては到底之を何れとも斷定する事は出來ませんが、私は今小兒が赤い美しい着物を着て喜ぶ樣に又猩々が美しき少女を見て美的享樂を得る樣に、又猿公が赤い着物を着て喜ぶ樣に我々人類の祖先が五十萬年前に於て人

類としての型體を形成した是には既に審美觀念を有してゐたと假定したいと思ひます。

そしてそれが表現の域に達してゐないにしてもそれは表現し得べき迄に彼等の內的生命が、認識し得なかつたか、又は經濟的に表現し得なかつたと假定しても無理ではあるまいと思ひます。

斯樣にして私は我々の祖先である所の人類が、人類としての名稱を附け得る型體を具備した時には既に審美觀念を所有してゐたと假定しても大なる誤謬では無いと考へます。然らばその我々人類の祖先は何處に最も早く發祥したかと云ふに之は勿論人類學者及歷史學者が論定されてゐる樣に中央亞細亞から西部亞細亞に亘る一帶の地を抱含する地方を最も古き人類の發祥地とする事は近代史家の所論として誤らざる論定であると信ずるのであります。

斯くて此地に於て祖先をなした人類が彼等の衣食住の一つとして撰んだ住を如何なる型體を以つて撰定したかと云ふ事は第一に起る問題として成立する理であります。然しながら文字が示す樣に、住は衣食住の內最后の問題として起るものにして人類として最初に起る慾望は食であつて是は赤ん坊が生れると同時にオギャーの聲を發して食を求むると何等撰ぶ所は無いと思ひます。かくて彼等が暖を攝る最初のものとしては衣を欲し、最后の慾求として殘つたのが住であります。

その最初に求めた所の住に對しては、今迄の學者は住に必用なる體系に依つてのみ構成された樣に論定されてゐる樣でありますが、少なくとも住として學者が論定された型體に於ては、既に審美觀念が僅少なりと雖も存在してゐた事は否定出來ない事實であると信ずるのであります。それは如何に原始民族と雖も美しき花、美しき少女、夕陽に輝く赤き雲、雨后の空を飾る虹を見て美しきものであると審美心を刺激されない事がありませうか。

此の內的生命の存在を或人は人類の美的慾求 Atheticalness と稱しておりますが、此如き美的慾求が原始民族に、生活即ち生きんとする生命なる重大な慾求を離れて如何なる型式を取るか、と云ふ問題に對して最も研鑽を要する事でありますが或意味に於ては、彼等は美しきものを作る等の如き彼等自身の慾求を認識せずして既に彼等は本能的に美しきものを作り而も之が實用と一致せるものを創作したのであると斷定して余りに無理でない事を信じ得るのであります。現在我々が目擊する所の彼等の遺物に對して、我々が見て麗しきものを生活の必需品として製作せしと思考する事は危險であります。彼等は生活の樣式としては極シンプルなる型を取つたのでありまして、今日我々が見て麗しきものと見做す所の物は彼等の生活の必需品で而もより良きより精巧なるものであつて彼等は生活の要素であつたのであります。即ち良く磨かれたる斧は美しきものを作らんとしたるにあらずして、彼等の生活の大部分を占有する大なる要素である彼等の狩獵等の必需品であり又之等の柄等も同樣の意味より。柄に刻まれたる紋樣は彼等自身の所有を明白にする爲の記號であつた事、又動物の繪畫にしても彼等は動物の一個のモーションより次のモーションへの變位の狀態に於ける運動を最も如實に而も銳敏に畫き出した事は、同樣に彼等が捕へんとする動物の運動の研究に過ぎないものである事は、獨逸のグローゼ敎授の所論が

至當なる論定であると信ぜられます。

斯様に我々の今日考ふる實用なる事は、美と一致したものであつた。即ち實用と美は並行すべきもので決して離す事の出來ない不可離の物である事は論を俟たない事であります。即ち實用へと稱する事は美的効果へと稱する事であつて、喩ばグラニットを大理石に置き換へる事に依つて決して美しきものを作る事にはならないので、グラニットはグラニットとしての美しさがあり大理石は大理石としての美しさがあるのであります。

畢竟するに最も實用に適合したる物を作りたる時最も美しきものの創作された時であつて、是を以て始めて建築なる文字を與へる事が出來ると信ぜられます。即ち建築とは必要に順應して作られた三次限藝術と稱し得ると信じます。

然るに歐洲に於ては中世紀の末期より又支那に於ては唐朝の末期より、實用と美とは別個の存在として表現される様になつた事は實に歎かはしい。事實として今尚其形骸を殘しておる事は建築の墮落と稱するより外に表現の言が無いと思ひます。

斯くの如く原始民族に於て審美觀念を有しており而も彼等の創作にかゝる實用的物件は即ち美的創作として價値ありしものが、歷史時代に於て實用と美とを切り離して、全く別個の單獨物との、實用は實用として彼獨特の方向に進み裝飾は裝飾として彼獨特の進路を取り裝飾の爲の裝飾となつた事は時代の建築家の罪として未長く存置せられる事となります。然るに現今に於て之等の惡弊を打破し歷史を反復して、裝飾を意義あらしめ裝飾をして實用と一致せしむる事に社會の思潮が動きつゝある事は慶賀すべき現象にして我々建築を學ぶ一學徒として双手を擧げて歡喜の街に頰笑み得る幸福であると信じております。此の裝飾と實用の合致を事實上その創作品の上に表現して燦然たる建築の美を輝かした天才的建築家の第一人者として多くの人の中よりエ、リヒメンデルスゾーンを私は擧げたいのであります。

斯く論じ來る時に我々の創作せんとする建築は如何なるものであるかと稱するに、それは勿論それが過去の模倣であつてはならない。又過去の因襲又は習慣に囚れてはならない。即ち我々は今迄の習慣として部屋は六面の面を有する六面體である様に肯定的に思考してゐた事は一個の囚れであつて、決してそれが六面であらざるべからざる法則はなく、それが五面體であらうと四面體であらうと八面體にならうと、それが生命づけられる爲には自由に改變を加ふべきは當然の理であります。即ち模倣と因襲を脫して凡ての作品は創作でなければならない事、又我々の作品が或權利に依つてその延びんとする生命。與へられんとする生命を摘み取られざる事、例へ希望と憧憬と理想の赤き熱情に燃へる青年建築家が彼の主人たる上官、又は古參者たる頑迷なる老建築家に依つて彼の熱情の表現たる建築創作が無慘にも嘲罵の蔑言を以つて退けらるゝ事は往々に發生する事實にして、此の如き固陋なる手段に依つて壓迫されて建築の生命を奪ひ取られざる事を望むと共に、若しも頑迷なる權利に依つて壓制されるならば正義の理論の旗を押し立てゝ之に挑戰し得る雄々しき勇敢なる青年建築家の多くあらん事を歡迎するものであります。斯くの如く作品が創作であつて、而して生命づけられて一個の有機

體となり始めて建築が藝術作品として表現し得るのであります。然らざる時はその作品は一個の生命なき偶像であつて、只空間を占有する一個の物體に過ぎざる事は勿論であります。

然らばその創作的作品は如何なる型體を取るか。勿論建築が三次元藝術作品として表現される以上二次元の藝術作品たる繪畵等より創作が生命表現に困難な事は當然であります。更に建築が同種の三次元の藝術たる彫刻に比して困難であると云ふ事はその間に力學の應用が存在するからであります。勿論構造等の些細な事に囚はれて自己の生命力たる自由の表現を防害され、從つて作品の生命力を減退される如きに至つては、主客轉倒の第一歩ともなりますが、事實尙一歩を進んで考へる時は、建築が力學的に充分合理的に構成される時が最も實用的であると稱し得られますから、構造もその實用の一部として實用の構成分子の中に編入する事が最も至當な考察法と信じます。此點も誤解を招かない樣にするが肝要であります。故に構造も充分合理的であると同時に無理のない事が必要であります。

又建築の如き三次元の造形美術に於てその主體となるべきものは何であるかと稱するに、勿論その形體であります。即ちプロポーションであります。從て之に附加される彫刻、繪畵、色彩の如きものは從となるべきであります。例へば今此處に數個の形を異にした花瓶がありまして、それに種々の紋樣又は繪畵が施されてあつた場合、その何れが花瓶として麗しきものであるかと稱するに、決して紋稱又は繪畵の美しき花瓶が全體として美しき花瓶にあらずして、最も麗しき花瓶はその內の最も形の美しき花瓶、即ち最もプロポーションの美しき花瓶が最も麗しきものであると鑑賞する事が最も聰明な鑑賞法だと信じて疑ひません。それは總て三次限の藝術品即ち立體藝術に於ては、その型體即ちプロポーションがその美的價値の主體となるべきものであつて、紋樣とか繪畵とか彫刻とか、之に書かれ又は刻まれたものは從體となるべき部分であつて、主たる型體美の補助となるべきもので尙換言すれば此の附加物に依つて主たる型體美をより美しきものとなすべきもので、決して之を以て美の本體となすべきものでない事は明かであつて、主客を轉倒して、濃厚なる色彩とか繪畵を施す事の誤りたる事は言を俟たない事であります。故に最も美しき花瓶はその型體の最も美しきものであつて、又最も美しき建築はプロポーションの最も美しきものである事は當然斷定し得る事であります。

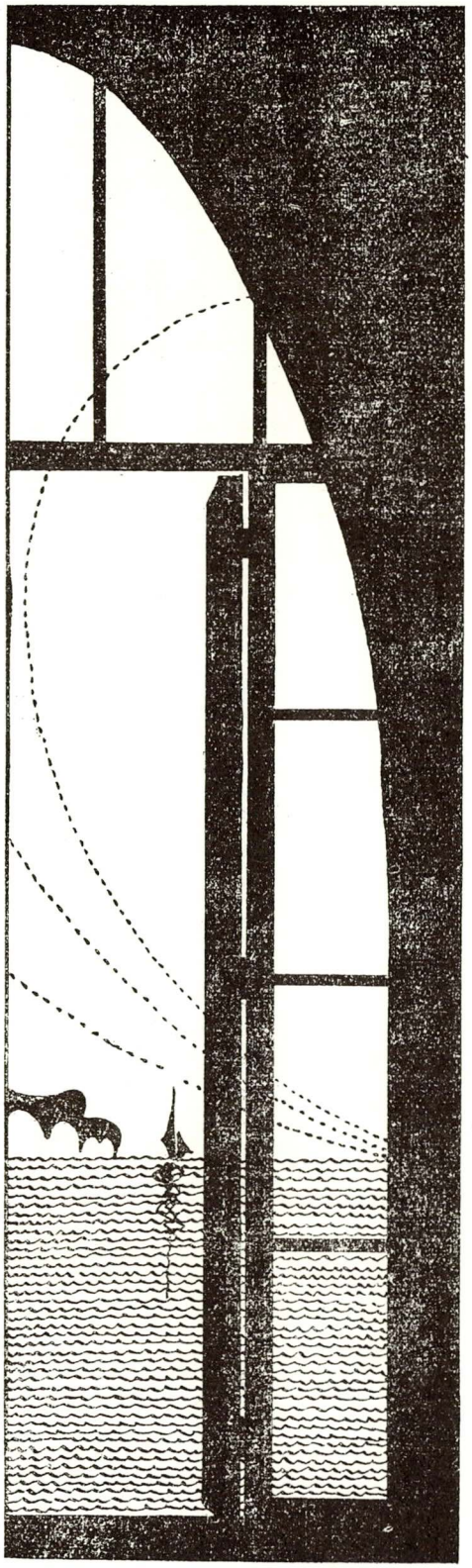
此點より觀察するとき我邦の九谷燒の盃の或る一部に見る樣に杯一面に紋樣や繪畵を濃厚に施したものはその從たる紋樣のみ余りに強く表現されその主たる盃の美しき型體は蹂躙されて甚だしく貧弱に表現されておるといふ事は、その盃その物の美的價値表現のセントラリゼーション (Centrolization) を誤りたる表現の方法と見做しても余りに不當なる鑑賞とは云ひ得ないのであります。

我々は斯の意味より觀察して建築の美的價値表現の第一義的創作法は其プロポーションにある事を見逃す事は出來ません。而して之に從たるべき又は補助たるべき色彩彫刻等を施してその創作の生命に艶をつけると解釋すれば最も當を得た而かも平易の見方と信ずるのであります。

寔に愚言を弄して貴重なる紙面を費した事は、恐縮に感ずる次第であります。斯の拙文が松浦君の御參考の一片ともなれば小生の望は達せられます。(二、二二)

# 新居漫談

會員　津田鑿



或る町に時めく成金が住宅を買入れた。そうして當然なされるべき增改築修繕其れから堂々たる表門の新築、天下の富は己一人のものと計り威勢よく工程は進み殘るは裏門取設けの位置はこの邊がよからうと在來の塀を取毀して切り明けられた處で丁度向側に成金ではないが相當社界に重視さるゝ一人の當時浪人（現在は顯官に飛び上り）某の表門にぶつかつたそこで浪人頗る憤慨し彼奴成金何者ぞ己れも知らぬ顏でない場所もあらうに何も吾輩の表門の前に自分の裏門を附けづともよからう其れ程貴樣は糠味噌の臭いをかゞす氣か當時は拙者浪人の味方であつた爲め私が談判を致しましよう幸ひ先方の現場監督とは顏馴深ゆへ心丈夫に譯なく引受けた扨て浪人の申出には當方の門は庭の都合で一ケ所よりない貴方成金方には門の位置は二ケ所ある其れ程自由な敷地の持主であればどうか考へて頂きたいそうして多少當方正門より貴方臺所か

ら出入の魚屋、八百屋君の目障りにならぬ處に片寄せて貰ひ度い上使の趣き斯の如くと申し送つた其の時成金の返事が面白い確かに承知した併し自己裏門の位置に附いて他人より別に苦情を受くべき理由がない當方では既に貴方の正門中心よりは遙に右に寄せてある其れ相應注意をした結果だ現在の位置でいけねば當方の都合よき樣更に左に寄せ正門と裏門を一直線に見通しやすき樣に致すべく左樣御返事申上る、これで相談は破裂使者の面目玉を潰し放し春秋過ること幾年互に面白からざる感情であつたらう處が今度浪人は顯官となつた成金商賣上の抜き差しならぬ關係から早速眼の下三尺の鯛を持參御目出度言上に自分の裏門を潜り浪人君をつと顯官殿の正門に入つて來た、知らぬが佛拙者丁度通り合せどんな顔をして來たか横眼でにらんだ時は痛快であつた。

昔の町人今の實業家先代活動の賜もので幾千萬圓かの身上に成り上つた我慢辛抱して居ても其處が凡夫のあさましさ西行法師が鼻を拭いた紙を數千圓で堀り出す太閤の柄杓はないか富士山を庭に私して見よう小笠原島に獅子狩りでもしやうとか人は金で動くとか勝手な熱を吹く樣に余程調子が狂ふて來る其の內堂々たる邸宅を建てることになつた關西著名の建物は勿論江戸は申すに及ばず相當研究の結果三十余案設計の出來上つたのはよく纏まつた邸宅である初めの內は調子よく進行したのが追々成金風に襲はれ到る處に他人の家が目に就き其の通りと變更改築が行はれ技師一向面白なく不平滿々おかしなものは出來上る是れに引き替へ主人公は得々たるもので最後に變更に變更をついだ『ドエライ』玄關が出來上つた處が之は殆んど御飾り物で役には立たない平素大抵は內玄關を使用して事足る主人より少し利巧で正直な大政所歎じて宜くわらわ此の玄關から出入は氣羞しいありんす。

B博士は何處をどう工面したものか文化村に新住宅が出來上つた殘るは隣地と塀の問題で博士の隣りはH書伯である文化村の規定はなるべく一致する樣三方組立鐵筋コンクリート高六尺の塀に取極められてある博士は趣味の上から堅苦しい塀より植込にしたいと主張する書伯は隣家より見透さるゝは御互に面白くない是非規定通りと譲らず中々折合はない角突き合ひは相當に永く續いた博士は其儘かまはず移轉した塀なんぞは何處を風が吹くかと云ふ調子、納まらないのは書伯近く移轉をしようと云ふに塀が出來ねば心持ちが悪い心持ちが悪くては製作は『ゼロ』だ一つおどかして呉れよう。

書面に曰く

兼て協議致したる境界塀の件其後御考へ如何當方移轉と同時に今回買求めたる獰猛なる『ブルドック』夫婦引き連れ參るべく注意は致すべく候得共何分畜生の事故生垣植込みを突破萬一貴方御子樣にでも喰い付き候ても當方責任更に無之何卒右豫め御承知置被下度爲念一札如件　頓首再拜

或る人格高い老教授は『キリスト』教の大信者であつた數ある建築家の內で特に同じ道を歩む人にと自分の住宅を依頼した勿論何れも神樣を信じて凡ての事が取極められた工程遲々たる割合に工費は既に殆んど拂ひ濟みに近けれど何時引渡しを受けるか素人眼にも見當が附きそうでない折も折、大震災で工事は『ドカン』と中止して仕舞ひ其後初まる樣子は更にないのでしかたなく（書き添へるが此の人は建築士でない設計施工をする人である）再三の催促注意嘆願博士と建築師との間に談合されても『のらり』『くらり』一つも要領を得ない最後に

流石の博士もどう〳〵辛抱しきれず専門家に一任したH辯護士は建築師に懸け合ふ爲め博士に參考となるべき書類の提出を求めた博士の答は振つて居る私は神樣の前で『バイブル』に私と建築師と手をのせて住居に對する凡ての相談をして工費は何圓、何坪の家に注文は是れ〳〵出來期間は何年何月別に書いて印を押したものはないよく考へて見たらH辯護士に此の事を御願ひした事は愧しい次第であつた未だ私の信仰がたりないからであるどうかあなたもお祈り下さいそうして此の『バイブル』の上に手をのせて下さい天にまします吾れ等の父よ私はH辯護士を煩らはした事を深く神に懺悔致します私は私の信賴する是の建築師と神樣の前で住宅の新築を依賴しましたどうか凡ての障害を排して一日も早く新居に引移らるゝ樣御願ひするのでありますアーメン。

新居の御祝に知り合ひから眞心こめて送り物をするのは美しい風習で普通になつて居る然るに是れは又例外でE氏の新居が出來上つた垣根越しに〇〇主義者が巢を喰つて居つたのに氣が付かなんだ、引越當日、酒屋、八百屋、肉屋の小僧が賴みもせぬ荷物の運搬をして御得意を取るのは一つの手段である砂糖に寄せる蟻の如く幾何追ひ拂ふてもすぐ集まるのはうるさい其のごさくさ紛れに知らぬ他人から鷄卵の一籠が屆いた暢ん氣な主人公遠慮なくバク附いて仕舞い數日を過ぎた頃人相あまりよろしからぬ人物玄關に雜誌大の名刺を出し面會を求めた、どうも知らぬ人である再三押問答の結果隣家に住居し過ぐる日新築祝に鷄卵の送り主である事が判つた是れはしまつた御返禮が遲れた實に恐縮千萬の次第である時候の挨拶鷄卵の御禮、送り主は又新居の讃美庭越しに時々拜見する一家御團欒の有樣は恐察申上る特に『ベランダー』で籐椅子の配置よろしく煙草が煙を卷いて天上するのは御羨やましい次第である處で一つ御願ひが御座る實は主義者連の雜誌發行に來月の資金に差支へる新居の御樂しみに對して何んとも申兼ねるが金五百圓也の御寄附を願ひ度い主人公呆然內心驚きながらもどうやら其の場は兎も角追い迫し『ソラ』籐椅子を片附けろ障子を締めろ垣根に植込みを增せ鐵條鋼を張れ警察に電話を掛けろ夜番を寢かすなと大騷ぎ一方五百圓の用申込みの方は朝に夕に垣根から覗き込み馬鹿げたわざと高笑ひ門前には示威運動の爲め痩せ細りたる『ブルドック』を引き連れ電柱よろしき『スヮッキ』を提げなるべく新居の人に顏を合せる樣に散歩するおそまきながら持たしてやつた若干の返禮は突き返され今後がどうなつて行くか質の惡い輩に狙はれた無心は天災とあきらめ相手になる程損になる此の決末はどうなつたか。

DとFとは親戚關係であつた文化村に敷地を隣して仲よく買求めた始めは同じ人に設計をして貰ふて同じ調子の巢を造り文化設備は互に出し合ひでやらうそうすれば極めて經濟で能率の上ることは請合他人の住居よりよく出來ると相談一決双方順風に帆を揚げて乘り氣になつた處が世間の事はそう順風許りは吹かぬたまには東風も筑波颪もある少しの感情から仲違ひになつた死者がDの方に起つたので一層双方面白くなく其れで今迄の親戚關係は薄くなる譯であるDの建築に着手した當時は多少は未だ双方譲り合ふ時代の爲め軒先は一寸位敷地外に出て居る事はFは承諾であつた月日どし〳〵過ぎて行くFも感情から他の技師に依賴して新居が出來上つた之も

前の話しの都合で少し位の軒先は食み出してもよからう位に高をくゝつて方形の屋根を出して仕舞うた程なく移轉して來た早速Dから苦情が新築祝として飛び込んだ其の理由が面白く附け加へられたDの軒先は切妻であるFは方形である爲め手直しをすることに其の差想像の余りであるDからの申込は御互に親戚關係は表面はあるが萬一他日御互に此の家を處分する時に敷地外に出て居ることは都合が悪い双方立會の上今の内、出たものは切り放そうではないか最もそれがFには頗る痛手であるDの切妻は切ることは容易であるが自己方形の屋根は一寸切りにくいFの悲觀に曰く、やね〳〵こまつたことだ。

須磨や明石是れは風景明眉の地である其處に最近一軒の新居が出來上つた主人公得意然として移轉どんなものだと喜び返つて居つた程なく見知らぬ人が隣地に住居を建て始めたそして自ら自分の家を暇にまかせて見に來るしまいは余りうるさ過ぎる程であつた段々形態が出來て來ると此れは全く自分の家と同形殆んど相違がない似せたりや同一どう見ても同人の設計の様である不愉快でたまらぬ一體一軒の家を建て終る迄は生やさしい苦勞でない家族と衝突親父と喧嘩金の算段間取りや形の研究設備の取捨一と通りの學問では濟まされない其れをよくも眞似たりそつくり其儘流石に立腹するにもしきれない程である一體之れは今の社界の制度が悪い建築士の著作權の様なものが一般に未だ認められないからである又あつても多少もぢつてあれば苦情の云ひ様もなく泣き寝入りとは不都合千萬爭ふ時には其れは建築士に苦情を一任するとして自分の迷惑するのは表札をよく見ず飛び込む來客寄附金貰ひ全く隣りと間違ふた人何かの募集屋、押賣、うるさいこと限りがない隣りの主人も呑氣な輩だ一層こうなれば天狗式に赤く塗り潰してやらうかと思案中の由何の猿の智慧よろしく他人の住居を其儘物眞似した隣人の考へは常識では少し判斷が出來ない代物である。

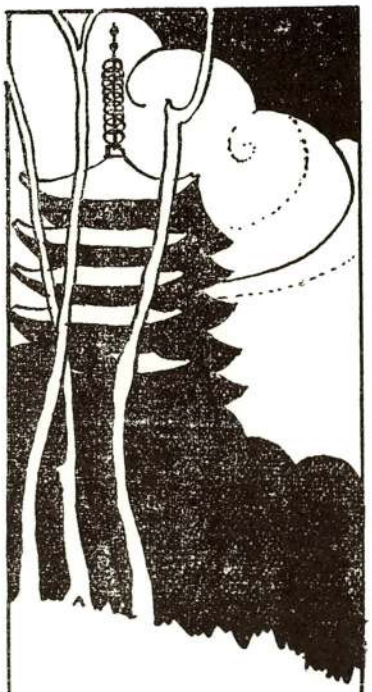
文化村に新聞を賑やかした住居問題があつた其れは敷地一つの内に貸家を建てぬ様との申合せであつた其れを無視した某未亡人は女の細腕でと云ふので貸家を四軒建て列べ營業と云ふ程ではないが知り合いの人に貸附け家計の足しにした附近の智識階級は例令未亡人であつても相當の資産を持つて居る人であるいよ〳〵困難なれば敷地を賣つて移轉したらよからうなんと云ふ硬派もある新聞記者は双方の云ひ分を報導した四軒の家から他人の家を見下す窓は相當の設備をしたらよからうと云ふ軟派もある或る人は相手が女だそういぢめるなといふ決極は適當の時期に買手があつたら毀して他に移轉する條件で曲りなりに纏まつた五年を過ぎた今日依然として移轉改築更に其の様子がない弱き者よ汝は女である適當の時期とか相當の考慮とか甘い文句で正直に一軒切り自分の家を建て新居に移轉して來る連中の顔を此の未亡人から見れば馬面であらう。

文化住宅も住み手に依り時としては不文化の誹りを受けることがある其れは外見は文化でも内實が徹底しないからである、M氏は文化村に新居を建てるべく設計を始めた大家の説に隨ひ從來の宅居の缺點を研究した曰く何曰く何々硝子障子は紙張り障子より明るく經濟的である三尺の椽側は六尺以上のベランダーに限る雇人の手を省くには文化式に限る座式よ

りは立式が便利である疊より寢臺が勿論よろしい平家より二階家は建築費に於て割安である等種々參酌の結果幸に新居は出來上つた處が便利なるべき文化住居が余り便利でない不便此の上なしである女中の寢室は押入の中にベットを取つた考へとしては極めて『ハイカラ』のものであるが煎餅でも蒲團でないと女中が續かない平家建に住居した習慣は二階の昇降には骨が折れる夫人の健康と股を太くする程影響する窓に庇しのない爲め西日は寢室に遠慮なく直射して温度正に百度を越へ吹き拔き窓なき爲め到底寢室には役立たない水道の故障に水洗便所の失敗狹き廊下の壁紙の汚れ寢臺下にもぐる蚊の征伐に苦心經濟たるべき窓硝子を清潔に拭くには專門家ならでは女の手で思ふ樣には參らぬ雇人を少なくする筈の文化住宅は却つて小女一人增員もる位である以上は苦情の部であるが勿論多少はよい方面もあるが其の差別は幾何であるがこうすると勢ひ古巢を戀しがる人情は別として新居は無暗に造るものでないらしい。

華族の御曹子新人として名望高いK氏は永年の希望が漸く叶ふて新居を建てることを許された舊拾五萬石かの殿樣の御家には拔差ならぬ三太夫なるものが轉がつて居る是れ等白髮の老人は大抵子々孫々御家の爲め身命を風前の燈火と心得いつでも馬前に投ずることを忘れぬ得難き連中、忠義一途の代りに頗る時勢に應じない頑固黨昔の金と今の金の値打ちを御存じない建物の廣さの必要はいくらあらうとも御曹子の希望はどうあらうとも頭ごなしに金若干を以て建築費に極めてしまふ御前會議は開かれる今度若樣の御住居に就ては何々斯々隅から隅迄手の屆いた樣に(但拔けた處だらけ)拙者取計らいましたる段各々同役方如何で御座るなんて左樣然らば形の如く會議は濟んで仕舞ふ豫算も決定手續きも履んで追々工事は進行する其の內豫定より多少模樣替も出る家は出來ても移轉する迄には相當の設備が入る無理無足の豫算にはそろ〳〵小言が始まりそうになると若樣の御口出しは頑固連のいたく氣に障る處あれも御先祖に對して勿體ない是れは贅澤、家は雨露を凌げば足る食は以て腹を滿せばの流儀で押し通す一體誰れの住居だかわからない若樣嘆じて曰く嗚呼己れの家だがな最も是等の彦左衛門ありて御家は安泰である軍配は何れに揚げたものか。

E博士は法曹界の大立物である過ぐる年、檜香新らしい新居が出來上つた南側に當る隣人博士邸の庭先然も二階の屋根上に十疊敷程のすばらしい物干場が新設五六十段の堅固なる階段は取付けらる程頗る御念の入つたものでとても博士の新邸を羨やみ高い報酬を取られた意趣返しの樣にしか思はれぬ凡て物干の位置は大抵極まつたもので二階家なれば平家の上位他家に迷惑を成るべく少くするのが習慣である是れを人の庭先しかも二階家の上とは一寸例外である最も空間を利用としては利巧で日々眼下に見卸して邪魔をして向ふは留飲を下げて居るのであらう淺野御殿對洗濯屋の比較でない流石溫厚の博士も手が附けられず眺望の權利を取る譯にもいかぬ建築條例も未だ屋上の物干には及んで居らぬ返す〳〵も不埒千萬の物干なる哉斯くして新居は日々眼前に源平の腰卷や越中を見る有樣は不都合極まる次第なりける。



建築材料

# 新塗料
# パイロキシリンラッカーに就いて

工學士 大島重義

近來建築工業界の進歩は各方面に渉つて實に顯著である從て塗料及び塗工技術についても之を適應して、他の工業に遲れない樣に進歩發達しなければならないのである。建築は益其大さと堅固さと美しさとを增大しつゝあるのに其最後の御化粧であり且建築竣工後一般人士の眼に一番よく觸れる所の塗裝法が何時までも從來から行はれてゐる油性のペンキを材料としての塗裝では之れを所謂ペンキ塗らしくない美術塗裝をなすのに非常の苦心と技工とを要するばかりでなく其肌合の滑かさ、固さ、光澤等について建築家の滿足を得ることが六ケ敷なつて來たのである。塗裝費用は我國では建築總工費の內で一%にも達しない僅少のものである。然し塗裝仕上の良否は建築の美觀上重大なる役目をしておることは勿論であるから如何にして塗裝は從來よりも一層の好結果を得べきかと云ふことは建築上充分の考慮をなすべき問題である。

數年前から米國及獨乙に於て發達した一種の新塗料があるバイロキシリンラッカーと名付け、先づ自動車の外部塗に應

用して好成績を示し、各種の自動車例へばゼネラルモーター會社のビュイク、カデラック等は勿論フォード新型等米國の自動車塗は悉く從來の油性エナメル塗を止めてラッカー塗に變つたのである。塗替の迅速であり容易であるのと美しい塗裝が出來るからである。自動車方面の塗裝に成功したラッカーは次に鋼製客車、家具等の塗裝に應用され遂に米國では建築の方面にも盛に應用さるゝに至つたのである。

バイロキシリンラッカーと稱する新塗料は從來の塗料即ちペイント、ワニス、エナメルを總括したる油性塗料に對立すべき別種の塗料の一部門である換言すれば油性ペイントの名稱の下に植物油を主要原料とするペイント、エナメル、ワニス等が含まる如くバイロキシリンラッカーの名稱の下に硝化綿を主要原料とする『ラッカーエナメル』『クリヤーラッカー』等が含まるのであつてラッカーの名の許に下塗、中塗、バラ上塗エナメル、上塗透明塗料等夥しき種類が抱含せらるゝのである。バイロキシリンラッカーの名稱のある塗料は硝化綿を主要原料とする點に於て從來の油を主要原料とする塗料と根本的に其成分並に性質を異にした優秀なる新塗料である。

## 一　パイロキシリンラッカーの特長

バイロキシリンラッカーは從來のペイント、ワニス、エナメルの所有する特長を悉く所有すると同時にペイント、ワニス、エナメルの有する缺點を全く除き去つたもので漆に對比すべき美術的塗裝を極めて短時間に成遂げ得る特長を持つておる。油性塗料に比して著しき特點を列記して見れば次の通りである。

乾燥極めて迅速で室温で二十分以内に持觸することが出來三時間以内に完全乾燥に達するので全く粘着性を殘さない。皮膜は强靱で且滑澤なること漆の如く從來のエナメル等と格段の差があり、手ざわりの滑かなことも漆の通りである。金屬材料にも木材にも硝子にも紙にも固着力極めて强く、乾燥が早いにも拘らず決して剝落することがない。柔軟な材料にラッカーを塗裝するときは固着性と彎曲性があるために皮膜に龜裂を生ずることなくして曲げ得られるのである。光澤仕上は極めて上品な光澤で漆塗に酷似し又半光澤・艶消ともなし得られ色彩はワニスに相當すべき液體が殆んど無色透明であるから之れに任意の顔料を混せて任意の色彩を出すことが出來るワニスの色のために色彩を濁らせる樣なことは決してないから顔料の色の通りにエナメルの色が出來るのである又完全なる耐水性で一〇〇度の熱湯でも又は氷でも全く皮膜の犯されることがない。普通のペイントはガソリンに對して剝げるがラッカー皮膜は何の影響もない酸にもアルカリーにもアルコールにも犯されることがない。

バイロキシリンラッカーは上記の如き特長を有しておるために其發明は近年のことではあるが米國に於て急速の需要增加を來したことは決して偶然ではないのである。

今米國に於て如何に急速にラッカーの需要が增したかは次の數字で明かである。

| | | |
|---|---|---|
| 一九二四年下半期 | 製產高 | 二、一二〇、〇〇〇哦 |
| 一九二五年上半期 | 同 | 四、八五〇、二〇〇同 |
| 同　下半期 | 同 | 六、二三、二〇〇同 |

歐州でも獨乙では硝化綿及溶劑の研究が發達して居るため

にラッカーも追々に需用増加の傾向である。

バイロキシリンラッカーは上記の如く歐米に於て隆盛を極め今後益々盛大となるべき幾多の特長を持つておる新塗料であるから其成分の大體を左に略述し御參考に供したいと思ふ

## 二 主要原料

イ、硝化綿

硝化綿とは綿　紙等の加き纖維質も硝酸と硫酸との混液の中に漬ければ硫酸が媒介劑になつて硝酸の中の窒素分が纖維と化合する所理の方法によつて窒素と纖維と化合する分量に差異を生じ其れ其れ特性を表はすのである即ち纖維の硝酸化したのが硝化綿である。硝化綿と總稱する中には窒素の分量によつて綿火藥に使はれる爆發性のものも出來るし、セルロイドの原料にもなり又ラッカーの原料にもなるのであつて窒素の分量が僅かに一%違つても硝化綿の性質には重大な差異が起るから均等の成分の硝化綿を造ることは非常の難事であるラッカー用の硝化綿として有すべき特長は爆發性のないこと即ち安定なること溶劑に溶け易きこと硝化綿溶液の粘度低きこと、溶液が殆んど無色なること等であつて此等の特質を有せしめるためには纖維質と化合すべき窒素の分量を綿火藥用の硝化綿よりも少くせねばならないのである。硝化綿溶液の粘度を低くする樣な硝力綿の製造方法は塗料構成上重要なことであるから色々研究されたけれども結局餘り粘度を低くすることは分解を促進し硝化綿の本質を弱くすることになるので之れには一定の限度があることが分つたのである。二〇%溶液に於て從來は溶劑一〇に對し三オンスの硝化綿をとかし得るに過ぎなかつたのが今では二磅即ち三十二オンスをとかしても三オンス溶液と同一の粘度のものになる位の所まで進歩して來たのである、之れ以上に粘度を下げると質の弱い硝化綿になるのである。ラッカー用短化綿の製造は各方面で研究されては居るが我國では未だ優良な品質のものを得難き現狀にある。

ロ、樹脂

南洋方面から來るダムマーゴム其他の樹脂を使ふので固着力光澤等を增すために硝化綿の補助劑とするのである。

ハ、溶劑

ブチルアルコール及び其醋酸エステルを生要成分とするもので米國の醱酵法、獨乙の合成法等による製品が輸入されるけれども我國では未だ其製造をなしつゝあるものを聞かない。

ニ、プラスチサイザー(軟化劑)

ラッカー皮膜に靱性を與へるために一種の補助劑を使用するので分量は極めて僅かであるが高値な原料である。トリフエニルフオスフエート、ヒマシ油、其他種々のものが試みられておる。

ホ、顏料及染料

油性エナメル又は溶解ペンキならば顏料は全重量の五割以上を占めるのが普通であつて一哦の中に六磅位の粉末がある割合になる然るにラッカーエナメルでは顏料の割合をそんなに多くすると皮膜が弱くなるから極く着色力の强い顏料即ち瓦斯ブラック、亞鉛華、チタニウム白、トルイデン

赤、ブルシアンブルー等の様なものを一哦のラッカーの中に二磅位入れるのである、猶光澤の強イラッカーを造るためには染料例へばニグロシンの如きものを顔料の代りに入れる之れで被覆力の強いラッカーが出來るのである。

## 三 パイロキシリンラッカー製品の種類

パイロキシリンラッカーはエナメル即ちラッカーと顔料とを混合した不透明塗料とラッカーばかりの透明塗料と二種ある油性ペンキの場合にペンキとワニスがある様なものであるラッカーエナメルは自動車、鋼製客車、家具、建築方面に用ひられる着色不透明塗料で四十色位を常に用意されておる乾燥迅速であり且滑かなる皮膜は漆の様であるから例へばホテルの一室の塗替をなすに當つても僅かに半日乃至一日の暇があれば立派に塗裝が出來上つて次ぎの宿泊人を待つことが出來るのである、共同浴場、劇場等の様な長時日の休業を苦痛とする所でも其塗替は極めて容易で迅速であり且普通の塗裝よりも美しくなる。粘着性が殘らないと云ふことは多人數の出入する場所には特に好都合の性質と云はなければならない。

クリヤーラッカーは透明質の塗料で之れは木製家具又は建具のワニス塗の代りに一層の耐久性と美觀とを有せしむる爲に用ゆるのである。之れも客を待つ間にテーブルの塗替が出來る譯である。耐水耐熱性であるメタルラッカーと云ふのは眞鍮金具金屬製裝飾品等が艶に曇りが來るのを防ぐために塗るので殆んど無色であり且塗膜が極めてうすいので塗料を塗つた様に見えないで防錆になることを特色としておる。

## 四 塗裝法

パイロキシリンラッカーの塗裝法は從來の油性塗料と異り刷毛塗をなすことなく、スプレーガンを以て塗裝をなすか又は浸漬法による。

スプレーガン

スプレーガンは米國にもデビルビス、ピンクス、エクリッブスバーシエー、ユーリカ、スプラコ等の製造會社あり、デビルビス最も廣く使用せられ萬人向であるスプレーガンは壓搾空氣の壓力を利用して霧吹の原理によりラッカーの霧を作りて塗るべきものにラッカーを吹かけるのである。

必要の道具としては空氣壓搾機、モーター（又はガソリンエンジン）スプレーガン、ノッヅル、ゴムホース、ブレッシュアワータンク、トランスフオーマー、ホース洗滌器、ラッカータンク等が必要である。ノッヅル即ち筒先の口は大小種々用意しなければならない。

塗裝の場合の空氣の壓力はラッカーの種類によつて色々であります。

| | |
|---|---|
| ウッドラッカー（透明） | 三〇—四〇ポンド |
| メタルラッカー（透明） | 三〇—四〇 |
| 工業用ラッカーエナメル | 三五—六五 |
| 自動車用ラッカーエナメル | 八〇內外 |
| 美術品防錆用ラッカー | 一五—二〇 |

スプレーガンと塗るべきものとの距離は六—八吋位である塗る順序は先づ塗るべきものを掃除しなければならない。

鐵板ならば汚れ、古いペンキ、油脂等を充分に落しラッカー用の下塗、中塗をなして充分に下地を作つてから上塗用のラッカーを塗るのである。

## 五　バイロキシリンラッカーの品質

バイロキシリンラッカーの優良なる種類は其原料の性質上塗裝に際して刷毛塗が殊んど不可能である。其れは何に起因するかと云へば刷毛塗をなす塗料の性質は粘り氣が少く乾燥が遲くなければならない故に硝化綿溶液の粘度をなるべく低くせねばならない。硝化綿溶液の粘度を低くするためには硝化綿の分量を極く少くするか又は硝化綿製造に際して纖維の分解する程度までに硝化を進めたものを少量使ふか孰れかの方法により樹脂を多量にしなければ刷毛塗々料にならない、從て此の種のものは硝化綿塗料と云ふよりも樹脂質のアルコール塗料と云ふ方が適當である、耐水性も固着性も乏しくラッカーの特長を具備することは六ケ敷のである。高級の塗料は良質の硝化綿を多量に含有するからスプレーガンによつて塗裝しなければならないのは此理由に基くものである故に更に別種の大發明をなすにあらざれば高級の刷毛塗ラッカーと云ふものは現今の進歩では得難いものでスプレーガンを使ふことは刷毛塗よりも其練習容易であつて刷毛斑を殘さず塗面美しく、短時間乾燥の塗料でも容易に塗裝し得るのであるから高級のバイロキシリンラッカーが刷毛塗が出來ないと云ふことは實用上何等の差支を來すものではない。從て國産刷毛塗ラッカーなどと稱して刷毛塗ラッカーを宣傳するものはラッカーの研究を充分にして居らない連中が從來の塗料の刷毛塗と云ふことにとらはれて云ふ事で詮じ詰むれば研究不足の不明から劣等ラッカーを宣傳してゐるのである。

是等の點は建築等に關係を持たるゝ人々が誤解をされない樣にする必要がある。

# 吾家を建てるには

（四）



（一）場所と廣さ
（二）洋風か和風か
（三）二階建か平家建か鐵筋か木造か
（四）坪數と間數
（五）書齋客間應接間は洋風か和風かその分量
（六）臺所と便所の設備
（七）室内の色彩
（八）天井の高さ
（九）住宅は趣味か實用か
（十）家相を信ずるか否か

## 建築家　松本禹象

一　山間約三四百坪
二　和風
三　二階建木造
四　七八十坪、八間乃至九間
五　洋式ニアラザルモ椅子席
六　簡單ニ說明シ難シ
七　同上
八　最低七尺五寸最高九尺
九　實用ト趣味ト兩面ヨリ見ル
十　家相ハ人相ニ類ス蓋余ハ科學的家相ヲ信ズ

## 建築家　宮本長治

一　海濱又ハ水邊ニ臨メル山地百八十坪
二　洋風ニシテ和風ヲ加味ス
三　二階建、木造
四　五十坪位、九間位
五　書齋、應接間ハ洋式ニシテ兼用、客間ハ和洋折衷
六　臺所ハ洋式、便所ハ和式ニシテ水洗
七　一概ニ言ヒ難シ
八　八尺内外
九　實用七分、趣味三分
十　研究足ラズシテ家相ヲ信ズル丈ノ根據ヲ持チマセヌ

無名氏

一 海濱ニシテ百坪位
二 洋風
三 平家建木造
四 二十坪七間
五 洋式
六 防臭ヲ具備シタ大正式便所
七 明ルイモノ
八 八尺以上
九 實用トシテ見ル
十 家相ハ或ル程度迄信ジマス

建築家 戸橋清

一 山間ニテ百二十坪
二 洋風
三 二階建ニテ鐵筋
四 建坪三〇—三五坪、五間ノ外ニ臺所
五 折衷ニテ十分ノ六、書齋應接間他ハ客間
六 電氣、洗濯式トシ淨化槽ヲ設ク
七 室ニ依リ異ニスレド茶褐色
八 九尺五寸—十尺
九 實用トシテ見ル
十 信ジナイ

無名氏

一 山間、三四百坪
二 洋風
三 一部二階建、鐵筋造(一部純木造間付)
四 六、七十坪(建坪)十間位
五 洋七、和三
六 洋風(但シ大便器ヲ除ク)
七 落付キアル色彩
八 九尺
九 兼用
十 80%位信ジテ可

建築家 上林敬吉

一 山間ニシテ三四百坪位ノ敷地ヲ望ミマス
二 洋風
三 木造二階建
四 五六十坪
五 全部洋式ニテ日本間ヲ一ツ八疊位ノ部屋ヲ望ミマス
六 西洋式ニテ便所水洗式
七 重ニ「クリーム」巴ニテ木部ハ「スティン」
八 八尺五寸ヨリ九尺迄
九 趣味五分實用五分
十 家相ハ信ジマセヌ

建築家 末岡好松

一 山
二 和風
三 木造、二階平家、交
四 五十坪內外、十五間位
五 書齋、應接間洋式、客間和式
六 新式、實用
七 オチツキヲ感ゼシム色
八 ナルベク高ク
九 實用衛生的
十 信ゼズ

教育家 大竹巽

一 都會地ノ郊外、敷地三百坪以上
二 一部洋風
三 一部二階家、ナルベク木造
四 坪數三十五坪前後
五 書齋ト應接間ハ洋風トシテ客間ハ洋風及和風ノモノ
六 明ルク、掃除ノ仕易ク、便利ニ
七 着付イタ色調
八 九尺前後
九 實用ヲ主トシ趣味ヲ加味ス
十 信ゼズ

教育家　秋山信太郎

一　山間廣サ百坪
二　和風
三　平家建ニシテ木造
四　二十坪内外ニシテ間數ハ五間位
五　和洋折衷
六　臺所ハコンクリート叩キニシテ二坪半、便所ハ上下兩便所ヲ要ス
七　青色
八　疊上バヨリ天井板下端マデ九尺
九　住宅ハ趣味ト實用ノ兩方
十　家相ヲ信ゼズ

教育家　玉井隆五郎

一　海濱百坪内外
二　洋風
三　二階建、木造
四　四十坪位、八間以上ニシテ離レニ茶室ヲ附屬セシムルヲ望ム
五　書齋、客間、應接間ハ洋式
六　臺所ハ洋式ヲ加味シタルモノ、便所ハ淨化裝置
七　瀟洒ニシテ溫キヲ好ム
八　九尺ヨリ十尺
九　趣味トシテ見ル
十　信ジマセヌガ地相、排水換氣採光等ノ上ヨリ一致スルモノハ必ズシモ不捨

建築家　山中茂一

一　山間約百五十坪
二　洋風(外觀)
三　二階建、木造
四　三十二三坪六間
五　五分五分折衷
六　洋式
七　種々
八　約八尺
九　兩方
十　信ジマセヌ

建築家　松本富藏

一　何レナルモ可、水ノ豐富ニシテ、自然ニ親メルノ廣キヲ望メリ五百坪
二　洋風
三　二階建ニシテ鐵筋ヲ可トス
四　五十坪迄(延坪八十坪)八間位ニテ外ニ作業室
五　洋七、和三
六　洋風
七　明
八　ホールノ外ハ概シテ低キヲ可トス(九尺十尺)
九　實用トシテ見ザルベカラズ而シテ趣味化セムトス
十　或ル程度ノ尊重ヲ可トス現代未知ノ事象迷信不可測ノ實在アレバナリ

備考　一場所坪數ハ空想的答案ニシテ現代社會トシテ住宅地區ニシテ百五十坪位ヲ望メリ

建築家　池田宮彥

一　山間、二百五十坪
二　和風
三　二階建、木造
四　三十坪内外、主ナル室上三下五間
五　書齋ハ洋式應接室ハ折衷、但日本間ヲヤヽ天井高クシ椅子テーブルヲ設クル程度
六　客間ハ日本式
瓦斯、電氣、水道ノ設備ヲ要シ、タイル貼リトス便所ハ洗滌式
七　木材ノ生地ノマヽニテ壁ハ鼠茶灰色又ハ白
八　七尺五寸乃至八尺五寸室ニヨリテ異ル
九　趣味トシテ見ル
十　信ゼズ

建築家　加藤善吉

一　海濱
二　洋風
三　二階建木造
四　三十坪位五間位
五　洋式
六　立式水洗式
七　暖カミノアル色ヲ好ム
八　階下八尺五寸階上八尺位
九　實用トシテ見ル
十　信ジマセンガ若シ家ヲ處分スルトキヲ考ヘ家相ヲ重ジマス

教育家　竹森良一

一　海岸平家
二　和風入母屋造リ
三　木造平家建但シ一部分二階付
四　三十坪位十間
五　入口近クヘ三四坪ノ洋式應接間靴履ノ儘入ル樣
六　……
七　……
八　八尺以上
九　實用ヲ主トシ多少趣味ヲ加味ス
十　信ゼザレドモ鬼門ノ如キハ多少ノ考慮ヲ要ス

建築家　池田谷久吉

一　海濱二百坪位
二　和風
三　二階建木造ニテヨロシ
四　六七十坪
五　洋式
六　大イニ改良ヲ要ス
七　衛生的ニシテ且ツ室ノ用途ト調和セルモノ
八　八尺以上
九　兩方面ヨリ見ル
十　少シハ考慮シマス

建築家　小幡正治

一　山間
二　表面洋風裏面和風
三　木造二階建外部ラス張モルタル又ハ一部タイル張
四　四十坪十間乃至十一間
五　天井及壁色窓障子位ヲ洋風ニスルコト
六　便所水洗式臺所洋風
七　書齋應接ハペンキ塗リ明ルイ色其ノ他ハ日本壁砂壁
八　八尺
九　實用
十　鬼門丈ヲ考ヘニ入レル

教育家　津田信良

一　山間百五十坪
二　和風
三　一部二階、木造
四　延坪五十坪九間、外ニ湯殿臺所便所等
五　應接ノ間ダケ和洋折衷椅子ヲ用ユ、臺所總板張リニシテ立流シ立料理臺等ヲ備フルコト
七　色彩ハアカルキ色々ニテ而カモ派手ナキ樣ニスルコト
八　八尺三寸
九　五分五分
十　東西南北ノ光線ヲ考ヘル外家相ヲ信ゼズ

教育家　渡邊安藏

一　平野三百坪
二　和風
三　木造平家建
四　三十八坪
五　新式和式
六　日本式ニ西洋便器ヲ用ユ
七　木材ハ白木トシテ木特有ノ美ヲ表シ壁ハ青又黃茶
八　一丈
九　實用ヲ主トシテ趣味ヲ從トス
十　舊來ノ型ハ信ゼザルモ衛生本位ノ家相ヲ尊守ス

建築家　加藤誠二

一　都市附近高地敷地六百坪以上
二　寢室ヲ和式トシ內外共洋式
三　木造二階建一部地下室附キ
四　延坪六十坪內外室數大小十
五　洋式ニ限ル
六　臺所ハ洋風電化式便所ハ水洗式トス
七　ピクチユアモールデンク上ハ一式白色、壁ハ暖味アルモノ各室ニ依ル適當ナモノ
八　床面ヨリ九尺乃至十尺
九　趣味ト實用ヲ兼備スルコト
十　家相ハ文明的ノ解決ノ下ニ信ジマス

建築家　森本藤吉

一　山間、二百坪
二　洋風(外觀)
三　二階、鐵筋
四　六十坪十五室
五　書齊、客間及應接間洋式
六　洋風
七　濃厚ナラズシテ落付アルモノ
八　八尺五寸
九　趣味
十　信ジマセヌ

無名氏

一　山間、百坪以上
二　純和風
三　木造一部二階建
四　三十坪内外七間位
五　和風
六　出來得レバ水洗式單純便利落チ付キアル光澤ナキ深味アルモノ
八　八尺五寸内外
九　實用ヲ主トス
十　信ズ

建築家　田邊滿一

一　市街地ノ高地廣サ八十坪
二　洋風
三　二階建(内二割半家建)木造
四　五十坪、室數八室
五　書齊、應接室、洋風、客室、和風
六　臺所ハ半分土間半分板張リ便所吸取式
七　中性色
八　日本室八尺五寸洋室九尺
九　趣味化シタル實用物ト見マス
十　家相ハ絶對ニハ信ジマセヌガ成可ク忌ム可キ家相ハ避ケ得ル丈ケ避ケテ都合良キ平面ヲ考究シマシタ

建築家　福島祿壽

一　山間ノ方
二　外壁和風(數寄屋風)
三　一部二階建木造
四　三十五六坪ヨリ四十坪位八室程度
五　座式ニヨラザル和風
六　洋風ニ近キ設備
七　明ルキ色調
八　八尺内外
九　趣味六分實用四分
十　信ジマセヌ

建築家　多田七五三一

一　海濱、理想トシテハ背ニ山ヲ求メ東南海ニ面スル處敷地三百坪
二　一部ノ外和風
三　平家建ヲ可トスルモ一部二階建トス主體鐵筋コンクリート造
四　延坪五十坪位、主要間數七間(疊座敷)
五　書齊、應接ハ洋風、客間和風
六　臺所ハ折衷トシ便所ハ淨化裝置但シ大便器腰掛主義ハ不可
七　室ニ依ルガ概ネジミナ色彩
八　洋風十尺、和風八尺、但主要間
九　趣味ト實用ハ相半
十　或程度迄信ズルコト

建築家　水上昌三

一　成可ク都市ノ郊外便利ニシテ景勝ナル地
二　和洋折衷
三　二階平家混用工費許セバ鐵筋混凝土
四　敷地百坪以上間數ハ五間以上
五　書齊、客間ハ日本式ニテ煖房設備ニ便ナル構造、應接間ハ成可ク洋式ニテ煖房設備ヲナシ得ル構造タルコト
六　簡單ニシテ衛生的ナルコト
七　其ノ場所其ノ家ニ適合スルコト
八　八尺以上
九　實用トスルコト
十　許ス限リ家相モ加味スルコト

# 株式會社第一銀行大阪支店新築工事概要

**所在地**　大阪市東區高麗橋四丁目
自三十五番地　至三十八番地

**工事工程**

起工　大正十年十一月一日
東京震災の爲め大正十二年九月以降中止
工事再開　大正十三年七月
定礎式　大正十四年七月三日
竣工　大正十五年十二月二十日
様式　近世復興式
敷地面積　六四四・九八〇坪
建坪　四五八・五五一坪
總延坪　二、〇〇三・四二九坪

**各階坪數並ニ各室配置**

【地階】四四〇・八六坪（他にサブベースメント五七・五四一坪）保護預金庫　秘密室　トランクボールト　豫備金庫　書庫　食堂　厨房　宿直室　小使室　行員更衣室　娯樂室　電氣室煖房室　ポンプ室　物置等

【一階】四五八・五五一坪
營業室　支配人室　金庫　書庫　文書掛室　用度掛室　應接室(三)　小使室　玄關竝に廣間　階段室　便所等

【二階】二〇五・三三三坪
會議室　特別應接室　應接室(二)　事務室　(三)　電話交換室　廣間　階段室　便所等

【三階】四〇三・六一三坪
銀行用食堂　厨房　貸室(十六)　安全庫　湯沸室　廣間　階段室　便所等

【四階】四一一・七八九坪
貸室(十八)安全庫　湯沸室　廣間　階段室　便所等

【屋階】二五・七四二坪
早降機機械室　水槽室　階段室
外に附屬下家　三四・一一七坪の車置場を設く

**構造概要**

本建築は耐震耐火の目的を以て鐵骨鐵筋コンクリート造し地階共（一部サブベースメント）五階建とす
建物の高さは地盤より「パラペット」上端迄六十尺、最高（塔屋）六十九尺とす
營業室各柱は大約十八尺及び四十八尺の距離を基準として構成し其他の部分は約十二尺乃至十八尺の柱間隔を取り中央部に採光用として幅四十二尺長さ五十四尺屋上硝子屋根に達する光庭を設く
各階々高は左の如し

| | | | |
|---|---|---|---|
| 地階 | 一〇・五尺 | 一階 | 一四・五尺 |
| 二階 | 一二・五尺 | 三階 | 一三・五尺 |
| 四階 | 一二・〇尺 | 屋階 | 八・八尺 |

**基礎**

地盤より最深二十一尺最淺十三尺掘下げ割栗石搗固め鐵筋「コンクリート」地形とす營業室は廣大なる空間を有するを以て各主要柱間に耐震的手法として數多の繋梁を施せり

**壁體**

壁體は「カーテン、ウオール」式鐵筋「コンクリート」造とし一部鐵筋入り特種煉瓦積とす
貸室間仕切は室の區分を自由にし得らるゝ様木骨鐵網張「モルタル」塗とす

**床及屋根**

各階床及屋根は鐵梁を使用床盤鐵筋「コンクリート」造、地階床「コンクリート」上端には防水層を施し各柱は地階天井梁下迄建上け凡て押へ「コンクリート」打ち防濕に備ふ
中央吹抜部分屋根は鐵骨小屋組とし「ヘンリーホーブ」鐵製種使用「ワイヤガラス」を嵌入す一般屋根は「コンクリート」打防水層施工の上シングルコンクリート」を以て水勾配を取り更に耐火「スレート」敷とす

**外部仕上**

高麗橋通り竝に心齋橋筋の壁面は大部分北木産花崗石を以て張り其他の部分は擬石洗出塗仕上とす
正面及び北西各入口には鐵製「メタリコン」仕上げ防火扉を設け正面出入口部分には

米國「ヴアン、カンネル」會社「チーク」製回轉扇を取付く各窓には「ヘンリーホープ」製スチールケースメント」竝びに東京建鐵會社製捲上げ防火「シヤツター」を取付く、營業室大窓方立、外部窓間パネル等砲金を以て彫刻を加ふ

## 内部造作

【營業室及公衆溜】 東西一二九尺南北九〇尺天井高二七尺、二階天井迄吹拔とす、正面は玄關に通じ他は北西東の各廣間竝に支配人室其他の諸室に接續す

周圍壁面腰廻り及柱型中央角柱各出入口周圍及金庫廻りには伊太利產竝に本邦產大理石を舖裝し一部壁面及天井は「プラスター」「ペンキ」仕上とし採光天井は鐵骨金屬板張り「ペンキ」塗仕上げとし淡色「ステインドグラス」を嵌入す、公衆溜床獨逸製「モザイクタイル」敷とし中央入口脇に飲用噴泉を設備す營業臺は甲板萬成石本磨、腰大理石「スクリーン」は砲金製燻し仕上厚板硝子嵌込み延長一五八尺とす

【支配人室】 腰羽目間仕切其他造作材凡て「チーク」材壁は「コルク」混入「ペンキ」塗仕上、天井「プラスター」塗り床は絨緞敷詰とす

【會議室】 柱型巾木間仕切等凡て「チーク」材使用天井は石膏塗「ペンキ」拭仕上壁紙張床は寄木張とす

【特別應接室其他】 木部、會議室同斷、床絨緞敷詰、其他一般應接室及事務室は天井壁共「プラスター」塗「リノリウム」敷とす

【正面廣間】 壁面、階段共伊太利竝に本邦產大理石を以て舖裝し床は獨逸製「モザイクタイル」敷詰め、天井は石膏塗り中央部を「アーチ」形格天井とし彫刻を施し「ペンキ」拭仕上とす

【北廣間】 一般貸室用に宛て壁面日華石、床「タイル」敷、天井石膏「ペンキ」塗仕上げとし一部に賣店を設け下足預室を附屬せしむ

【西廣間】 壁面特種タイル張り床、同「タイル」敷天井は北廣間同斷とす

【東廣間】 銀行用通用口にして腰「タイル」張り床人造石研出、天井壁共「プラスター」塗仕上とし一隅に飲用噴泉を設く

【地階保護預金庫庫】 前壁は本邦產大理石を張り天井「プラスター」塗床「モザイクタイル」敷、入口には鐵製「メタリコン」仕上格子戸を取設く

【三階食堂】 腰特殊「タイル」張り床大理石碎石研出壁及び天井は「プラスターペンキ」塗仕上とし配膳室厨房を附屬せしむ

【地階食堂】 一般貸室用とし腰「タイル」張床人造研出、天井壁共「プラスター」塗仕上とす

【三四階貸室】 大小三十四室を有し各室共床「リノリウム」敷、天井壁共「プラスター」塗廊下側には廻轉窓を設け通風に便す

【安全庫】 三四階に各々一室宛を有し入口には和製金庫扉を取付け重要書類等の保管用に供す

【各階便所洗面所】 腰「タイル」張り、床「タイル」又は「モザイクタイル」敷天井は「メタルシーリンク」ペンキ塗仕上とす

## 金庫設備

【現金庫竝に書庫】 一階營業室中央部に設け各々巾十五尺長さ十八尺五寸高十一尺、入口扉は英國「チヤブ」會社製金庫扉を取設け周圍壁は「コンクリート」内には特殊捻鐵筋を配置し且つ内壁面には二分一吋及四分の一吋の特殊鋼板を以て「ライニング」を施す

【保護預金庫】 地階に設け階段を以て營業場に通ず

巾三十六尺、長二十七尺高さ七尺五寸、入口には米國「モスラー」會社製金庫扉を設け周圍壁體は現金庫と同斷

保護金庫函は大小七種千八百二十四個とし各々借主用及支配人用二種の鍵を以て開閉するものとす

庫前には「スチール」製六個所の秘密室を附屬せしめ借主の隨意使用に供す

外に米國「モスラー」會社製金庫扉を取付けたる豫備金庫竝に「トランクボールト」を設置す

## 防火並ニ消火設備

各階外部に面する窓には全部「スチールシヤツター」を、中央光庭に面する各入口窓

には「スチールドア」又は「ワイヤ」入硝子窓を、外部との各出入口及び建物内各主要なる區劃毎には「スチールドア」或は「スチールシヤツター」夫々取設け以て防火に備ふ

各階廣間には消火栓並に火災報知器を取付け非常の場合には地下卿筒室の自動的動作により直ちに給水し得るの裝置となす

北入口脇道路に面しては「サイアーミス、コンネクション」を取設け、非常の場合消防隊の活動に便せり

## 煖房冷房通風裝置

【房煖並に冷房裝置】 一階營業室及地階の一部には熱空氣式を其他の各室には急速循環温水式を採用す

熱空氣式は屋上吸氣口より吸入したる空氣を、風道を經て地階内機械室に導き氣氣洗滌器、加熱器を通じ煽風器により所要の個所に送風す

營業室にありては各柱、柱型及壁面に設けたる放熱孔「レジスター」により新鮮なる熱氣を放出す汚濁せる空氣は熱業臺下放出孔より吸出し機械室に歸還さるゝものとす

夏季に於ては地階内に設けたる鑿井の冷水により冷却されたる空氣を熱空氣と同樣の方法を以て放出し以て冷房の目的を達す其他各事務室等は温水循環式とし放熱器により適當の温度を保つものとす

汽罐は米國「アメリカン、ラヂエーター」會社製「アイデアル、スモークレス、ダウンドラフト、ウオーター、ボイラー」二臺

空氣洗滌器は毎分九、〇〇〇立方呎以上の空氣量に對する大さを有する「ウエブスター」型一臺とし加熱器「エロフイン、ヒーター」は「エロフイン」標準三列型三深二段式一臺とす

## 衛生設備

地階に設けたる鑿井水は湧出量一晝夜約三千石にして電働卿筒（豫備として「ガソリンポンプ」一基を備ふ）により屋上水槽を經て各便所、洗面所、浴室、其他洗ひ場用雜用水並に消火栓用として配給す、料理並に湯沸用水は市水道管より分岐したる水道上水を使用す、各便所の汚水は地階内及其他に設けたる汚水處理槽を通過し其の他の排水は直接外部溜桝を經過し何れも市設下水道に排泄す、汚水處理槽は鐵筋「コンクリート」造とし汚水は西原式に從ひ腐敗槽好氣菌槽、濾過消毒槽を經て淨化するものとす

## 機械並ニ電氣設備

【電燈並に動力】 電氣室、變壓室、蓄電池室は是を地階並に「サブベースメント」中に設備し自家用供給法に依り市電より三相交流最大電壓二、二〇〇「ヴオルト」の高壓電流を受け遞減變壓器に依り低壓とし之を各室に配電するものとす

停電の場合に於ては自然點滅裝置の作用により蓄電池室より二四「ヴオルト」の電流を受け各階主要個所に設備したる豫備燈に點火せしむるものとす

配線は「ガーラントチューブ」に納め「シンダーコンクリート」床中に埋設し各廣間「パネルボード」を經て各電燈回線に連絡す

【電話】 電話は銀行用並に貸室用として局線引込二百回線、室内配線二百回線を準備し電話交換室並に蓄電池室は之を二階に設け銀行用として共電式複式交換機三座席を設く

各階各室床には電話用「ダクト」を埋設し之に配線し必要に應じ所要の個所に於て接續し得る樣設備せり

【電氣時計】 獨逸「シーメンス」會社製電氣時計四十五個を各所に配し親時計は之を電話交換室に置く

【火災報知機】 火災報知機は各階各廣間消火栓と同一個所に、「ランプ」式受信器を守衛室に夫々取設け信號と同時に警鈴並に消火用「ポンプ」を自動的に動作を開始せしむるものとす

【警報機】 營業室中央に非常鈴を設け地階保護金庫並に營業室一部より盜難其他の場合に警報し得るものとす

【金庫保安裝置】 一階並に地階各金庫扉の開閉は「ランプ」式表示器に依り支配人室並に宿直室に於て監督し得る裝置をなせり

【呼鈴】 支配人各掛小使室等の間には電話の

外電鈴を設備し相互の連絡を保つ

## 一般設備

【昇降機】米國「エー・ビー・シー」會社製、容量一、七五〇封度 速力二〇〇呎にして北廣間二基(貸室用)東廣間一基(銀行專用)を設備す北廣間は屋上に東廣間は地階に器械室を設く

【メール、シュート及郵便受函】米國「アメリカン、メーリング、デバイス」會社製「メールシュート」一基を北廣間に設け各階に投入口を備ふ郵便物は一階に於て蒐集するものとす

各貸事務所用郵便受函は之を壹階北廣間に設け各自の鍵により開閉するものとす

【避雷針】避雷針は適法に準じ左の通り是を配置し完全に大地中に接地す

煙突上一基高八尺、中央硝子屋根二基高二十尺、東塔屋二基高十尺北塔屋一基高十三尺五寸

【瓦斯】厨房、浴室、湯沸場に於ては熱用として瓦斯を使用す

## 工事關係者

設計竝監督　第一銀行建築掛

工學士　西村　好時

同　外山　英雄

製圖　前田健二郎

同　木下　道夫

同　鈴木　重治

同　岡村　與一

同　大澤　永

鐵骨計算　(囑託)工學士　樺島　正義

電氣設備　(囑託)　角田　榮八

同　門倉　透英

煖房設備　(囑託)工學士　關藤　國助

現場監督　西　修

同　大谷　龍雄

## 建築工事施工

合資會社清水組

代表社員　清水釘吉

大阪支店長　內山熊八郎

工事主任　北村萬治

同　小林市太郎

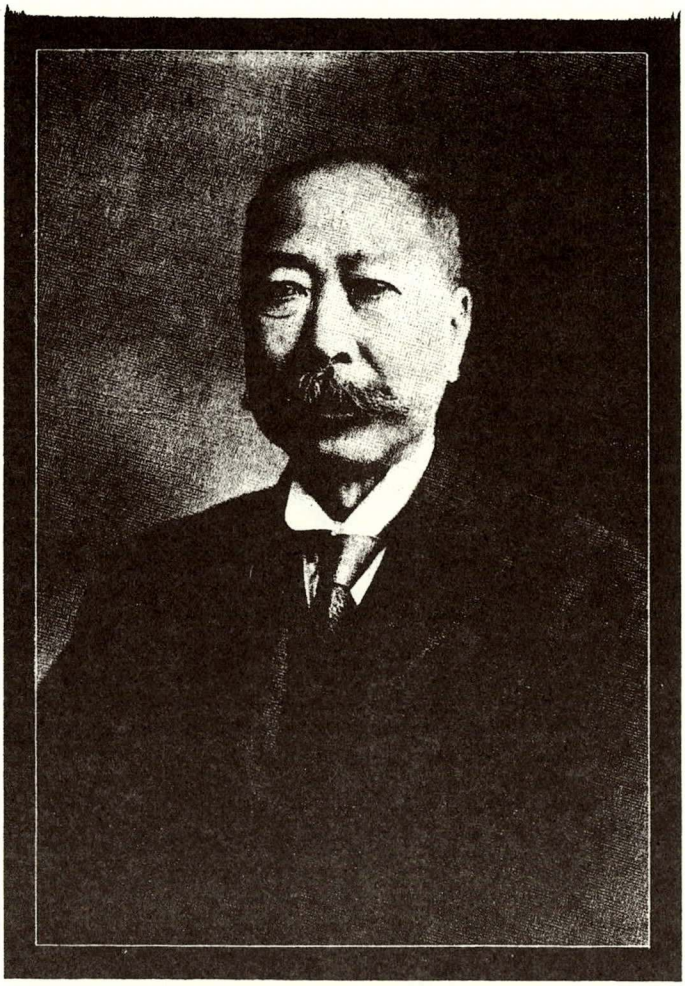
## 本誌定價表

| 本誌 | 冊數 | 定價 | 郵稅 |
|---|---|---|---|
| | 一冊 | 七拾五錢 | 貳錢 |
| | 十二冊 | 九圓 | 貳拾四錢 |


昭和二年四月廿一日印刷
昭和二年五月一日發行（每月壹回一日發行）

發行兼編輯人 大阪市東淀川區中津町一九八番地 江村恒一
兼印刷人 大阪市東區內淡路町一丁目廿一番地
印刷所 大阪活版所
大阪市北區中之島二丁目二十五番地江商ビルヂング
發行所 社團法人 日本建築協會
電話本局四二一九二一番 振替口座大阪三九九七五

特約販賣店 大阪市西區京町堀羽子板橋北 柳々堂書店 電話（土佐堀四四〇番） 振替口座二二〇八四番



故名譽賛助員　片岡直輝氏之照肖

本協會名譽賛助員片岡直輝氏昭和二年四月十三日疾を以て長逝せらるゝに哀悼の至りに禁へす、茲に氏の照肖と略歴とを掲げ謹んで弔意を表す。

氏は安政三年七月三日を以て高知縣高岡郡下半山村に生る明治十一年十二月甫めて海軍主計副に任せられ海軍少主計及海軍中主計に歴任し十九年七月西郷海軍大臣に隨行して歐米各國に派遣せられ二十年六月歸朝す。其功に依り日耳義國「シュツリエードロルドルレオホール」勳章、露西亞國「神聖安那第三等勳章法期亞共和國「オフイシエーダーカデミー」記章を受く。

二十一年再び官命を帶びて佛國に派遣せられ二十四年歸朝二十五年七月內務大臣秘書官に任せられ爾來文部大臣秘書官及大阪府書記官に歴任し從五位に叙せられ幾多の功績を擧けしか二十九年四月官を辭して專ら身を實業界に投し三十年二月日本銀行支配役と爲り大阪支店長を命せらる

爾來北海道鐵道株式會社、九州鐵道株式會社、南海鐵道株式會社、阪神電氣鐵道株式會社、阪堺電氣軌道株式會社、大阪電氣軌道株式會社の取締役社長或は相談役となり我國交通運輸事業に多大の貢献を爲すと共に大阪瓦斯株式會社堺瓦斯株式會社、廣島瓦斯株式會社等の取締役及社長として瓦斯事業の開發に偉大なる功績を貽し傍大阪株式取引所理事に就任し日本郵船株式會社の取締役となり浪速銀行取締役、東洋木材防腐株式會社、大阪織物株式會社、廣島電氣株式會社、猪苗代水力電氣株式會社の取締役と爲り更に中央電氣協會、社團法人電氣協會、大阪工業會等の會長に或は社團法人日本建築協會名譽賛助員に擧げらるゝと共に軍需評議會評議員、臨時財政經濟調査會委員を仰付らるゝ等實に我國實業界の重鎭たり其功に依り大正四年勳四等に叙せられ瑞寶章を授けられ大正九年勅令に依り貴族院議員に任せらる

大正十一年一切の現職を抛ち身を閑地に置き財界の指導者たると共に貴族院議員として國政に參與したりしか客年十二月不幸病を獲て遂に起たす昭和二年四月十三日勳三等に叙せられ旭日中授章を授けられ同日澁焉として逝去せらる

享年七十二歳

## 會合

### 第四部（災害）委員會

日時　昭和二年三月二十二日自午後六時至午後八時十五分

會場　本協會々議室

出席者　委員長　波江悌夫
幹事　池田宮彦　八木幸次郎
委員　土井末吉　黒田茂
臨時委員　大野直平　谷田實
（七氏）

決議事項

一、本會の定例委員會日に關する件
本會の定例委員會日を毎月九日と決定す
但し本年中に於て十月は九日竝度日曜日に相當するを以て前月に之を定む

二、震災調査書蒐集に關する件
今回の震災調査書を三月末日迄に提出することゝし各委員及依囑者に右の趣を通知し依賴することに決す

三、火災時の風位其他調査をなすの件
當市過去に於ける火災時の風位を查し尙當市内の耐火耐震建築物の配置を調査し之等の記錄を作る方針をとることに決定

四、調査委員出張に關し禮狀發送の件
過日調査委員が震災地へ出張したる際宮津町前町長内山廣三氏の配慮を辱ふせり故に會長名を以て禮狀を發送することに決定

### 第二部（敎化）委員會

日時　昭和二年三月二十九日自午後六時至午後八時三十分

會場　本協會々議室

出席者　幹事　池田宮彦　小笠原鋼
委員　安井武雄　松本儀八
酒井勇三郎　澁谷五郎
姫野武（七氏）

議事

一、本夕は古宇田委員長欠席に付小笠原幹事委員長代理となりて議事を進め先づ本委員會なるものゝ審議すべき事項に付て舊時の敎仕委員會の事業と對比して講究をなし次で本委員會に分科を設くるや否や、會員外より臨時委員を依囑するや否や等に付凝議したる結果

一、本委員會は左の二分科と大別することに決定
第一分科　建築敎育に關する事項
第二分科　建築史料に關する事項

一、更に分科委員を左記の通協議の上決定せり尙追加の委員及臨時委員は常務會に囑託方を要求すること
第一分科（建築敎育に關する事項）
古宇田實　井上新二
小笠原鋼　池田谷久吉
松本儀八　酒井勇三郎
姫野武（七氏）
追加委員
大野直平　久保田筆雄（二氏）
第二分科（建築史料に關する事項）
古宇田實　伊藤正文
小笠原鋼　池田谷久吉
澁谷五郎　安井武雄
（六氏）
追加委員
增山新平　高橋清光
菅田登美雄（三氏）
臨時委員
佐藤佐（天王寺師範學校）
橋本耕之助（市民博物館）
松尾茂太郎（大阪府社寺兵事課）

一、本委員會の定例日は協會々會日とす

### 春期大會委員會

日時　昭和二年四月四日（自午後六時至午後八時三十分）

會場　本協會々議室

出席者　委員長　武田五一
委員　小笠原鋼　小川安一郎
大倉直平　永瀨狂三
設樂貞三
理事　片岡安
常務　松室重光　坪井誠一
阪口芳三郎　谷民藏
（十氏）

記事

一、武田五一氏座長座に着き委員長就任に付て簡單なる挨拶あり次で松室坪井兩主記より本年春季大會として京都方面見學旅行を擧行したき常務會の意見及豫算並に前例等に付說明ありて協議に入り種々凝議の結果左の通り決定せり。

一、目的　春季大會として見學旅行を行ふこと

一、日取　四月二十四日の月曜日（晴雨を論ぜず擧行）

一、集合地　京都修學院離宮正門前叡山電車修學院停留場下車東方七八丁

京都府愛宕郡修學院村

一、見學　修學院離宮

一、晩餐會
所……叡山電車八瀨終點柊屋支店
時　午後四時開宴

一、汽車其他乘車賃　自辨のこと

一、會費　金二圓也
（當日離宮正門前にて徽章と引換致します）

一、服裝　離宮拜觀に付不敬に亙らざる服裝

一、回答
1、宮內省へ願出の都合ありますので御出席の有無來る四月十一日正午迄（締切後の御申越に對

しては遺憾ながら御斷り致します）に本協會へ着する樣折返し御回答を煩します。

2、尙御出席の回答ありまして當日御欠席の場合は會費は御負擔を願ひます

一、案內圖　出席の通知のありたる向へ送附のこと

一、委員及常務の役割左の通決定

修學院案內係　武田五一　池田谷久吉　松本儀八　波江悌夫　設樂三　野呂長四郎　八木幸次郎（七氏）

宴會係　園部文雄　大倉三郎　吉井長次　永瀨狂二　阪口芳三部谷民三（六氏）

庶務係　小笠原銀　德政金吾　小川安一郎　坪誠一　松室重光（五氏）

## 第一部（法制）委員會

日時　昭和二年四月六日（自午後六時至午後八時）

會場　本協會々議室

出席者　委員長　池田　寶

委員　橫濱　勉　竹中　景一　津田　敏雄（四氏）

記事

一、前回委員會に於て決定せし分科設置に付て豫め囑託する委員の諾否に付其內意を委員長より照會したる結果成案を得たるを以て四月十一日の常務會に對し委員囑託方を要求したる上愈々分科設置のことに決定せり

一、常務會より分科委員囑託の書面を發する際同時に第一回會合の日取左の通り通知のことに決定

第一、二、三、分科は四月十八日（月）午後五時半

第四、五、六分科は四月二十一日（木）午後五時半

## 新入會者

會員

脇永　一雄君　港區桂町二ノ二六

龜井幸一郎　東成區今市町九八七

舟橋　俊一君　港區鶴町四ノ一八二

行弘謙二郎君　兵庫縣武庫郡今津町山中五四七

普通贊助員

田中庄太郎君　西區北堀江御池通一ノ二

酒井　清一君　西區立賣堀南通一ノ三三

出口　幸三君　北區曾根崎上四ノ二三

## 退會者

會員

前田　清二君　石井　宏爾君

普通贊助員

棚橋仁三郎君　橫井　健介君

## 死亡

名譽贊助員　片岡直輝君　昭和二年四月十六日逝去

## 轉勤轉居

會員

山崎　節治君　岡山縣都窪郡中州村酒津大林組倉敷出張所

山上　正吉君　東京市麴町區八重洲町一ノ一、三菱倉庫株式會社

安藤伊右衛門君　神戶市港區菊水町八ノ六八ノ八

中島　二郎君　兵庫縣川邊郡川西町寺畑北平井二

村田　哲男君　港區尻無川北通二ノ一

八尾　眞藏君　東京市日本橋區本石町四ノ一大阪橋本組東京支店內

新海　正綱君　東淀川區國次町三一一

足立圓次郎君　府下豐能郡豐中町櫻塚一一八〇

井上　新二君　都市計畫兵庫地方委員會技師

山本　久吉君　府下泉北郡上條村助松八六五ノ八

田中　勝君　橫濱市南太田町一七五八

塩多計士君　兵庫縣武庫郡御影町郡家二五七ノ一

中村　庸二君　東京市日本橋區蠣殼町一ノ一

坂口　正雄君　神戶市平野町下三條町三〇一坂口方

普通贊助員

大久保榮藏君　東京市麻布區坂下町二三

野溝　錄郎君　西區靱中通一ノ二〇

高橋　義隆君　西區立賣堀南通二丁目長瀨商店建築場竹中工務出張所

小田　周次君　東京府下平塚町小山一二四、黑田二郎方

玉川　芳夫君　山形縣西置賜郡荒砥町玉川方

堤　越郎君　兵庫縣武庫郡芦屋三條西眞手一三六

邊野　登君　橫濱市神奈川區越町一八九五

影山　丈夫君　港區石田布屋町三ノ一三九

吉崎源三郎君　港區南境川町二ノ二〇

北川　安成君　東區十二軒町一九、木寸建築事務所

鈴木　定吉君　東京市麴町區大手町、農林省經理課建築課

伊藤　康雄君　西淀川區御幣町四三二

## 住所不明者

左記人々の現住所御存知の方は本會宛御

通知を乞ふ。

普賛　大野　喜作君
同　高松　秀行君
同　山口　謙藏君

## 紹介

今回建築學會に於いてパンフレットを發行するにつき左の通り依頼がありました

昭和二年四月十五日

建築學會

日本建築協會御中

拜啓時下春暖之候貴會益々御隆昌奉慶賀候

陳者本會に於て建築に關する一般智識の普及向上を計らんが爲めパンフレット刊行を企畫致し今回其第一輯を出版致すこと、相成候に就ては有力なる貴會の御援助を希ふ意味に於て別紙原稿貴會發行の雜誌へ御掲載方何分の御配慮相願度此段御依頼申上候　敬具

追而或は既に原稿御締切期日を經過致居候かと被存候得共特別の御配慮を以て五月壹日御發行の貴會雜誌にて御紹介相願はれれば幸甚に候猶又廣告中に御繰入被下候樣ならば乍勝手無料に御取計ひ方相願度候

パンフレット刊行に就て

本學會は、從來、刊行物による學術上の發表を、すべて建築雜誌にのみ限つてゐましたが、今や斯會の情勢に鑑み、更らに一段進出の須要なるを思ひ茲にパンフレット刊行を企てます。之はつとに本學會事業計畫委員會によつて立案せられた所でありますが、敢て之をなす所以のものは、建築雜誌を以てする形式乃至型態に於て、目下不便を感じつゝある點を之によつて補はんとするにあります。すなはち、其特有なる任務は、高級なる建築常識を輕便なる單行本の形式によつて、極めて簡易に且つ廉價に提供し、かくて建築雜誌と相俟て、ひろく建築全般にわたる智識の普及に資すると同時に、亦パンフレット自身獨立にても、別に特色ある所の使命を果さしめんとするにあります。本學會は之によつて學會の斯界に於ける指導的地位と責務とを更に一層具体化する所あるを期するものであります。會員諸君はもとより、廣く斯界一般の愛讀を切望する次第であります。

建築學會パンフレット第一輯内容目次

題目　執筆者

一、東京市の小學校建築一般
　東京市技師
　工學士　古茂田由午郎君

一、鐵筋コンクリート構造施工指針
　鴻池組取締役
　工學士　福永佐和吉君

一、フエスト・プンクト・メトーデ解説
　復興局技師
　工學士　伊部　貞吉君

一、海外に於ける建築界の趨勢
　東京帝國大學助教授
　兼技師　工學士　岸田日出刀君

一、同
　早稲田大學助教授
　早稲田工學士　今井　兼次君

一、建築施工用機械設備に關する事項
　清水組技師
　工學士　富永　長治君

一、建築請負制度並に契約に關する事項
　出浦建築事務所主
　工學士　出浦　高介君

一、家庭と電氣
　早稲田大學教授
　工學博士　山本　忠興君

一、電灯照明
　東京電氣株式會社
　副參事　技師　内坂　素夫君

一、中央房裝置
　大藏省專賣局技師
　兼營繕管財局技師
　工學士　北浦　重之君

一、衛生設備
　京都帝國大學教授
　工學博士　藤井　厚二君

刊行の順序は必ずしもこれに依らず、尚ほ適宜分冊或は合冊する事があるかも知れません。

頒布規定

一、頒布方法　一輯を十冊とし、本規定に依る申込者のみに頒ち、一冊賣をなさず。
但し既刊の一冊に付き、特に多數の希望者ある場合には、再版頒布することあるべし。

二、刊行期日　毎年一輯（十冊）宛刊行
但第一輯は本年六月より十二月までに全十冊刊行の豫定。

三、体裁　菊版。一冊紙數は三十頁乃至五十頁程度

四、購讀申込　申込と共に全十冊分代金參圓（郵稅共）を御拂込みのこと。
但し第一項但書による一冊賣代金は追て決定のこと。

五、申込期日　第一輯申込は來る五月末日限り。

昭和二年四月

建築學會

東京市麹町區永樂町一丁目一番地
（丸ノ内ビルヂング五階五二五區）
振替口座東京一七一八七番

## 役員

| | | |
|---|---|---|
| 會長 | 理事 | 片岡安 |
| 副會長 | 理事 | 宗兵藏 |
| 副會長 | 理事 | 日高胖 |
| | 監事 | 横濱勉 |
| | 監事 | 松本禹象 |
| 主記 | 常務 | 坪井誠一 |
| 同 | 常務 | 松室重光 |
| 同 | 常務 | 阪口芳三郎 |
| 主計 | 常務 | 德政金吾 |
| 同 | 常務 | 吉井長七 |
| 同 | 常務 | 谷民藏 |
| 編輯 | 常務 | 池田谷久吉 |
| 同 | 常務 | 波江悌夫 |
| 同 | 常務 | 野呂長四郎 |
| 同 | 常務 | 八木幸次郎 |

## ●第一〇集　第五号　掲載広告一覧（掲載順）

大野正営業所
伊奈製陶
永柳商店
品川白煉瓦
東京建鉄大阪支店
笹岡家具装飾店
関西建鉄製作所
浅野スレート
日本エレベーター製造
内外土木建築材料
東亜ペイント
日本ペイント製造
三井物産大阪支店
雪岡工作所
湯浅伸銅
長瀧商店
駒井商店
沢田
大阪建材商会
東洋鉱粉所
中村グラニット商会
大阪電気分銅

大理石工業
桃尾セメント工業所
東洋コンクリート工業
関西ペイント
三菱商事
橋本庭園装飾店
西村建築
森川組
飾磨化学工業
出浦建築事務所
橋本建築事務所
大阪建築相談所
池田建築事務所
小笠原建築事務所
岡部建築事務所
大阪建築所
和田建築事務所
横河工務所
片岡建築事務所
吉武建築事務所
竹内建築事務所
宗建築事務所

野村一郎事務所
国枝工務所
安井建築事務所
増田清建築事務所
真水工務所
真水三橋建築事務所
南建築事務所
設楽建築事務所
西原衛生工業所大阪支店
池田勘蔵
大倉土木大阪出張所
大阪橋本組
大林組
亀谷開作
竹中工務店
中新
佐伯組
野村組
久保田組
熊取谷熊次郎
松村組
藤木工務店
正木工務店
岡本工務店

鴻池組
有山組
駒井喜商店
安藤組大阪出張所
辰巳吉之助
森本建築社
清水組大阪支店
銭高組
木村工務所
山田大理石製作所
有雅琢美堂
日本鑿泉
金谷鉄工所
日本塗装工業
大塚鉄工所
SO商会
須賀商会
大阪耐火リノリウム工業
坂本商会大阪出張所
栄進社
デウエット商会
大阪鉄扉製作所
新田ベニヤ製造所
島貿易

野沢幸三郎商店
高島屋呉服店
日本工剤
佐治タイル
東亜鉄工所
穴原商会
三菱造船神戸造船所
佐久間建材工業所
大阪製鎖所
玲光社
米本商店
南満鉱業
浅野物産
油脂化工社
日本洋瓦大阪出張所
阿部鉄工所
日本建築紙工
田村商会
日本スレート販売
大平工業所
宮田鉄工所
伊丹商店
大阪窯業
山本東作商店

---

日本セメント防水剤製作所
桐田商会
矢橋大理石商店
浅海商店
山本窯業商店
木下謹三商店
カールツアイス
松本商店
政正
トーペー、アンド、ダート、ペイント会社
東洋サッシュ製作所
小野田セメント
建築金物商会

---

---